

京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進事業 【小規模ミュージアムのDX推進に関するレポート】

KYOTO地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会
(事務局：京都府文化生活部文化政策室)

令和8年6月

目次

0. 本レポートについて	p.03	3. <u>文化遺産オンライン登録の概要</u>	
1. <u>本プロジェクトの概要</u>		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. <u>全体研修の概要</u>	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. <u>現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)</u>		(2) 各講義概要	p.145
(1) <u>全施設共通事項</u>	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) <u>京都府立丹後郷土資料館</u>	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) <u>大山崎町歴史資料館</u>	p.38	5. <u>データ利活用プランの提言</u>	
(4) <u>向日市文化資料館</u>	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) <u>与謝野町立江山文庫</u>	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) <u>与謝野町立古墳公園はにわ資料館</u>	p.68	6. <u>次年度以降の方向性について</u>	
(7) <u>舞鶴市立赤れんが博物館</u>	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) <u>舞鶴市郷土資料館</u>	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) <u>京都府立堂本印象美術館</u>	p.99	本事業の成果 (数値) ※頁再掲	
(10) <u>亀岡市文化資料館</u>	p.111	(1) <u>全11施設の資料デジタル化</u>	p.136
(11) <u>京丹後市立郷土資料館</u>	p.121	(2) <u>デジタル資料の公開</u>	p.140
(12) <u>京丹後市立丹後古代の里資料館</u>	p.123		

本レポートの制作にあたり

本レポートは、「京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進業務」の受託事業者である大日本印刷株式会社（以下、DNP）が作成した成果物をKYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会※が公開用に加筆・整理したものの。

小規模ミュージアムと行政が「0からデジタルアーカイブに取り組んだ記録」。

- 1 本プロジェクトにおける研修や各参加施設での撮影、デジタル化の取組についての記録
- 2 参加施設が実施した取組内容やノウハウ、課題をありのままに記載、撮影に関する機材等の仕様やセッティング、工夫についても可能なかぎりわかりやすく記載。
- 3 事務局（京都府文化生活部文化政策室）、事業者、各参加施設、有識者が協議を行い、DX推進に係る方向性や活用の提案を盛り込む。

※KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会

京都府ミュージアムフォーラムの地域連携プログラムを実施するため、京都府立丹後郷土資料館を中心とし、各地域のミュージアムで構成する実行委員会。

事務局は、京都府文化生活部文化政策室が担う。京都連携デジタルアーカイブ事業では、「一館でも多く、一点でも多く」を合言葉に資料デジタル化・公開・活用実践に取り組む。

0. 本レポートについて	p.03	3. 文化遺産オンライン登録の概要	
1. 本プロジェクトの概要		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. 全体研修の概要	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. 現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)		(2) 各講義概要	p.145
(1) 全施設共通事項	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) 京都府立丹後郷土資料館	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) 大山崎町歴史資料館	p.38	5. データ利活用プランの提言	
(4) 向日市文化資料館	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) 与謝野町立江山文庫	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館	p.68	6. 次年度以降の方向性について	
(7) 舞鶴市立赤れんが博物館	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) 舞鶴市郷土資料館	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) 京都府立堂本印象美術館	p.99		
(10) 亀岡市文化資料館	p.111		
(11) 京丹後市立郷土資料館	p.121		
(12) 京丹後市立丹後古代の里資料館	p.123		

1. 本プロジェクトの概要（1）本事業の取組方針

下記の取組方針に基づき、事業を推進。

京都府内11施設と連携し、対話を重ねながら研修や資料のデジタル撮影を進めることで、DXへの理解と意識を育み、持続可能な推進体制の構築を支援する
この取組を通じて、「一館でも多く、一点でも多く」デジタルアーカイブの活用基盤を整え、地域文化の未来像を共に描く

背景：

改正博物館法（令和5年4月1日 施行）
博物館の役割として「資料の電磁的記録の作成・公開」「人材育成」「館間連携」「地域活性化」が明記された

文化庁 Innovate MUSEUM事業
博物館資料のデジタルアーカイブ化とその活用を通じて、地域文化の持続可能な基盤整備が求められている

課題：

現状、多くの小規模ミュージアムでは「人手」と「撮影・デジタル化のノウハウ」が不足しており、モチベーションのばらつきや所有機材・撮影技術レベルに差がある

- ・学芸員は日常業務が多忙。デジタル化＝負担増という印象を持ちやすい
- ・デジタルアーカイブ業務への意欲に差があり、事業の目的や意義の共有が十分でない
- ・保有機材は種類・性能が様々、撮影技術の習熟度も施設ごとに異なる
- ・小規模ミュージアム単独での予算化や作業が困難
- ・デジタル化の「先にある成果」が見えづらく、研修の目的が「作業」になってしまう懸念
- ・成功事例の提示がないと、施設での活用イメージが湧かない

本業務の目的：

撮影技術の標準化と人材育成により、参加施設が無理なく、自走可能なミュージアムDX推進体制を構築

参加施設のモチベーションの底上げ

- ・「デジタル化の目的＝博物館を「望ましい姿」に近づけ、変えていくこと」を納得できる形で伝える
- ・各施設の役割や可能性を明確にし、自らも手を動かしていただくことで「自分ごと化」を促す

所有機材の有効活用と技術の標準化

- ・各施設の所有機材を活かした撮影方法を紹介し、自立的な運用を支援
- ・小規模ミュージアム連携による資源・ノウハウの共有による効率化と相互協力する体制づくり

意識変革を促し、次の挑戦につなぐ

- ・さまざまな実用事例を通じて、デジタル化で得られる成果や社会的価値を具体的に示す
- ・参加施設の学芸員や職員が「自分たちでもできる」「やってみたい」と思える未来像を描く

望ましい姿：
(未来像)

Step 1

デジタルアーカイブ活用基盤整備

地域の歴史・文化の可視化
文化資源の創造的（創作）活用アイデアの創出

Step 2

地域でのデジタルアーカイブ活用促進

地域資料の統合的な公開
学校教育との連携強化

地域住民参加型アーカイブの構築
連携によるデジタル化の効率化

Step 3

ミュージアムDXの推進

博物館利用者の体験価値の向上
博物館業務の効率化

1. 本プロジェクトの概要（1）本事業の取組方針

参加施設の現状把握を踏まえた“寄り添い型の実地研修”を行うことで、学芸員や職員の理解と共感を高め、全体研修を通じて、さらに継続的な活動へつなげる意欲を喚起した。



1. 本プロジェクトの概要（2）業務遂行体制

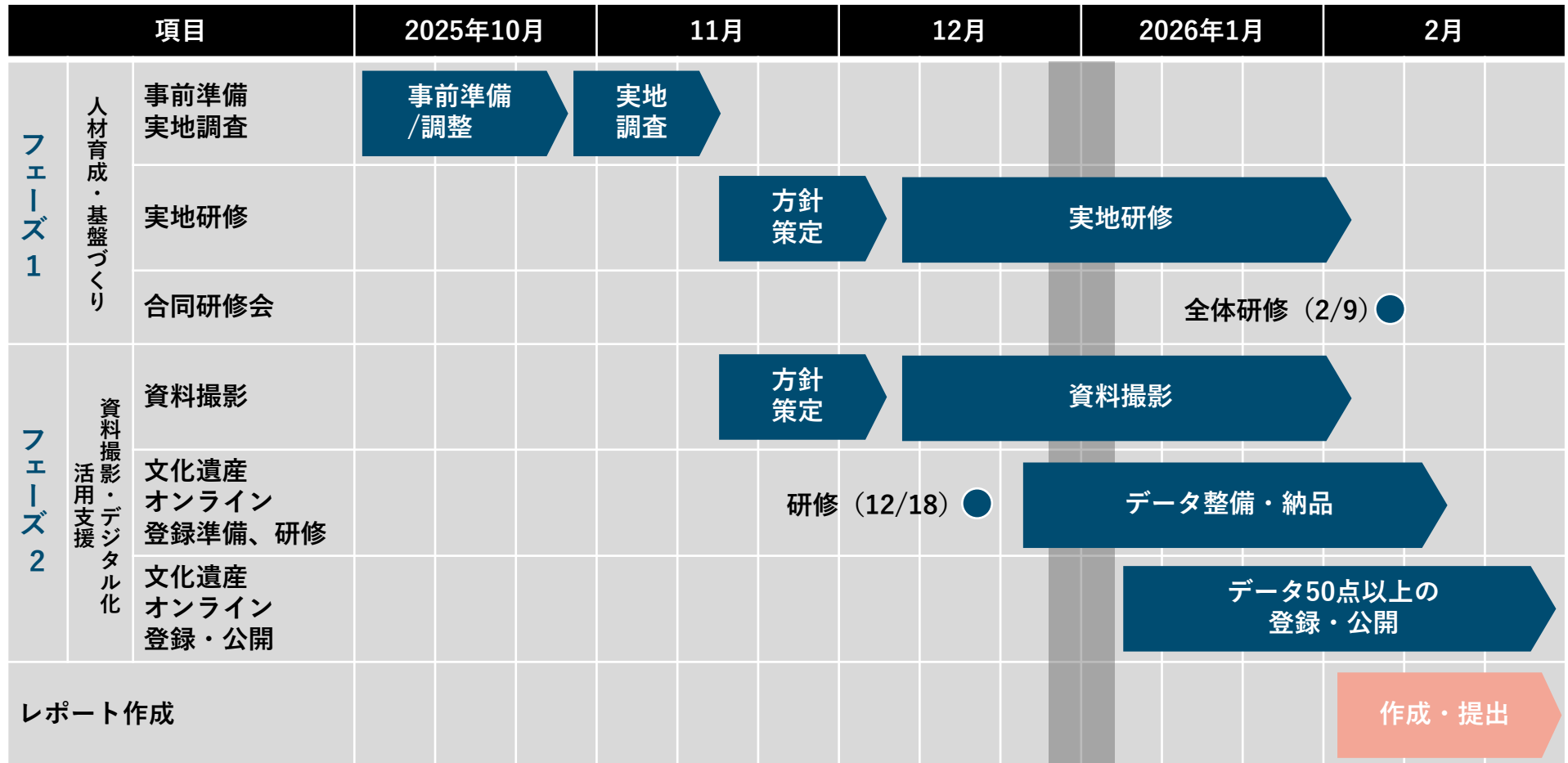
事業期間の中で役割分担を明確化し、実行委員会との定例会議や日々の業務報告による進捗共有を徹底することで、予定通り本事業を完遂した。



1. 本プロジェクトの概要（3）全体スケジュール（受託業務）

10月末から実地調査を開始し、2025年12月中旬から2026年2月末までの間に、実地研修・資料撮影を同時進行で実施。各施設による文化遺産オンラインへの50点以上登録に向けた研修も行い、2026年2月には全体研修を実施。それらの結果及び提案をまとめたレポートを制作。

（事務局：2025年5月に参加施設の体制構築、6月に文化庁補助事業に申請、7月採択、9月にプロポーザル実施、10月に事業者決定。）



0. 本レポートについて	p.03	3. 文化遺産オンライン登録の概要	
1. 本プロジェクトの概要		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. 全体研修の概要	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. 現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)		(2) 各講義概要	p.145
(1) 全施設共通事項	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) 京都府立丹後郷土資料館	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) 大山崎町歴史資料館	p.38	5. データ利活用プランの提言	
(4) 向日市文化資料館	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) 与謝野町立江山文庫	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館	p.68	6. 次年度以降の方向性について	
(7) 舞鶴市立赤れんが博物館	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) 舞鶴市郷土資料館	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) 京都府立堂本印象美術館	p.99		
(10) 亀岡市文化資料館	p.111		
(11) 京丹後市立郷土資料館	p.121		
(12) 京丹後市立丹後古代の里資料館	p.123		

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：対象施設

考古・歴史・民俗・文学・美術を、それぞれの地域の特色に根ざして伝えるミュージアム11施設を対象に、事前の実地調査を実施の上、実地研修・撮影を完了。

1. 対象施設（実地調査・実地研修の日程）

	施設名	住所	実地調査	実地研修/撮影
1	京都府立丹後郷土資料館	京都府宮津市字国分小字天王山 611-1	2025 11/13	2025 12/9～12、 2/20
2	大山崎町歴史資料館	京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字竜光 3 番地	2025 10/29	2025 12/22～24
3	向日市文化資料館	京都府向日市寺戸町南垣内 40-1	2025 10/30	2026 1/6～9
4	与謝野町立江山文庫	京都府与謝郡与謝野町字金屋 1682 番地	2025 11/10	2026 1/12～14
5	与謝野町立古墳公園はにわ資料館	京都府与謝郡与謝野町字明石 2341	2025 11/10	2026 1/14～15
6	舞鶴市立赤れんが博物館	京都府舞鶴市字浜 2011 番地	2025 11/12	2026 1/18～21
7	舞鶴市郷土資料館	京都府舞鶴市字南田辺 1	2025 11/12	2026 1/20～22
8	京都府立堂本印象美術館	京都府京都市北区平野上柳町 26-3	2025 10/29	2026 1/27～30
9	亀岡市文化資料館	京都府亀岡市古世町中内坪 1 番地	2025 11/14	2026 1/29～31
10	京丹後市立郷土資料館	京都府京丹後市網野町郷 55 番地	2025 11/11	2026 2/3～6
11	京丹後市立丹後古代の里資料館	京都府京丹後市丹後町宮 108 番地	2025 11/11	2026 2/3～6



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地調査での確認事項

全11施設において実地調査を実施し、各施設が撮影したい資料や撮影環境、本事業に対する各施設の意欲や要望等を確認。

2. 実地調査での確認事項

1. 撮影対象資料の確認

- ・ 資料現物を確認しながらデジタル化希望資料リストのすり合わせ
- ・ 資料の状態（保存状況、取り扱いの注意点など）
- ・ 撮影に適した資料の優先順位づけ
- ・ 実地研修用資料の選定

2. 実地研修含む撮影環境の確認

- ・ 撮影スペース（広さ、照明、電源など）
- ・ 撮影に使用可能な机、台、背景などの備品
- ・ 実地研修中、資料撮影中のご同席者、人数

3. 実地研修含む所有機材の確認

- ・ カメラ、三脚、パソコンなどの有無と性能
- ・ その他、撮影に使用可能な機材の種類と状態
- ・ 機材の操作に慣れている学芸員の方の有無

4. 学芸員の方の思い、考え方

- ・ 実地研修に向けたご期待やご不安

5. 施設の課題やご要望

- ・ 撮影や登録に関する技術的・人的課題
- ・ 研修や支援に対する具体的な要望
- ・ 他施設との連携に対する考え方



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修・資料撮影方針

全11施設への実地調査の結果を踏まえて、実地研修と資料撮影を約2カ月弱で完結させるための方針を以下の通り策定。

2. 実地研修・資料撮影方針

- 全施設のスケジュールをおよそ2カ月弱の期間に落とし込み

1施設あたり、実地研修1.5日＋撮影2日 計3.5日で実施

- 施設で選定された撮影対象資料の特徴を分類

6つに大別 (①平面、②平面大、③平面特大 / ④立体、⑤立体大 / ⑥特殊)

- 規定の撮影点数(50点以上)確保のための実地研修・資料撮影手順を策定

**分類した資料の撮影に必要な機材を現地に持ち込み、
施設担当者との協議の上、研修と撮影の流れを組み立て**

実地研修

- 施設担当者が扱いやすいコンパクトな資料を中心にNPO法人フィールドの指導の元で撮影

資料撮影

- 実地研修では対応しづらい大型、特殊な資料を中心にDNPが撮影
(実地研修では簡易に資料に光を当てるだけであったが、テクスチャー、形状にあわせて光質や陰影をコントロールし、マルチに対応)

- 納品画像仕様

Raw、JPEG(2,400万画素以上)、リサイズJPEG(文化遺産オンライン登録用)

- 資料の扱い

事業者は文化財(撮影対象となる資料)には一切触れず、実施ミュージアム対応とした。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修・資料撮影方針

2. 実地研修・資料撮影方針

1. 全般

- ・大切な資料を毀損しない為、また、撮影の進行スピードに影響を及ぼすことから、DNPは撮影対象となる資料には一切触れない
- ・各施設での実地研修・資料撮影を行うにあたり、傷害保険および損害賠償責任保険に加入

2. 資料ごとの撮影方法

- ・立体資料は1資料につき2カットの撮影を基準
(※仕様書：立体資料は1資料につき2カットの撮影を基準とし、参加施設と協議の上、決定・実施すること)
- ・書物（複数ページあるもの）：閉じた状態で1カット+中面の特徴的なページ（部分）で1カット 計2カットを撮影
- ・巻物：収納状態で1カット+中面の特徴的なページ（部分）で1カット 計2カットを撮影
- ・巻物（特大）：作業効率を高めるため、フォトステッチは利用しないので対象外（※1）

※1：実際は施設担当者の要望も多かったため作業進捗に影響が出ない範囲でフォトステッチ対応を実施した（p.19参照）

3. 納品画像の仕様

- ・画像サイズ：2,400万画素以上（トリミング前）
- ・トリミング：都度確認（実地研修および撮影時に、施設担当者に確認）
- ・色調調整：ホワイトバランスを調整。チャート（18%グレーカード）（※2）を使用して撮影
- ・画像処理については画像修正は行わず、画像の現像・色調調整・トリミングを行う
- ・画像のファイルネームは施設ごとに確認（※仕様書：画像には発注者の指定する名前を付けて納品すること。）
- ・文化遺産オンラインの登録用画像サイズは長辺900ピクセル
 ※2：露出とホワイトバランスの「基準値」を作るための備品。資料と共に撮影し、適正に写るよう調整することで、再現性のある・客観的な撮影条件を構築できる

画像形式	トリミング	ホワイトバランス	画素数
Raw	生データ	生データ	生データ
JPEG	トリミング無し	調整済	2,400万画素以上
リサイズJPEG ※文化遺産オンライン登録用	トリミング済み	調整済	長辺900ピクセル

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修・資料撮影方針

2. 実地研修・資料撮影方針

4. 撮影方法の分類 ライティングパターンに応じた撮影可能サイズを下記の通り規定

	左右2灯 (トップライト有)	左右2灯	左右4灯	片光
平面	A0 (118.9cm × 84.1cm) 以下			
平面 (大)	-	-	160cm × 100cm以下	-
立体	1辺の最大サイズ60cm以下			

5. 撮影対象の分類 撮影対象をサイズや材質ごとに下記の通り分類

分類	サイズ・材質
平面	A0(118.9cm x 84.1cm) 以下
平面 (大)	160cm x 100cm 以下
平面 (特大)	「平面 (大) 以上のもの
立体	1辺の最大サイズ60cm 以下
立体 (大)	「立体」 以上のもの
特殊 (平面 & 立体)	金箔、ガラス、フィルム、光物など、材質及び形状により分類されるもの

6. 施設ごとのライティング方法 実地調査を踏まえて大まかな分類を下記の通り設定

	左右2灯 (トップライト有)	左右2灯	左右4灯	片光
①京都府立丹後郷土資料館	●	●		●
②大山崎町歴史資料館		●		
③向日市文化資料館		●		
④与謝野町立江山文庫				●
⑤与謝野町立古墳公園はにわ資料館	●			
⑥舞鶴市立赤れんが博物館	●			
⑦舞鶴市郷土資料館				●
⑧京都府立堂本印象美術館		●		
⑨亀岡市文化資料館				●
⑩京丹後市立郷土資料館				●
⑪京丹後市立丹後古代の里資料館				●

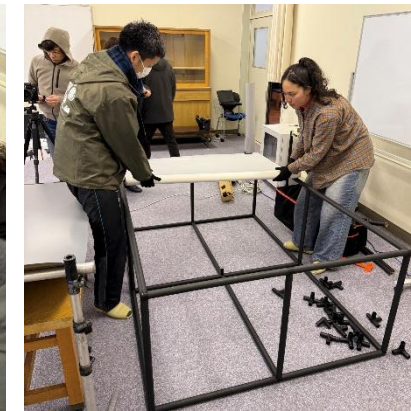
2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修の概要

NPO法人フィールドより、各施設担当者へ撮影の基礎知識を座学で伝えた上で、低コスト・高品質な撮影を行うための考え方や手法を体験する機会を提供。
また、既に撮影機材を保有する施設に対しては使い方をレクチャーし、実践的な撮影も実施。

3. 実地研修のプログラム概要

スケジュール

DAY1	0.5日	事前打合せ 研修準備	<ul style="list-style-type: none">・施設担当者と打合せ・撮影資料確認・座学・紙管フレーム組立・撮影機材セッティング
DAY2	1日	研修	<ul style="list-style-type: none">・撮影機材説明・平面や立体物の資料撮影・撮影データ加工・使用ソフトウェア説明



▲紙管フレーム組立の様子



▲座学



▲研修後の資料撮影の様子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修の概要

4. 実地研修での主な使用機材

カメラ		NIKON Z8	三脚		Velbon ジオ N640	ライト フレーム		紙管 フレーム
レンズ		NIKKOR Z 24-70mm f/2.8 S II	ギア ヘッド		SUNWAY FOTO GH-PRO II	ディフューザー ※1		ディフュー ジョンペー パー
		NIKKOR Z MC 105mm f/2.8 VR S	PC		ノートPC	ケージ ※2		
ライト		GODOX LA200D	モニター		ASUS ProArt Display OLED PA32UCDM	バック紙		グレー ホワイト
		オパライト	カメラ スタンド		SFC	その他 備品	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーカード ・クランプ ・マスキングテープ（白/黒）等 	

※1 ディフューザー：光を柔らかく拡散させ、均一な明るさを生み出すための備品

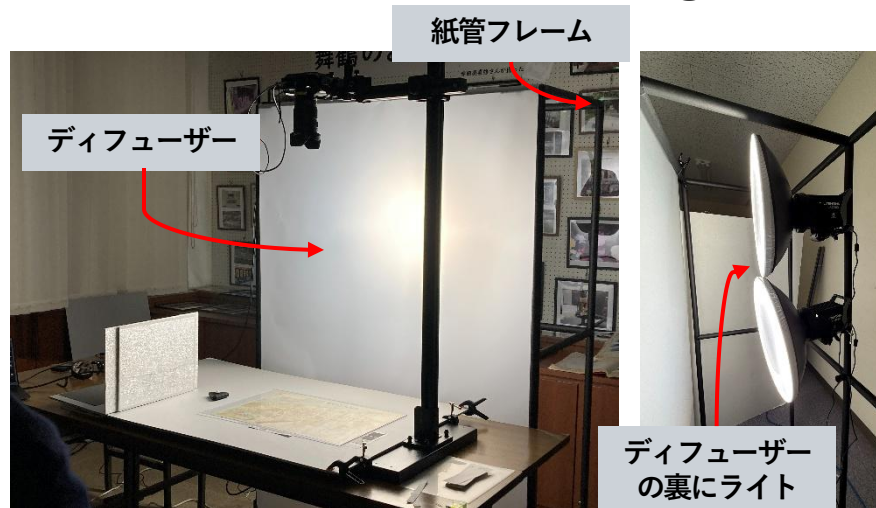
※2 ケージ：様々な外部アクセサリを取り付けて、カメラ機能の拡張性を高めるための備品

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修の概要

実地研修では、撮影ミスを防ぎ、撮影時間を短くする方法として、フェザーライトやテザーモード撮影を取り入れ、撮影体験を通じて、利点を施設担当者と共有。

5. 実地研修での撮影セット

フェザーライト (Feathered Light)



紙管フレームにディフューザーを貼り、ライトを取り付けることで、光源を直接被写体に向けず、光のエッジ部分を利用して柔らかく拡散した光を撮影対象に当てる方法。高価な機材を必要とせず、光源の位置と角度を簡単にセットするだけで、効果的な結果が得られることが特長。設置方向を変えたり、ライトフレームを2台に増やしたり、環境構築を工夫することによって、仏像・軸物・工芸品など多彩な撮影対象に適合させることができる。

テザーモード撮影

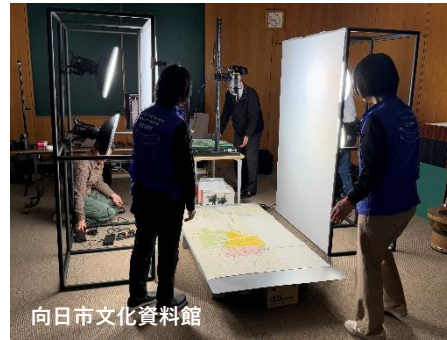
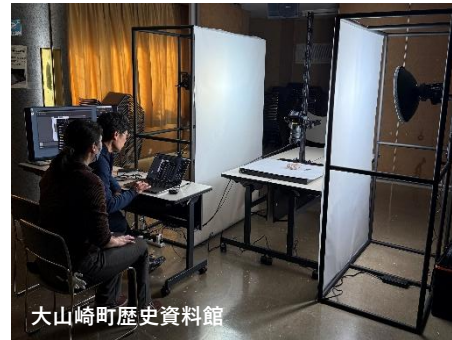


PCとカメラをUSBケーブルなどで接続し、撮影した写真をその場で即座にPC（および、PCに接続された大画面モニター）へ表示しながら撮影する方法。通常はカメラに付属しているソフトウェアを使用し、シャッターを押すだけでなく、ピント合わせや露出などの設定も可能。撮影画像を複数人で確認することで撮影ミスを防ぎ、資料のセッティングにおいてもオペレータの負担が劇的に少なくなる。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修の概要

6. 実地研修での撮影セット例

※撮影セットの詳細は各施設の「撮影環境」ページを参照

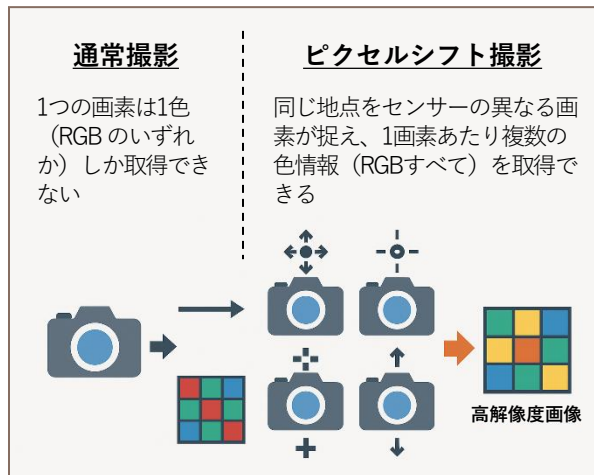


2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修の概要

カメラと付随ソフトウェアの機能を活用したピクセルシフト撮影やフォーカスシフト撮影のほか、フォトステッチでの画像合成処理を行うことで、解像度の高い撮影画像を得ることができた。

7. 実地研修で活用した技術

ピクセルシフト撮影



センサーを微小 (1ピクセル未満) にずらしながら複数枚の写真を撮影。撮影したRaw画像をソフトウェアを使用して合成すると、通常よりも高画質な画像を生成できる。

- ・色情報が完全な (フルカラー) 画素を構築
- ・モアレ・偽色が減少し、細部がより明瞭になる
- ・実質的な解像度が向上

フォーカスシフト撮影

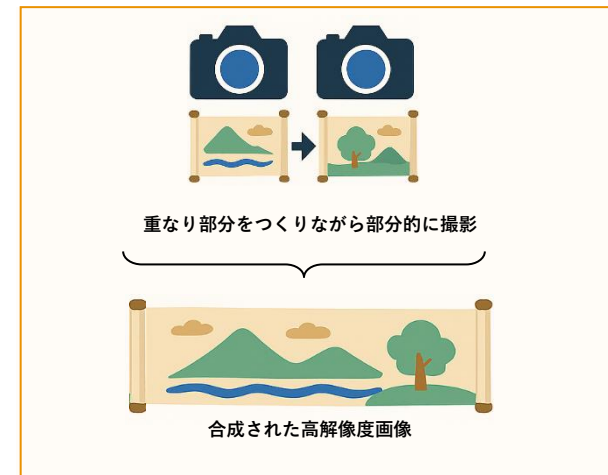


ピント位置を変えながら自動的に連続撮影を行う。ピント面の異なる複数の画像を合成して被写界深度の深い (※) 画像を作成する、深度合成の素材を撮影可能。

- ・マクロ撮影で小さな被写体の全体をくっきり写す
- ・立体物でピントの合った画を作る
- ・深度合成 (Focus Stacking) により高精細画像を作成

※ピントが合って見える範囲が広い状態

フォトステッチ



複数の写真の重なり部分を利用して1枚の広い画像に合成する加工処理。重なり領域は30~50%が理想で、特徴点と言われる、角や模様などを抽出して合成する。

- ・長い巻物や軸を一枚の画像にする
- ・大きな絵図を一枚の画像にする

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：実地研修の概要

8. 実地研修で活用した技術

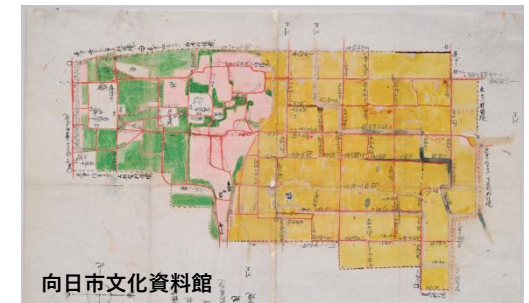
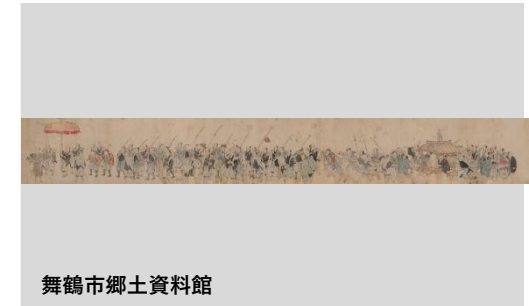
ピクセルシフト撮影 (例)



フォーカスシフト撮影 (例)



フォトステッチ (例)



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：資料撮影の概要

1施設当たり50点以上の資料撮影を完遂する為、効率を最優先に資料の順序を計画。点数を確保した後は、各施設の希望に合わせて難易度の高い資料撮影を実施した。対象ごとに異なるアングルやライティング調整は、撮影手法の広がりを感じた機会となった。

9. 資料撮影のプログラム概要

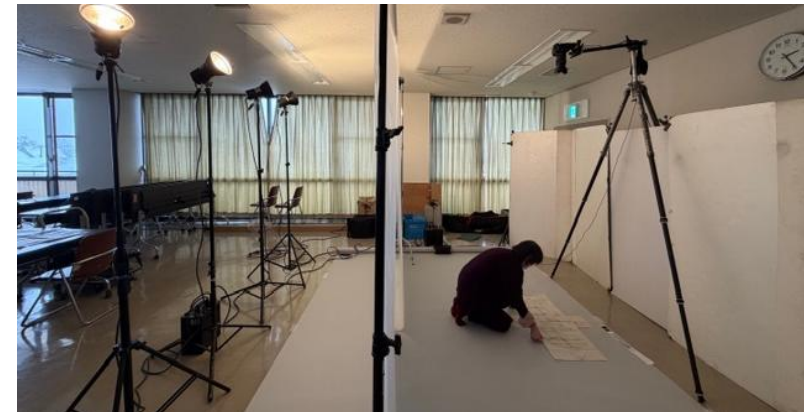
スケジュール			
DAY3	1日	研修から引き続きの資料撮影	<ul style="list-style-type: none">施設担当者と打合せ撮影資料の確認撮影セット単位で、大きい物から順に撮影
DAY4	1日	難易度が高い資料撮影	<ul style="list-style-type: none">前日の残り資料の撮影撮影セットが複雑または照明の難易度が高い撮影



▲ストロボを使用した撮影の様子



▲展示台を利用した撮影の様子



▲三脚+延長ポールを使用した俯瞰撮影の様子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：資料撮影の概要

資料撮影では、どのような資料でも臨機応変に撮影することができるよう、実地研修の機材に加えて以下の機材を用意。必要に応じて機材を入れ替えて撮影を実施した。

10. 資料撮影での主な使用機材

カメラ		Canon 5D Mark IV	三脚		Gitto	ポールシステム		Manfrotto EXポール スーパーク ランプ
レンズ		EF24-70mm F2.8L II USM	ギア ヘッド		Manfrotto ギア雲台	ディフューザー		ディフュー ジョンペー パー
		TS-E50mm F2.8L マクロ	PC		MacBook Pro 13inch	メラミン 化粧板		900mm角 900 x 1800 1200 x 2000
ストロボ		COMET CX2400	モニター		EIZO ColorEdgeCG2 400S(キャリブ レーションセ ンサー内蔵)	バック紙		スーペリア (グレー) 1800mm幅 2700mm幅
		COMET CX24ヘッド	多目的 スタンド		Avenger	その他 備品	<ul style="list-style-type: none"> ・グレーカード ・Fクランプ ・エレンクリップ ・マスキングテープ (白/黒) ・無反射アクリル ・卦算 ・レフ板・黒布・ボード 等 	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：資料撮影の概要

資料を形状・大きさ・材質によって分類し、効率的に撮影を行った。

11. 資料撮影での撮影セット

※撮影セットの詳細は各施設の「撮影環境」ページを参照

平面 (大・特大)



小さな平面資料に関しては、カメラスタンド（複写台）を使用して撮影。
大きな平面資料に関しては、三脚および延長ポールを使用して撮影。

立体



小さな立体資料に関しては、メラミン化粧板を使用した撮影台を使用して撮影。
大きな立体資料に関しては、1,200mm幅のバック紙を使用。
さらに大きな立体資料に関しては、2,700mm幅のバック紙を使用して撮影。

立体 (大)



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1) 全施設共通事項：資料撮影の概要

「特殊」と分類した資料は、個々に合わせた最適な手法で撮影を行った。

12. 資料撮影での撮影セット

アクリル・ガラスケース入額装



アクリル入りの額や、ガラスケースから出すことができない資料は、反射方向に黒布を置くことで映り込みを防止して撮影。

鏡面 (漆)



鏡面



表面が鏡面状の資料に関しては、ディフューザーを映し込み、ライティングを調整する事で質感表現を行った。

額装 (縁影)



額の縁に高さがあり、影が落ちてしまう資料に関しては、両サイドのライトを片方ずつ使用して撮影。画像を合成する事で、影の無い画像を取得。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

京都府立丹後郷土資料館

国史跡「丹後国分寺跡」と、日本三景の一つ天橋立を見おろす絶景の地にある。丹後は古来から日本海交易が盛んで、藤織りや伊根浦の捕鯨など独特の歴史や文化を有している。

資料館は国宝海部氏系図や重文の青龍三年銘方格規矩四神鏡、籠神社経塚出土品などを保管し、敷地内には1840（天保11）年に建てられた、宮津藩大庄屋の旧永島家住宅の母屋を移築し、昔の暮らしがわかる道具類も多数展示している。

1. 京都府立丹後郷土資料館の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：登録博物館
- ◆ 公式HP：<https://www.kyoto-be.ne.jp/tango-m/cms/>

※令和6年7月22日から令和9年秋（予定）までリニューアル工事のため臨時休館中。



▲リニューアル後の
外観イメージ（東南側）



▲撮影場所（みやづ歴史の館）
※本施設は休館中のため
撮影はみやづ歴史の館で実施

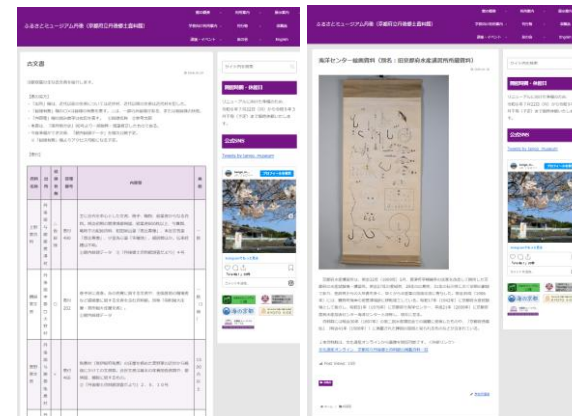
2. デジタルアーカイブの取組み（これまで）

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：なし
※2026年1月30日 公式HPに「収蔵品」ページ追加

- ・ 古文書：表組で公開。
- ・ 美術工芸品、歴史資料：画像とテキストで公開。文化遺産オンラインのリンクも掲載。

◆ 資料の公開その他発信状況：
ウェブサイトにて企画展チラシ、出品目録、刊行した図録を掲載。調査報告書、丹後遺跡めぐりガイドマップ等PDFを公開。
◆ 掲載の頻度：
お知らせは1～2ヶ月で都度更新。



▲公式HP
古文書ページ

▲公式HP
美術工芸、歴史資料ページ



▲令和5年度春季企画展
「ミュージアムヒストリー -
丹後郷土資料館のあゆみ -」

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

現地調査：2025年11月13日（木）実施

◆参加者

- ・京都府立丹後郷土資料館 資料課 [] 氏
- ・京都府立丹後郷土資料館 資料課 [] 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 撮影対象と方法

- ・ハンモク織機は保管場所の体育館で組み立てが必要。
- ・着物、軸、紋紙図面などはみやづ歴史の館へ移動が可能。
- ・みやづ歴史の館で50点以上を撮影確保して、ハンモク織機は2月に別日程で撮影することも検討。
- ・絵馬の赤外線撮影に興味がある。
- ・ガラス乾板も撮影したいと考えている。古写真のカラー化も試してみたい。

2. 課題、今後の展望

- ・デジタルアーカイブの公開はしておらず、まずデータの整理に難航している。
- ・リストと資料、データの照合ができていない。
- ・これからデータベース化して整理していきたい。
- ・デジタルデータにより、コンテンツを強化していきたい。
- ・データベースができれば教育活用もできる。ただし、学校等と連携して利用しやすい資料とそうでない資料がある。データベース的にアーカイブしたものが探究学習等の利用に適するかは異なる。活用目的のもとアーカイブ化しなければ利活用しにくいのではないか。
- ・時間>人材>予算の順でハードルを感じている。圧倒的に人手不足。
- ・実地研修を受けたからと言って、施設職員だけで撮影し続けられるわけではないと思う。



▲収蔵資料（一部）



▲写真場 4F宮津市歴史資料館（休館中）
展示室

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

実地研修 (1日目)

撮影準備、4日間の段取りの確認の後、事前に研修を終えている学芸員に対しピクセルシフト撮影の実習を行った。1日目は掛軸1点のみ撮影。

12月9日 火	Day 1	研修準備日	分類	数量
12:50	集合			
14:30	開始	撮影準備開始		
16:00		事前確認 (進め方等)	平面 (大)	1
17:00	終了・退出	実習 2名 (掛軸)		
			日計	1



▲撮影実習の様子



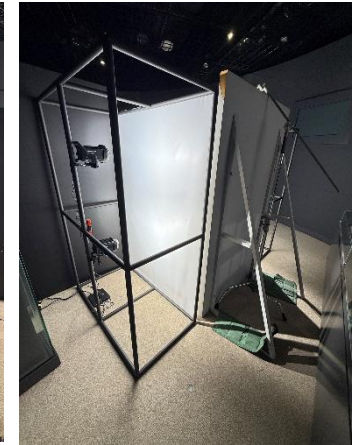
▲写場 (展示室内) 俯瞰撮影台を組み試写



▲撮影準備風景



▲撮影実習 掛軸 吊り撮影



▲吊り撮影セット 背面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

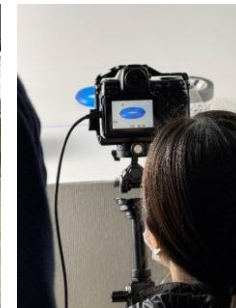
実地研修 (2日目)

資料館職員の2名と宮津市職員の1名の計3名が研修に参加。撮影に関する基本的な考え方を座学にて講習を行い、セッティング済みの機材で実習を行った。フォーカスシフト撮影等の技術を体験するため立体物を撮影。その後、平面の基本的な撮影方法を実習した。

12月10日 水	Day 2	研修日	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備		
9:30		座学 3名(資料館職員2名、宮津市職員1名)		
9:45		実習(ティッシュ箱とスマホを用いた錯視体験) ※9:40~11:00まで機材トラブルのため、中断		
11:00		実習(勾玉/印章/ガラス釧) ※すべて複製品	立体	3
12:00				
13:30	昼休憩再開			
14:00		実習(掛軸7点/紋紙図面12点)	平面・平面(大)	19
17:00	終了・退出			
			日計	22



▲座学



▲撮影実習(ガラス釧)



▲データ確認方法の講習



▲撮影実習 撮影データ確認



▲撮影実習(紋紙図面)
俯瞰撮影



▲撮影実習(紋紙図面)
俯瞰撮影



▲撮影実習(掛軸)
吊り撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影 (3日目)

撮影ブースを2か所に設置、同時並行で撮影を行った。俯瞰撮影では平面資料、吊り撮影では掛軸を撮影。大型絵図も別途大型撮影ブースを設置し、フォトステッチを前提とした撮影を行った。

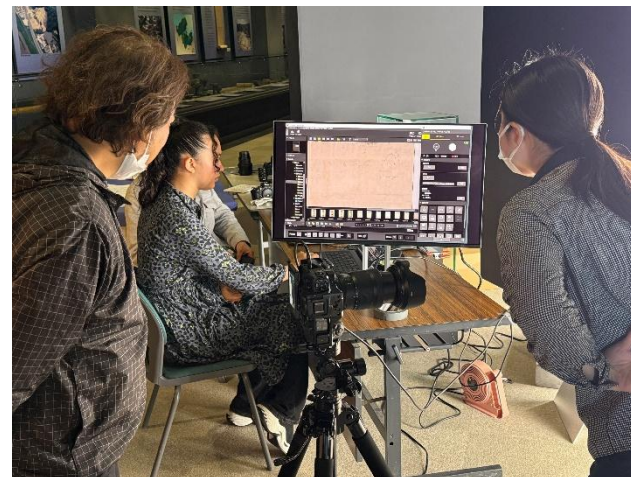
12月11日 木	Day 3	撮影 1 日目	種別	数量
8:50	集合			
9:30	開始	撮影準備 (展示ブースに箇所設置 吊り/俯瞰)		
10:30		撮影 (掛軸5点/引札16点)	平面・平面 (大)	21
12:00	終了 昼休憩 再開			
13:30		撮影 (掛軸30点/大型絵図1点/引札15点)	平面・平面 (大) ・平面 (特大)	46
17:00	終了・退出			
			日計	67



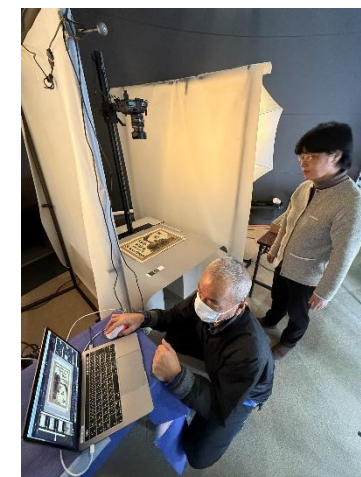
▲2か所に撮影台を組み、分担して撮影



▲掛け軸 吊り撮影



▲撮影したデータを拡大し、細かい文字が判読できるか確認



▲引札 俯瞰撮影



▲反りのある資料には「けさん」を使用

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影 (4日目)

撮影ブースを2か所に設置し民俗資料の撮影を中心に行った。着物は資料の特性に応じたセッティングにて、繊維、柄、表裏の違いが見えるよう複数カットを撮影。俯瞰撮影台では大型絵図の撮影も行った。

12月12日 金	Day4	撮影2日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備		
9:30		撮影 (着物14点/大型絵図1点)	立体 (大) ・ 平面 (特大)	15
12:00	終了 昼休憩			
13:00	再開			
13:30		撮影 (着物6点/大型絵図1点)	立体 (大) ・ 平面 (特大)	7
15:00		～機材 撤収		
17:00	終了・退出			
			日計	22



▲2か所に撮影台を組み、分担して撮影 着物は衣桁を使用し撮影



▲大型絵図 俯瞰撮影



▲着物 俯瞰撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

追加撮影 (5日目・ハンモク織機)

ハンモク織機の下に引かれたグレーのシートを活かし、不足する部分は、2,700mm幅のバック紙でカバーして撮影を行った。周辺に置かれてる部品を避けながら、アングルの調整 及びライティングを行った。

2月19日 木	EX 1	追加撮影準備日	分類	数量
15:00	現地到着	ハンモク織機 組立状況確認 翌日の打ち合わせ		
17:30	終了・退出			
2月20日 金	EX 2	追加撮影日	種別	数量
10:00	集合 開始 昼休憩	撮影準備	特殊	1
12:00		撮影 (メインカット)		
13:00		撮影 (バリエーション)		
14:45	終了・退出	撮影終了～機材 撤収	計	1
15:30				



▲2/19 の組み立て作業



▲組立途中の為 周辺に部品が存在



▲2/20 メインカットの撮影



▲2/20 バリエーションの撮影

撮影した資料点数
: 113点 (231カット)

研修 : 23点/2日

- ・ 歴史資料 (掛軸 : 8点)
- ・ 考古資料 (立体物 : 3点)
- ・ 民俗資料 (紋紙図面 : 12点)

DNP撮影 : 90点/3日

- ・ 歴史資料 (掛軸 : 35点) (大型絵図 : 3点) (引札 : 31点)
- ・ 民俗資料 (着物 : 20点) (ハンモク織機 : 1点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影環境 (写場について)

みやづ歴史の館 4F 宮津市歴史資料館 (休館中) 85平方メートル
展示室前の空間では事後に修正をする前提で自然光の中で撮影



▲宮津市歴史資料館 (休館中)
展示室入り口
展示物を一時的に移動させ
写場として確保

●パターン① ●パターン②



▲撮影実習
(ガラス釧)



▲掛軸 (1日目) ▲着物 (4日目)

●パターン③



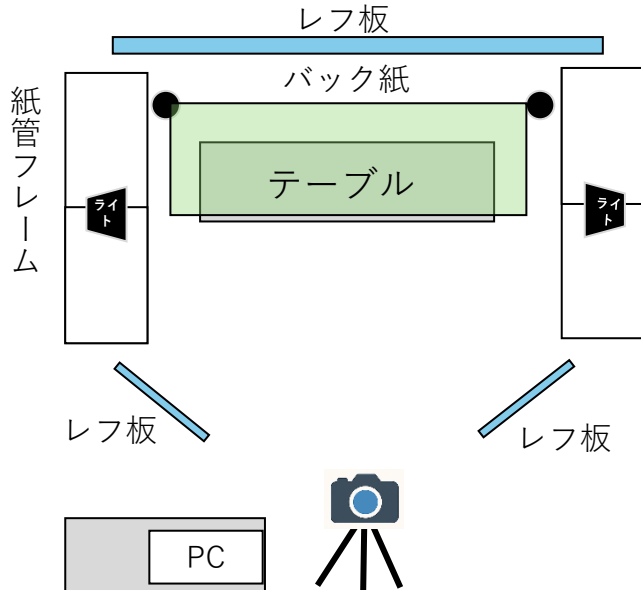
▲紋紙図面 (2日目)
引札 (3日目)



▲大型絵図 (3, 4日目)
着物 (4日目)

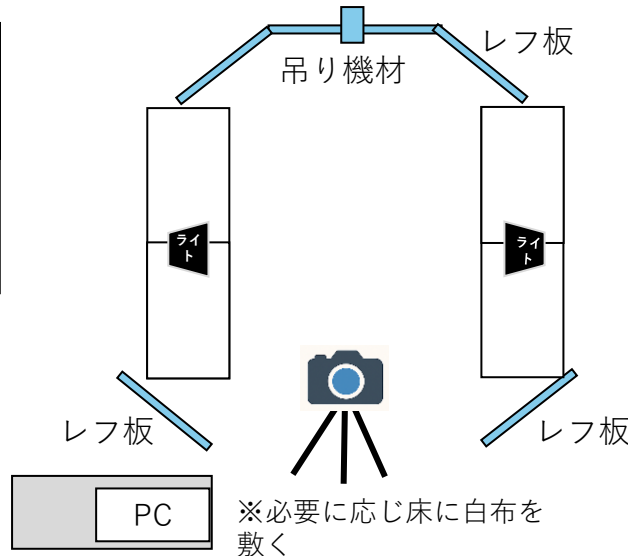
●パターン①

小型立体物の撮影



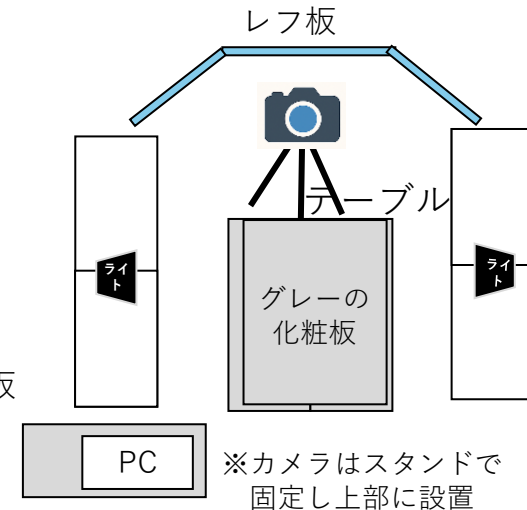
●パターン②

吊り撮影 (掛軸等)
衣桁を使用し着物も撮影



●パターン②

長辺30センチ程度の平面
大きい作品は必要に応じ脚立等
で高所から撮影



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影リスト (1/4) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影番号	作品名称1	作品群名	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	鱻(ふか)及績(ふん)ノ種類 其一	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	104.0×78.2cm	平面(大)
2	鱻(ふか)及績(ふん)ノ種類 其二	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	119.8×79.1cm	平面(大)
3	鱻(ふか)及績(ふん)ノ種類 其三	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	119.5×78.1cm	平面(大)
4	漁具漁船類聚目的(1/2)	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.5×66.5cm	平面(大)
5	漁具漁船類聚目的(2/2)	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.2×66.5cm	平面(大)
6	章魚釣具	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.5×66.5cm	平面(大)
7	鈎 フナ・タナゴ・スズキ・ナマヅ・ウグヒ・クロダイ	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	138.8×48.9cm	平面(大)
8	鈎 カツヲ・マグロ・フカ	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	124.5×50.0cm	平面(大)
9	鈎 アユ・ヤマメ・ボラ・ウナギ	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	116.2×77.2cm	平面(大)
10	小鯛釣	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.0×67.9cm	平面(大)
11	鯛一本釣	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.3×66.6cm	平面(大)
12	甘鯛一本釣漁業	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.3×66.6cm	平面(大)
13	大魚其他釣	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.0×66.6cm	平面(大)
14	烏賊屋釣具・海鼠箱	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	134.5×66.5cm	平面(大)
15	鰯(いなだ)釣	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.4×66.6cm	平面(大)
16	鱈(きす)釣漁業	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.5×66.5cm	平面(大)
17	鱈(さわら)釣具	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	138.0×66.7cm	平面(大)
18	鯖(さば)釣漁業	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	137.0×66.7cm	平面(大)
19	鯖真鯛甘鯛黒鯛鯉魚配縄具	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.3×68.0cm	平面(大)
20	鰯釣(附随)漁業鮫捕獲法	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.5×66.7cm	平面(大)
21	桂網	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	120.0×79.5cm	平面(大)
22	鰯(ぼら)網	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.5×66.7cm	平面(大)
23	魰(えり)曳網	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	137.0×66.7cm	平面(大)
24	越中網	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.0×66.5cm	平面(大)
25	舳(はしけ)漁船	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	136.6×66.7cm	平面(大)
26	與謝郡宮津町漁場図	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	135.8×62.7cm	平面(大)
27	與謝郡養老村漁場図 其ノ二	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	111.4×62.0cm	平面(大)
28	與謝郡伊根村漁場図	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	128.0×99.1cm	平面(大)
29	與謝郡栗田村漁場図 其ノ三	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	128.5×120.0cm	平面(大)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影リスト (2/4) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影番号	作品名称1	作品群名	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
30	第壱号 搾粕製法図解 寒天製造図解	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	112.0×26.8cm	平面 (大)
31	第壱号 釣魚図解	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	107.0×32.4cm	平面 (大)
32	日本重要水産動物図解解説附録	海洋センター絵画資料	12月11日	DNP	107.0×34.7cm	平面 (大)
33	鈎 サバ・カワハギ・アラ・イサキ・ウツボ・エソ・ママカリ・ハモ・ヒラメ	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影	98.5×65.2cm	平面 (大)
34	カムチャツカ産鮭鱒の種類	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影	104.0×76.0cm	平面 (大)
35	カムチャツカ産鮭鱒の種類	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影	104.0×76.0cm	平面 (大)
36	樽烏賊鯛 (たるいかするめ) (1)	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影	152.5×50.5cm	平面 (大)
37	樽烏賊鯛 (2)	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影	153.0×49.5cm	平面 (大)
38	水鯛 (みづするめ)	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影	155.0×53.0cm	平面 (大)
39	舞鶴町蒲鉾実写図 其ノ一	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影		平面 (大)
40	舞鶴町蒲鉾実写図 其ノ二	海洋センター絵画資料	12月10日	研修で撮影		平面 (大)
41	紋紙図面 扇		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
42	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
43	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
44	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
45	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
46	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
47	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
48	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
49	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
50	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
51	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
52	紋紙図面		12月10日	研修で撮影		平面 (大)
53	辛皮山論絵図	-	12月11日	研修で撮影	194×243.5cm	平面 (特大)
54	縮緬地単衣紋付喪服	鞭家資料	12月12日	DNP		立体 (大)
55	黒縮緬地縫取紋付羽織	鞭家資料	12月12日	DNP		立体 (大)
56	黒縮緬地単衣紋付羽織	鞭家資料	12月12日	DNP		立体 (大)
57	黒縮緬地菊桐に流水模様留袖	鞭家資料	12月12日	DNP		立体 (大)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影リスト (3/4) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影番号	作品名称 1	作品群名	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
58	イトサックリ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
59	サックリ (袖無し)	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
60	イトザックリ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
61	サックリ (袖無し)	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
62	サックリ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
63	サキヨリ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
64	サキヨリ (男物)	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
65	サキヨリ (女物)	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
66	サックリ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
67	ドンザ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
68	サシコ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
69	ドウジ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
70	サシコ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
71	サシコ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
72	サシコ	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
73	サシコハンテン	丹後の紡織用具及び製品	12月12日	DNP		立体 (大)
74	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
75	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
76	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
77	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
78	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
79	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
80	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
81	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
82	引札	三上家文書	12月11日	DNP		平面
83	引札	三上家文書	12月11日	DNP	27.5×42.5cm	平面
84	引札	三上家文書	12月11日	DNP	58.5×33.0cm	平面
85	引札	三上家文書	12月11日	DNP	39.1×54.2cm	平面
86	引札	三上家文書	12月11日	DNP	38.6×54.4cm	平面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

撮影リスト (4/4)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影番号	作品名称1	作品群名	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
87	引札	三上家文書	12月11日	DNP	39.5×54.5cm	平面
88	引札	三上家文書	12月11日	DNP	38.7×54.3cm	平面
89	引札	三上家文書	12月11日	DNP	39.6×53.9cm	平面
90	引札	三上家文書	12月11日	DNP	56.6×39.7	平面
91	引札	三上家文書	12月11日	DNP	49.5×34.7	平面
92	引札	三上家文書	12月11日	DNP	29.5×45.8cm	平面
93	引札	三上家文書	12月11日	DNP	27.8×21.1cm 厚さ 約1.2cm	平面
94	引札	三上家文書	12月11日	DNP	27.8×21.1cm 厚さ 約1.2cm	平面
95	引札	三上家文書	12月11日	DNP	29.5×45.8cm	平面
96	引札	三上家文書	12月11日	DNP	37.7cm×52.7cm	平面
97	引札	三上家文書	12月11日	DNP	雀図 (一番大きい) : 74cm×56.5cm (額入りの状態の外寸)	平面
98	引札	三上家文書	12月11日	DNP	寸法未測定 25cm×15cm×15cmほどか	平面
99	引札	三上家文書	12月11日	DNP	90.6×157.2cm	平面
100	引札	三上家文書	12月11日	DNP	28.0cm×23.5cm×19.0cm	平面
101	引札	三上家文書	12月11日	DNP	29.5cm×15.4cm×13.5cm	平面
102	引札	三上家文書	12月11日	DNP	胴径1.4cm、胴長6.0cm	平面
103	引札	三上家文書	12月11日	DNP	胴径1.9cm、胴長5.2cm	平面
110	勾玉	複製品	12月10日	研修で撮影	口径25.4cm、残存高8.8cm	立体
111	印章「丹後国印」	複製品	12月10日	研修で撮影	口径31.0cm、残存高7.0cm	立体
112	ガラス釦	複製品	12月10日	研修で撮影	口径27.0cm、残存高9.0cm	立体
113	ハンモク織機		2月20日	DNP		特殊

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (2) 京都府立丹後郷土資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 学校と連携しての活用を視野に、郷土学習をプログラム化する取り組みを検討している。
- デジタルデータは展示・教育・研究・広報に活用しているほか、収蔵品以外にも地域文化財の画像を預かり、画像貸出やデジタル閲覧に対応している（現物は現地保管で、所蔵者が直接扱えない場合などに対応）。外部研究者は来館のうえデジタル閲覧を行っている。
- 今後は目録の公開や、館内での活用を進めたいと考えている。
- 絵葉書のデジタル化も進めており、画像提供依頼（例：股のぞき）に対応している。デジタル化にはカメラ、フィルムスキャナ、フォトショップを使用している。

施設ヒアリング：課題

- 2つの見せ方を、同一のアーカイブシステムで公開したいと考えている。①1点の資料を高精細画像で閲覧でき、②かつ、1件に多数の点数を含む資料群の公開を両立したい。また、民具を形態や用途で検索できる機能も求めている。しかし、作品目録のデータ化が進んでいない。
- データ入力や撮影の時間確保が難しく、資料は分類ごとに担当学芸員が個別管理している。分野横断的な把握が十分でない。
- デジタルアーカイブ公開やデータ活用を進めたいが、来館者数への効果をどう示すかが課題である。
- 予算申請時に活用できる指標を求めている。
- 地域的事情からガイドの担い手も不足している。
- リニューアルや文化観光への対応、誘客促進も課題であり、文化観光のハブとしての役割が期待されている。
- 運営面では、時間・人材・予算が脆弱。
- データ入力にとれる時間は月1回が限度で、本事業では文化遺産オンライン対応のため半日確保する予定。

その他

- 来館者数は特別展開催時に増加する。
- これまで地元密着型博物館として、調査研究に基づく成果を紹介する展示を行ってきた。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

大山崎町歴史資料館 (京都府乙訓郡大山崎町字大山崎小字竜光3番地 大山崎ふるさとセンター2階)

大山崎は天王山や淀川に近く、古くから東西交通の重要地点として発展した大山崎町について、大山崎町戦国史や文化人との関わり山崎の戦い、千利休の茶文化など、戦国・文化史に触れる展示が豊富で、町の自然・交通・文化・戦国史などを、多彩な展示を通してわかりやすく紹介。

1. 大山崎町歴史資料館の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：指定施設
- ◆ 公式HP：
大山崎町の公式WEBサイト>生涯学習・スポーツ>歴史・文化>大山崎町歴史資料館紹介WEBページ
- ◆ 開館時間：9:30~17:00 (最終入館 16:30)
- ◆ 休館日：月曜日 (祝日の場合は翌日)、年末年始 (12/28~1/4)、企画展の前後など臨時休館あり
- ◆ 入館料：一般 (個人：200円/20名以上の団体：150円)、小中学生 (個人：無料/団体：無料)
※企画展・特別展は別途料金



▲大山崎ふるさとセンター、大山崎町商工会が入る建物の2階が大山崎歴史資料館

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：なし

◆ 一部資料の公開：

大山崎町歴史資料館紹介WEBページ内の大山崎オンライン資料室「ズームアップOYAMAZAKI」にて一部の資料を詳しい会話形式での説明と共に公開中。

◆ 掲載の頻度：

2020年10月の第一回掲載から不定期で少しずつ資料館所蔵資料を掲載、現状第六回まで更新。



▲大山崎オンライン資料室「ズームアップOYAMAZAKI」

- ◆ デジタル化は企画展用に断片的に進められているが、体系的な公開は未整備。
- ◆ 資料の一部を大山崎オンライン資料室「ズームアップOYAMAZAKI」で公開済みだが、公開範囲は限定的。
- ◆ 公開画像の解像度が低いため、細部まで資料閲覧ができない状態。
- ◆ 文化遺産オンラインや外部プラットフォームでの公開は未実施。
- ◆ デジタル化や公開作業は予算が取得できた場合に外部事業者へ業務委託してきた。
- ◆ デジタル化や公開の意義やその重要性を理解しているが、予算的制約や機材の不足、対応人員が不足 (施設の職員数は、館長含めて2名程度) している。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

3. 常設展示室

常設展示：山崎廃寺出土の7～8世紀の塑像や文字陰刻瓦（府指定文化財）を通した高僧道昭・行基との関わりの紹介。8世紀末～9世紀の緑釉の火舎・釜（府指定文化財）と古代山崎津模型（1/400）による平安前期の文化交流への想起。さらに、鎌倉・室町時代の油売りを解説する映像機器や、千利休ゆかりの茶室待庵復元模型の展示がある。

・古代コーナー

発掘された土器や考古資料から、古代の交通・文化を紹介。

・中世コーナー

鎌倉・室町時代の油生産（えごま油）や地方の生活・産業を展示。

・山崎合戦・利休・待庵コーナー

戦国時代の「山崎の合戦」解説や、千利休ゆかりの茶室「待庵」の原寸大模型（復元モデル）を展示。

・近世コーナー

江戸時代の絵図や自治・文化の資料などを紹介。
常設展示は実物資料のほか、模型、映像、解説パネルなどを使って楽しく学べる工夫がされている。



▲古代コーナー



▲中世コーナー



▲山崎合戦・利休・待庵コーナー



▲近世コーナー

4. 所蔵資料の特長

考古遺物：緑釉陶器



考古遺物：文字印刻瓦



錦絵



古絵図



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

現地調査：2025年10月29日（水）実施

◆参加者

- ・大山崎町歴史資料館 館長（兼 大山崎ふるさとセンター所長） 氏
- ・大山崎町歴史資料館 職員 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 撮影機材・セットの準備

- ・立体物と平面資料（大型まで対応）を撮影するセットを用意。

2. 撮影対象と方法

考古遺物

- ・緑釉陶器（平安時代、京都府指定文化財）：お茶でいう風炉にあたる道具、日本最古のお茶道具と言われている。京都市にある風炉と比較したい。
- ・瓦（奈良時代）：瓦には文字が書いており、内容は願いや名前が書かれることが多い。この漢字の彫り方から漢字の書き順がわかる。
→撮影画像でも凹凸がわかるようにすると資料が生きてくる。

錦絵

- ・最近では資料の状態が良質かどうかを問われており、資料収集が1つの重要な業務となっている。これまでは壁に吊って撮影しているが、アクリルで上から抑えることができるのであればその撮影手法が良い。

古地図

- ・江戸時代の地図資料を撮りたい。地図資料は細かいところまで読めるかがポイント。貼り紙がついている資料も多い。
→貼り紙がある資料は、その部分をめくって撮影したものとそうでない両方のカットを撮りたい。→作品解説情報も一緒に情報として提示したい。

3. 研修の進め方

- ・撮影場所を使える日程が予定より短い為、座学による講義を割愛し、実際の撮影実習から行う。



▲考古遺物：緑釉陶器

▲考古遺物：文字印刻瓦



▲軸装された錦絵



▲錦絵



▲古地図

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

実地研修 (1日目)

写場となった3階のホールがレンタルスペースの為、会場が連続で空いている2.5日で実地研修と撮影を行った。(他施設は約3.5日)

12月22日 月	Day 1	研修準備日	分類	数量
15:50	集合	送付分機材 開梱・確認 機材 準備・調整、紙管のセット組 事前確認 文字印刻瓦の撮影	立体	5
16:00	開始			
17:00				
20:00	終了・退出			
		日計		5



▲紙管を用いて撮影用のライティングフレームを組んでいる様子



▲ライティングフレームに撮影用のディフューザーを取り付ける作業



▲撮影セット



▲文字印刻瓦など小さな立体物を撮影



▲簡易なレフ板をアルミホイルで作成

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

実地研修 (2日目)

小さいサイズの文字印刻瓦を中心に、フォーカスシフト撮影などの実地研修を行った。午後は撮影のセット替えを行い、錦絵や古絵図などの平面資料を高所位置に据えたカメラで撮影した。

12月23日 火	Day 2	研修日	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	研修撮影 (実技) 前日から同じセット組みを使用 小さめの文字印刻瓦の撮影	立体	7
11:30	昼休憩			
13:00	再開	大きめの瓦を撮影 セット替え (背景あり) : 皿・釜など	立体 立体	9 2
16:00		セット替え : 真俯瞰撮影用セット 本能寺の変・山崎合戦 錦絵 入江氏旧蔵資料(古絵図)等	平面 平面	8 6
19:00	撮影終了			
20:00	撤収 退出	撤収作業		
			日計	32



▲研修実技の様子



▲被写体にフォーカスを合わせている様子



▲錦絵のセッティング

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

撮影 (3日目)

高所にカメラを据えて、真俯瞰でサイズが大きい古絵図などの資料を撮影。額装がされた大型資料等も、ガラス面への反射や映り込みを抑制する特殊なセットを組み込んで撮影。

12月24日 水	Day 3	撮影 1 日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始			
9:30		1点目撮影開始 広瀬新川筋井路付替之図などの古絵図	平面	
10:30		撮影対象物のサイズを変更		
10:55		撮影再開		
11:00		照明変更		
11:30		下田地割絵図等の撮影	平面	13
13:00	終了			
	昼休憩			
14:30	再開	小泉川付替之見取図 から	平面	5
16:00		急遽現場で追加撮影 6点 (古絵図など) 大型撮影用に撮影セットを変更		6 1
18:00		～機材 撤収		
	終了・退出		日計	25



▲平台撮影セットを組み、真俯瞰で古絵図を撮影



▲額装された大型の山崎大合戦之図を撮影 (反射を抑制するセット組み)

撮影した資料点数
: 62点 (101カット)

研修 : 37点/2日

- 山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦 : 21点) (緑釉陶器 : 2点)
- 錦絵 (7点)
- 古絵図 (6点)
- 撮影日当日に追加で撮影した資料 (1点)

DNP撮影 : 25点/1日

- 古絵図 (14点)、錦絵 (4点)
- 撮影日当日に追加で撮影した資料 (7点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

撮影環境 (写場について)

大山崎町歴史資料館3階ホールの一角(約16平方メートル)を使用

- ・ 普段は講演会、イベント等に使用
- ・ 撮影に使用可能な机・椅子等あり
- ・ カーテンあり(遮光は不可)



▲ホールの一角を使い撮影セットを用意

●パターン①



●パターン②

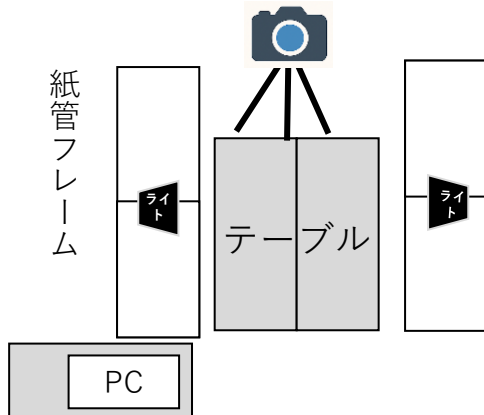


●パターン③



●パターン①

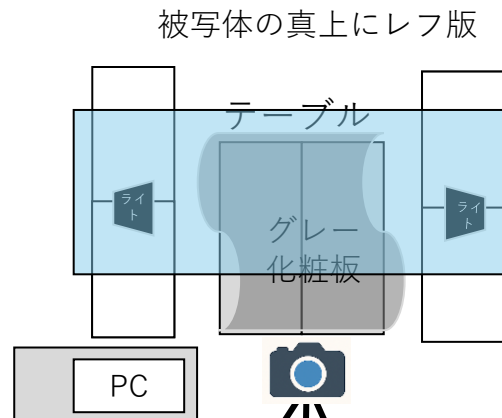
小型立体物の撮影(真俯瞰)



※カメラはスタンドで固定し
上部に設置

●パターン②

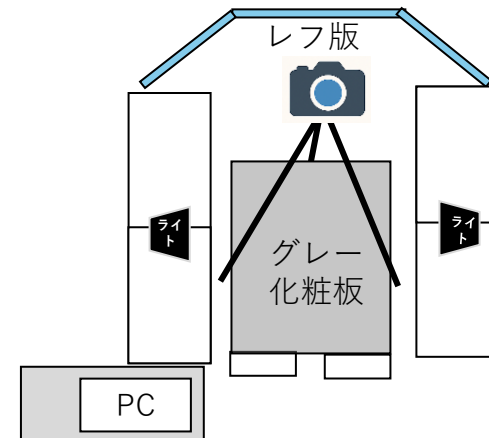
背景が必要な立体物(斜俯瞰)



※カメラは斜め上から

●パターン③

錦絵や古絵図などの平面物の撮影(真俯瞰)



※カメラは高所から真俯瞰で

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

撮影リスト (1/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	材質
1	大刀自御願口	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月22日	研修で撮影	粘土
2	辛□□太千麻呂～	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月22日	研修で撮影	粘土
3	父母為	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月22日	研修で撮影	粘土
4	佐為宿祢	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月22日	研修で撮影	粘土
5	體雲近土	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月22日	研修で撮影	粘土
6	榎井小家	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
7	進志	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
8	秦□	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
9	津□	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
10	辛矢造	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
11	河内部□	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
12	日置造須刀自女	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
13	六人部連宇麻□	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
14	□女	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
15	佐為宿祢手子	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
16	乙麻呂孫葉栗足鳥	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
17	君麻呂 良人田麻呂	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
18	林連□	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
19	國麻呂	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
20	國嶋	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
21	徳廣	山崎廃寺出土品 (文字陰刻瓦)	12月23日	研修で撮影	粘土
22	皿	山崎廃寺出土品 (緑釉陶器)	12月23日	研修で撮影	粘土
23	火舎・釜	山崎廃寺出土品 (緑釉陶器)	12月23日	研修で撮影	粘土
24	本能寺焼討之図	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
25	足利義教公	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
26	本応寺大合戦之図	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
27	大伽藍法要の図	錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
28	小栗栖の露	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
29	新撰太閤記 1	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
30	新撰太閤記 2	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

撮影リスト (2/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	材質
31	新撰太閤記 3	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月23日	研修で撮影	紙
32	八幡山崎地内淀川木津川の図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月23日	研修で撮影	紙
33	摂州高槻城絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月23日	研修で撮影	紙
34	梶原台場関門絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月23日	研修で撮影	紙
35	関門道筋取調図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月23日	研修で撮影	紙
36	関門道筋御改絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月23日	研修で撮影	紙
37	天王山絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月23日	研修で撮影	紙
38	広瀬新川筋井路付替之図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
39	山崎川表樋より上牧村井路迄之図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
40	小泉川河口周辺絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
41	淀川・小泉川合流図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
42	下田地割絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
43	淀川水除堤敷設絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
44	大山崎御神領悪水抜絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
45	川表田地車道下絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
46	大山崎荘田畑山地等隣村境略絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
47	城州乙訓郡大山崎絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
48	大山崎八幡宮御領内野田地絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
49	大山崎御領内境内絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
50	八幡宮御領大山崎下田地絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
51	小泉川付替之見取絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
52	神領悪水井路先延目論見絵図	入江氏旧蔵資料(古絵図)	12月24日	DNP	紙
53	豊臣昇進録	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月24日	DNP	紙
54	太平記山崎合戦	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月24日	DNP	紙
55	山崎大合戦図	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月24日	DNP	紙
56	山城国淀城縮図	—	12月24日	DNP	紙
57	大山崎幡宮御領内境内図	—	12月24日	DNP	紙
58	橋本陣屋周辺図	—	12月24日	DNP	紙
59	摂州嶋上郡広瀬村東方絵図	—	12月24日	DNP	紙
60	大山崎山荘花見案内図	—	12月24日	DNP	紙
61	大山崎山荘図会	—	12月24日	DNP	紙
62	山崎大合戦之図	本能寺の変・山崎合戦 錦絵	12月24日	DNP	紙

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (3) 大山崎町歴史資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- デジタル化した資料を**研究者が遠隔で活用**できるようにしたい。
- 高精細デジタルデータにより、**資料の細部観察を可能にし、閲覧要請への対応効率化**を図りたい。
- デジタルアーカイブを活用し、**施設来館時の事前・事後学習の充実**につなげたい。
- 地元小学校の地域学習において、**デジタル資料を教育教材として活用**したい。
- 学生が所蔵資料を**GIGA端末上で観察・資料をトレースする学習**に利用できるのでは。
- 絵図・地域地図データを用いた**地域の歴史理解・比較学習（過去と現在の比較）**に使いたい。
- 明治期の測量図等を活用した**塗り絵・参加型学習コンテンツ**へ展開したい。
- 江戸時代の地図データを**防災教育・防災資料として活用**できるのでは。
- 撮影画像を活用し、**子どもたちがデジタル端末で自由に観察できる環境整備**したい。
- 錦絵等のデジタルデータから**レプリカを制作し、出前授業や館外教育で活用**できるのではないか。

施設ヒアリング：課題

- 館長と職員の**2名体制による慢性的な人手不足**により、デジタル化業務に専念できる環境がない。
- 学芸員業務が多岐にわたり、**保存・収集など本来業務にも十分に手が回っていない**。
- デジタル化の重要性は理解しているものの、**実作業を担う余力・時間が不足**している。
- 職員の**定年退職等**により、本取り組みが一過性で終わるリスクがある。
- ボランティアや学生の活用は理想だが、**人員の募集・シフト管理などのマネジメント負荷を担えない**。
- 文化財の取り扱いにおいて、**事故発生時の責任リスクが高く、簡単には任せられない**。
- 現状公開しているデジタル画像は**解像度が低く、詳細閲覧に耐えられない**。
- 実地研修において、**撮影姿勢・照明などの基礎知識が十分に共有されていなかった**。
- 単館での**撮影設備保有は予算・人員面で困難**なため、複数館が使える撮影施設が望ましい。
- 施設内に**常時撮影ができるようなスペースが不足**している。

大山崎町教育委員会 生涯学習課 からのコメント

- 本事業における撮影データの**著作権の帰属が各施設にあることが非常に有難い**。
- 大山崎町における**文化政策予算の確保が厳しく優先度が下がりやすい**。府主導の本事業はととても貴重な機会。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

向日市文化資料館 (京都府向日市寺戸町南垣内40-1)

古代の都”長岡京”(789~794年)の宮跡の一角に遷都1,200年を記念して建設。常設展では、向日市内にある国の史跡 長岡宮大極殿・朝堂院の復元模型や、遺跡からの出土品を展示して、都に生きた人々の暮らしぶりを紹介。また、テーマ展示や講演会など、長岡京以外の時代を対象とする催しを時期に応じて開催。

1. 向日市文化資料館の状況

施設の基本情報 向日市立図書館、京都府埋蔵文化財調査研究センターと隣接

- ◆ 博物館種別：指定施設
- ◆ HP：向日市の公式WEBサイト>向日市文化資料館紹介WEBページ
- ◆ 開館時間：10:00~18:00 (最終入館 17:30)
- ◆ 休館日：月曜日 (休日の場合は翌日)、年末年始 (12/28~1/4)、資料整理日 (毎月1日。土・日・月曜日の場合は、次の火曜日)
- ◆ 入館料：無料



▲向日市文化資料館外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：あり
むこうしアーカイブ (向日市文化資料館 収蔵資料等データベース)

◆ 一部資料の公開：3,588点公開
(2026年2月24日時点)

<https://jmapps.ne.jp/muko/index.html>



▲向日市文化資料館
収蔵資料等データベース

◆ 復元・体感アプリ「AR長岡宮」
<https://www.city.muko.kyoto.jp/site/rekishi/1086.html>

スマートフォンやタブレット端末で史跡長岡宮の理解を深めることができる復元・体感アプリ。バーチャル技術を使ったVR(仮想現実)も閲覧でき、ゲーム性のある「怨霊退治モード」や、VRゴーグルを用いた体験も可能。



▲AR長岡宮イメージ

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

3. 常設展示室

常設展示：古代の都・長岡京に関するこれまでの発掘や研究の成果を、発掘された遺物のほか、当時の人々の衣服や食事を再現・展示することによって、わかりやすく説明。

・長岡宮翔鸞楼

朝堂院南門の西につくられた楼閣建物である翔鸞楼跡で発掘された土器や考古資料を紹介

・都づくり

都づくりのようすや造営に携わった庶民の姿を、イラストや造営に用いられた工具類・柱材、復原した庶民の食膳などで再現

・下級役人の仕事

発掘調査で出土した、木簡や墨書土器、その他多量の遺物で明らかになった太政官厨家で書記官として働く下級役人「軽間嶋粉」の勤務風景を再現

・長岡京東院跡

遺跡の写真パネルや「東院」と記された木簡・墨書土器、軒瓦などの遺物を展示

・宮都と政治

朝堂院や内裏の復原模型、宮殿を飾った瓦や鴟尾を展示し、古代都城の変遷のようすを示す

・貴族のくらし

中国や朝鮮の生活様式を取り入れた貴族の暮らしぶりを、宴会の食膳や衣服・装身具・調度品などで表現

おそれといのり

都の住人たちが祈りに使ったまじない物の遺物を展示

その他、1Fには市内の情報発信を行うタッチパネルディスプレイや文化財分布模型が展示され、2Fでは企画展として市内小中学校の学習成果を展示（向日市ふるさと学習成果展）。



▲常設展エントランス

▲長岡宮翔鸞楼 展示

▲都づくり 工具類展示



▲下級役人の仕事 展示

▲長岡京東院跡 木簡等展示

▲宮都と政治 復元模型



▲貴族のくらし
食膳再現展示

▲おそれといのり
まじない物展示

▲タッチパネル
サイネージ

4. 所蔵資料の特長

・常設展は長岡京に関連する歴史・考古資料が多いものの、展示されていない向日市の暮らしに関する民俗資料も多く所蔵する。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

現地調査：2025年10月30日（木）実施

◆参加者

- ・向日市文化資料館 館長 ████████ 氏
- ・向日市文化資料館 副館長 ████████ 氏
- ・向日市文化資料館 ████████ 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 撮影機材・セットの準備

- ・撮影セットは高さ180cm、奥行き120cm、幅60cmを基本とし、3セット程度準備。
- ・機材はレンタルまたはメーカーからの借用を検討。
- ・撮影はスマホ・既存機材・高性能レンタル機材の比較を行い、効果を示す方針。

2. 撮影対象と方法

- ・撮影対象は絵画、軸物、陶磁器、模型など多岐にわたる。
- ・特に額装された絵画やアクリル保護された作品の撮影方法に工夫が必要。
- ・立体物は3方向からの撮影が原則（仕様書に準拠）。
- ・水中展示物（例：独楽）など特殊な保存状態の資料は要相談。

3. 役割分担と支援体制

- ・DNPとNPO法人で撮影分担を検討。
小型資料はNPO法人、大型資料はDNPが担当する可能性。
- ・京都文化博物館との連携により、学芸員の支援や機材の活用も視野に。
- ・撮影補助には経験者を配置し、リスク管理を徹底。

4. 研修の進め方

- ・初日は研修、2日目以降は撮影に移行。
- ・撮影セットは施設に一定期間設置し、研修後も活用可能。
- ・撮影順序や対象は施設の希望と効率性を考慮して決定。

5. 課題と今後の対応

- ・撮影対象の多さと時間制約により、施設ごとの撮影計画の精緻化が必要。
- ・各施設の撮影希望リストをもとに、撮影順序や機材配置を調整。



▲現地調査時会議風景



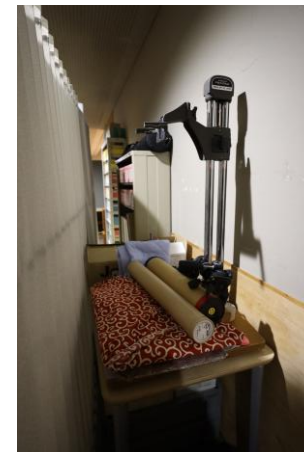
▲水中展示物（独楽）



▲考古資料



▲大型民俗資料



▲施設保有機材



▲施設保有機材

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

実地研修 (1日目)

簡易的な座学研修および、紙管組み立てからカメラ設置に至る写場作り、職員自身での簡易的な撮影体験までを実施。撮影用の機材に関して新規購入に向けた具体的な相談まで行われた。

1月6日 火	Day 1	研修準備日	分類	数量
12:50	集合	送付分機材 開梱・確認 機材 準備・調整 事前確認		
13:00	開始			
14:05		座学研修開始 (一部のみ) 写場作り・研修 (紙管組み立て・LEDライト設置・シート張り・カメラ設置等)	日計	0
15:35		撮影体験 (ピクセルシフト撮影・合紙作成・レフ板設置等) 既存機材の相談		
17:50	終了・退出			



▲撮影研修の様子



▲堀内氏による座学研修の様子



▲紙管セットの組み立て



▲撮影研修の様子



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

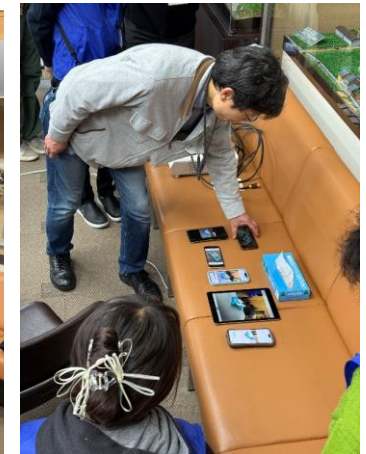
実地研修 (2日目)

デジタル化に関係する職員が集合し、実地研修を実施。撮影に関する詳細な研修を実施後、前日に構築した紙管セットをもう1セット作成、その後平面資料を中心に職員自身で撮影を体験。その中でピクセルシフト撮影やフォーカスシフト撮影といった手法についても解説が行われた。

1月7日水	Day 2	研修日	分類	数量
9:50	集合			
10:00	開始			
10:15		研修 (基本)		
11:00		撮影 (実技) 残り1セットの写場作り		
11:50				
	昼休憩			
13:00	再開	レフ板作成	平面	15
14:10		撮影 (実技)		
15:15	(休憩)			
15:30		撮影 (実技)	平面 立体	1 1
		床置きへのセッティングに変更		
16:45			平面 (大) 立体	1 1
17:30		撮影終了・撤収準備		
18:00	終了・退出			
			日計	19



▲座学研修の様子



▲職員自身による撮影の様子



▲レフ板の作成



▲ソフトウェア・カメラ相談の様子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影 (3日目)

常設展示室に展示中の資料、および収蔵庫所蔵の民俗資料・考古資料 (小型) を中心に、職員の確認を受けながら23点を撮影した。翌日に予定している大型資料の撮影に向けた準備を行った上で終了。

1月8日 木	Day 3	撮影 1 日目	分類	数量
9:50	集合			
10:00	開始	撮影セッティング・常設展示物視察	立体	3
11:00		常設展示物・収蔵庫の資料 撮影開始		
12:20	終了			
	昼休憩			
13:20	再開	常設展示物・収蔵庫の資料	立体	20
15:20	(休憩)			
15:30	再開			
18:00	終了・退出	バック紙のセッティングを準備し、退出	日計	23



▲DNPスタッフによる撮影の様子



▲職員が資料の確度を調整する様子



▲バック紙を用いた撮影に向けたセッティング

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影 (4日目)

常設展示室に展示中および収蔵庫所蔵の民俗資料・考古資料 (小型) を中心に16点を撮影後、バック紙をセットし大型資料5点を撮影。その後、施設が保有するカメラを用いて器類の撮影を行いたいという申し出を受け、再度セットを変更の上で3点を撮影した※。

1月9日 金 Day4	撮影2日目	分類	数量
9:50	集合		
10:00	準備		
10:30	開始	常設展示物・収蔵庫の資料	立体 10
12:20	終了		
	昼休憩		
13:20	再開	常設展示物・収蔵庫の資料	立体 6
14:45		バック紙にセッティング変更・撮影	立体 (大) 5
16:00		器等の撮影のためセッティング変更・撮影	立体 1
16:30		施設の保有カメラで撮影※	
18:00		撤収作業	
19:10	終了・退出		
		日計	22



▲撮影の様子



▲バック紙を用いた大型資料撮影の様子



▲施設保有カメラ用いた資料撮影の様子

※この日に施設保有カメラで撮影した資料については、解像度が事業の要件を満たしていない為「資料点数」に含んでおりません。

研修：17点/2日

※撮影点数19点から後日再撮影2点を差し引いた数量

- ・ 絵図類 (9点)
- ・ 文献資料 (6点)
- ・ 民俗資料 (2点)

撮影した資料点数
：62点 (133カット)

DNP撮影：45点/2日

- ・ 考古資料 (27点)
- ・ 民俗資料 (18点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影環境 (写場について)



▲撮影場所

向日市文化資料館 3階会議室：約70平方メートル

- ・講演会、イベント、デジタル化に利用
- ・撮影に使用可能な机・椅子等あり

●パターン①



▲文書 (2日目)

●パターン②



▲民俗資料 (3日目)

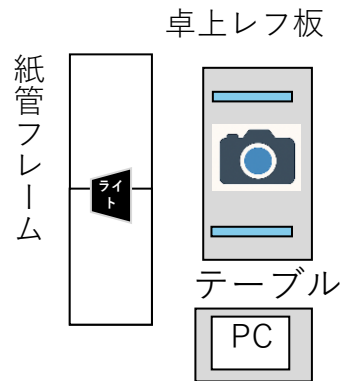
●パターン③



▲器 (4日目)

●パターン①

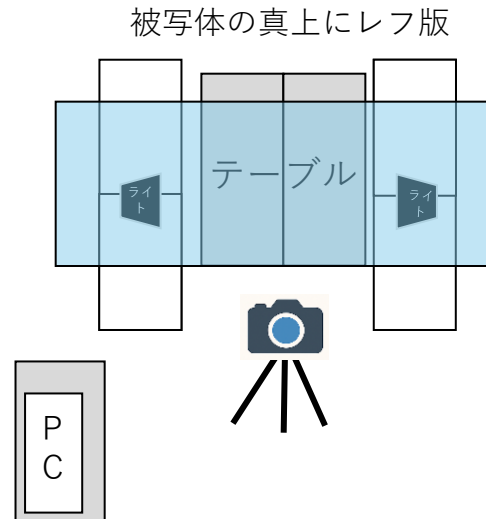
小型平面資料 (文書・地図等)



※カメラはスタンドで
固定し上部に設置

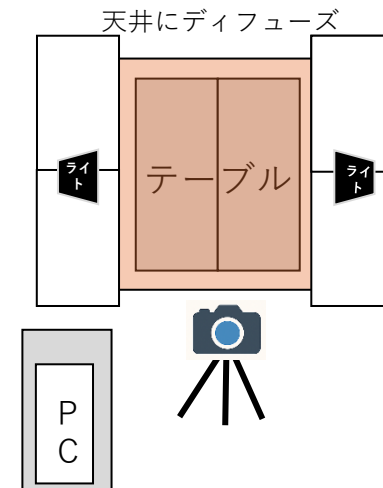
●パターン②

小型立体物 (民俗資料・考古資料等)



●パターン③

小型立体物 (器等)
対象物によって脚立で上から撮影



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影リスト (1/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	ホ199 天明8年12月(1664年)御触二付差上中絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	54.5×31.0、31.5×46.2 14.0×31.2、10.2×31.5	平面
2	海道悪水溝付替絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	27.5×42.5cm	平面
3	掘井戸明細図	文献資料	1月7日	研修で撮影	58.5×33.0cm	平面
4	「食糧問題の解決」ポスター	文献資料	1月7日	研修で撮影	39.1×54.2cm	平面
5	城州乙訓郡向日町惣絵図面	絵図類	1月7日	研修で撮影	38.6×54.4cm	平面
6	山城国乙訓郡物集女村麓絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	39.5×54.5cm	平面
7	城州乙訓郡鶏冠井村惣絵図面	絵図類	1月7日	研修で撮影	38.7×54.3cm	平面
8	乙訓郡上植野村惣絵図面	絵図類	1月7日	研修で撮影	39.6×53.9cm	平面
9	物集女村絵図 明治3年	絵図類	1月7日	研修で撮影	56.6×39.7	平面
10	鶏冠井村 耕作地絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	49.5×34.7	平面
11	前田玄以定書〈複製〉	文献資料	1月7日	研修で撮影	29.5×45.8cm	平面
12	当町銘々渡世書帳〈複製〉	文献資料	1月7日	研修で撮影	27.8×21.1cm 厚さ約1.2cm	特殊
13	当町銘々渡世書帳	文献資料	1月7日	研修で撮影	27.8×21.1cm 厚さ約1.2cm	特殊
14	前田玄以定書	文献資料	1月7日	研修で撮影	29.5×45.8cm	平面
15	引札	民俗資料	1月7日	研修で撮影	37.7cm×52.7cm	平面
16	六人部暉峰作 日本画(雀、鯛、猫)	民俗資料	1月7日	研修で撮影	雀図(一番大きい):74cm×56.5cm(額入りの状態の外寸)	平面
17	鶏冠井・下久我・菱川村・用悪水絵図	絵図類	1月7日	研修で撮影	90.6×157.2cm	平面(大)
18	炭火アイロン	民俗資料	1月8日	DNP	寸法未測定 25cm×15cm×15cmほどか	立体
19	触れ太鼓	民俗資料	1月9日	DNP	28.0cm×23.5cm×19.0cm	立体
20	陶製湯たんぽ	民俗資料	1月8日	DNP	29.5cm×15.4cm×13.5cm	立体
21	土錘	考古資料	1月8日	DNP	胴径1.4cm、胴長6.0cm	立体
22	土錘	考古資料	1月8日	DNP	胴径1.9cm、胴長5.2cm	立体
23	土錘	考古資料	1月8日	DNP	胴径3.7cm、胴長4.8cm	立体
24	役人の手なぐさみ(不明木製品)	考古資料	1月8日	DNP	全長7.4cm、最大幅2.7cm、厚さ2.7cm	立体
25	琴柱	考古資料	1月8日	DNP	全長3.6cm、最大幅6.3cm、厚さ1.5cm	立体
26	水差し(平瓶)	考古資料	1月8日	DNP	高さ3.3cm、高台径4.6cm	立体
27	朱をといた器(杯蓋・須恵器)	考古資料	1月8日	DNP	直径12.2cm、高さ2.1cm	立体
28	深鉢(縄文土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径25.4cm、残存高8.8cm	立体
29	深鉢(縄文土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径31.0cm、残存高7.0cm	立体
30	深鉢(縄文土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径27.0cm、残存高9.0cm	立体

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

撮影リスト (2/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
31	独楽	考古資料	1月8日	DNP	頭部径3.5cm、高さ4.5cm	立体
32	唾壺 (緑釉陶器)	考古資料	1月8日	DNP	高さ12cm、最大幅19cm	立体
33	高坏 (緑釉陶器)	考古資料	1月8日	DNP	脚部径11.0cm、脚部高11.5cm	立体
34	薬壺 (二彩陶器)	考古資料	1月8日	DNP	高さ8cm、最大幅9cm	立体
35	小型丸底壺 (布留式土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径10.7cm、頸径6.5cm、体径7.7cm、口縁高4.5cm、残高9.9cm	立体
36	器台 (布留式土器)	考古資料	1月8日	DNP	受径8.1cm、頸径2.3cm、脚径11.5cm、受高2.1cm、残高9.3cm	立体
37	高坏 (布留式土器)	考古資料	1月8日	DNP	口径16.5cm、頸径2.8cm、体径11.3cm、口縁高5.1cm、残高13.1cm	立体
38	製塩土器	考古資料	1月8日	DNP	口径12.4cm、器高約18cm ※器高は実測図より推定	立体
39	製塩土器	考古資料	1月8日	DNP	口径約10cm、器高約20cm ※実測図より推定	立体
40	製塩土器	考古資料	1月8日	DNP	口径14.6cm、器高約15cm	立体
41	置き薬 (高崎薬房)	民俗資料	1月8日	DNP	20.0cm×16.5cm×10.5cm	特殊
42	刀形	考古資料	1月9日	DNP	全長30.6cm、最大幅約2cm ※最大幅は実測図より推定	立体
43	刀形	考古資料	1月9日	DNP	全長30.2cm、最大幅3.6cm	立体
44	鳥形	考古資料	1月9日	DNP	全長6.7cm、最大幅3.4cm、厚さ0.6cm	立体
45	槍先 (有舌尖頭器)	考古資料	1月9日	DNP	現存長6.9cm、幅3.4cm、厚さ0.7cm	立体
46	穂つみ具 (石包丁)	考古資料	1月9日	DNP	長さ4.6cm、幅13.2cm、厚さ0.45cm	立体
47	竹がえし	民俗資料	1月9日	DNP	20.0cm×1.2cm 6本1組 容器 (朱塗りの竹筒) とセット	立体
48	穂つみ具 (石包丁)	考古資料	1月9日	DNP	長さ4.4cm、現存幅15.6cm、厚さ0.45cm	立体
49	謄写版関連資料	民俗資料	1月9日	DNP	35.6cm×15.6cm×2.1cm	立体
50	謄写版関連資料	民俗資料	1月9日	DNP	40.3cm×31.2cm×1.3cm	立体
51	箱蓋	民俗資料	1月9日	DNP	61.5cm×35.3cm	立体 (大)
52	鶏冠井荘表札	民俗資料	1月9日	DNP	63.9cm×21.5cm	立体 (大)
53	鑑札	民俗資料	1月9日	DNP	36.0cm×11.8cm×1.8cm	立体
54	紙芝居 (ソロモン海戦)	民俗資料	1月9日	DNP		平面
55	置き薬 (池田薬品)	民俗資料	1月9日	DNP	22.0cm×22.5cm×15.5cm	特殊
56	興隆寺跡出土 金箔軒丸瓦	考古資料	1月9日	DNP	14.8×23.3cm	立体
57	回転式除草機	民俗資料	1月9日	DNP	180.0cm×17.0cm×23.0cm	立体 (大)
58	風呂鋤 (ハダトリ)	民俗資料	1月9日	DNP	175.2cm×12.0cm×4.0cm	立体 (大)
59	風呂鋤	民俗資料	1月9日	DNP	122.8cm×12.5cm×4.5cm	立体 (大)
60	風呂鋤	民俗資料	1月9日	DNP	3本のうち最大のものは100.0cm×44.0cm×19.5cm	立体 (大)
61	円匙 (スコップ)	民俗資料	1月9日	DNP		立体
62	三ッ重朱杯	民俗資料	1月9日	DNP		立体

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (4) 向日市文化資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- ・ 収蔵品管理システムのI.B.MUSEUM SaaSを導入済（文化遺産オンラインでの公開は未実施）であり、デジタル化した資料の画像を登録・公開し、様々な形で活用の幅を広げていきたい。
- ・ 施設で撮影機材を保有しており、デジタル化作業も行っているものの、かなり古いものである為刷新し、最新の撮影方法を学びたい。
- ・ 施設で民俗資料等のニーズの高い資料を優先し、教育や研究で使ってほしい。
- ・ 小中学校との連携事業として、デジタルアーカイブを活用した取り組みを行いたい。現状「AR長岡宮」が授業で活用されている例はあるが、資料館のデジタルアーカイブ活用のアイデアが欲しい。
- ・ 現在、向日市・長岡京市・大山崎町の3自治体共同での子ども用副読本があるが、向日市のパートが少ないので、向日市だけの歴史情報を詰め込んだもの、できればタブレットで見られてデジタルを活かした教材を作りたい。
- ・ 非常に珍しい人面土器が出土しており、裏側から見ると面白い。3Dなどで考古資料を鑑賞できるようにできると良い。

施設ヒアリング：課題

- ・ 【収蔵庫の課題】収蔵施設は館内のみで、すでに満杯の状態である。スペース不足のため、新たな寄贈品の受け入れが難しくなっている。持ち込まれる資料は、来館時点で一定の選別がなされた貴重なものであり、奈良県の事例のように廃棄する考えはない。
- ・ 他自治体では、少子化による空き教室を収蔵庫へ転用する例もあるが、向日市は今後15年程度は人口減少が見込まれておらず、同様の対応は難しいと考えられる。
- ・ 【機材・予算の課題】機材の更新も必要だが、施設として独自予算を持っていないため、自治体へ予算要求を行う必要がある。これまでに補助金申請が採択された実績はある。
- ・ 【データ登録の課題】文化遺産オンラインへの登録が義務化されているが、すでにI.B.MUSEUMを運用しているため、二重登録の手間が発生している。文化遺産オンラインには代表的な資料を掲載する方針だが、両者の住み分けは容易ではない。現在、I.B.MUSEUMから文化遺産オンラインやジャパンサーチへ自動連携する方法について情報を求めている。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

与謝野町立江山文庫

京都北部唯一の文学館として、地域ゆかりの文芸である短歌・俳句の魅力について企画展や文化講座を通じて常時発信。町名由来の一つでもある与謝野晶子の直筆短歌が常時観覧可能。短歌や俳句、日本画を中心とした企画展を年に数回開催。句会体験講座、与謝野晶子の童話読書会を毎月開催。

1. 与謝野町立江山文庫の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：指定施設申請中
- ◆ 公式HP：<https://kozan-bunko.sakura.ne.jp/>
- ◆ 開館時間：9:00～17:00（最終入館 16:30）
- ◆ 休館日：毎週月曜日及び年末年始（ただし月曜が祝日の場合は開館し翌日振替休館）
- ◆ 入館料：大人200円・小人100円・団体8名以上は50円引き
- ◆ 身体障害者手帳・精神障害者保健福祉手帳・療育手帳を提示の方は半額（各種割引の重複は無し）



▲与謝野町立江山文庫 外観

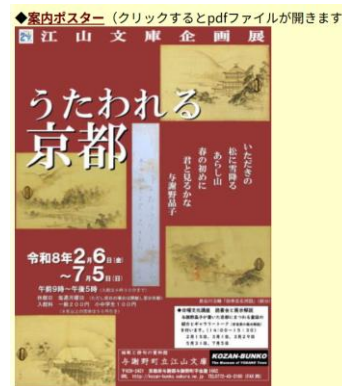
2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：なし

◆ 一部資料の公開：
企画展のチラシ、HP上での告知等で都度作品や展示風景を撮影し公開。

◆ 掲載の頻度：
3～6か月に1回程度
企画展、イベントを都度更新。
公式Xは数日～数週間程度で頻繁に更新。



▲HP上での企画展告知



▲公式X



▲与謝野町公式YouTube
2025年2月に30秒の江山文庫資料館PV公開

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

3. 常設展示室

常設展示：与謝野町の由来、与謝蕪村、礼蔵、鉄幹、晶子に関する資料を展示。

・企画展 (展示室1, 2)

季節、地域に関する短歌、俳句を展示。屏風等の絵画作品と歌を結び付け鑑賞する展示もある。展示室には掛軸17点、短冊6点程度展示可能。



▲絵葉書の取組



▲展示室1



▲研究室



▲入り口、ホール (パノラマ撮影のため湾曲あり)



▲与謝野町に関する資料の展示

4. 所蔵資料の特長

短冊、掛け軸 (江戸後期～昭和)

与謝野町にまつわる作品、与謝野町出身、ゆかりのある作家の作品を展示。



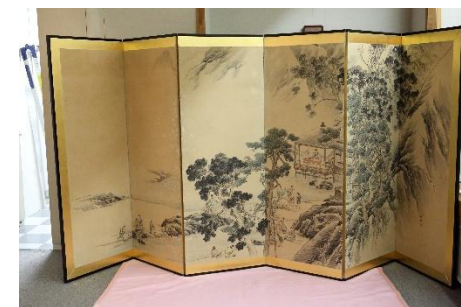
写真 (パネル)

当時の資料を拡大し展示。



屏風、襖

与謝蕪村、原在中等江戸中期から後期の作品あり。



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

現地調査：2025年11月10日（月）実施

◆参加者

・与謝野町教育委員会事務局 社会教育課 社会教育係 ■■■■■ 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 作品撮影状況

- ・撮影は主に職員の私物機材（古いデジカメ等）を使用。
- ・撮影対象は図録や記念誌、SNS用のスナップなど。
- ・撮影環境は和室を活用し、自然光を遮断してストロボ撮影を行っている。
- ・撮影は通常1~2名体制で実施。
- ・機材更新の必要性あり。町の予算制約で購入は困難、代替策や共有設備の検討が必要。
- ・屏風や襖絵はスナップ撮影済みだが、アーカイブ用の正式な撮影は未実施。
- ・展示用に自作の襖立てフレームを使用しており、撮影にも活用可能。

2. 実地研修の方向性

- ・中小サイズの資料を対象とした実地研修を中心に実施予定。
- ・大型資料はDNPが撮影を担当する方向で検討。
- ・研修では「簡易撮影セットの構築」「ライティング」「効率的な撮影手順」を習得したい。

3. 機材・環境

- ・ストロボ2灯、古いカメラ、三脚あり。パソコン連携は未実施。
- ・展示用に自作の襖立てフレームを使用しており、撮影にも活用可能。

4. その他課題

- ・ZoomやYouTubeでの講座配信も試みているが、現地来訪の価値を損なう懸念があると感じている。デジタル化による広報と現地体験のバランスが課題。



▲収蔵庫



▲展示室1



▲研修室

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

実地研修 (1日目)

学芸員の都合に合わせ、はにわ資料館とスケジュールを逆転させての対応となった。写場の相談や段取りを確認した後、俯瞰撮影台の組み立て講習を行った。のちに座学を行い、基本的な撮影に関する知識を確認したのち、撮影実習を行った。短冊を40点撮影した後、はにわ資料館の考古資料を用いた立体物の撮影を行った。

1月12日 月	Day 1	研修日	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	機材 準備・調整 事前確認 (撮影対象物 準備)		
9:20		俯瞰撮影組み立て		
10:00		俯瞰撮影について 研修		
11:15		座学 1名 (竹下様)		
11:45		撮影実習 (短冊)	平面	15
12:20				
13:45	昼休憩 再開	午後撮影再開 (短冊)	平面	25
14:20		はにわ資料館資料撮影開始 (考古資料5点 撮影枚数は6点)	立体	—
15:50		撮影終了 撤収開始		
16:45	終了・退出		日計	40



▲紙管の組み立て実習



▲ライトの講習



▲座学



▲撮影実習 (短冊)



▲はにわ資料館の一部考古資料を用いた立体物の撮影実習

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

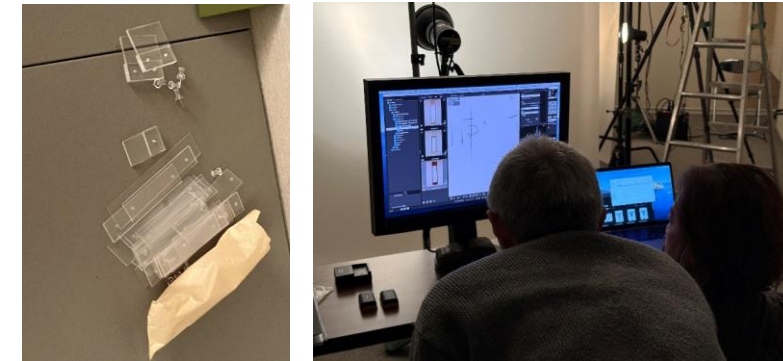
撮影 (2日目)

はにわ資料館の撮影に日数を当てるため、研修日を短縮させ撮影日とした。当日は掛軸の吊り撮影、屏風等の大型資料の撮影を行い、16時頃には撮影がおおむね完了したため、翌日から使用する撮影機材をはにわ資料館へ移動させた。

1月13日 火	Day 2	撮影 1 日目	分類	数量
8:45	集合			
8:50	開始	撮影準備		
9:50		撮影開始 (掛軸)	平面 (大)	16
11:50				
	昼休憩			
	再開			
13:00		午後撮影再開 (屏風)	立体 (大)	4
13:50				
16:05		研修機材 移動 (江山文庫→はにわ資料館)		
16:45	終了・退出			
			日計	20



▲展示室1をそのまま写場として使用



▲掛け軸の反りには施設所有の押さえを使用

▲撮影データを確認する様子

撮影した資料点数
: 60点 (71カット)

研修: 40点/1日
※はにわ資料館資料5点
は含めず

- 短冊 (40点)
- ※考古資料 (5点)

DNP撮影: 20点/1日

- 掛軸 (16点)
- 屏風 (4点)



▲屏風は壁に立てかけ撮影

▲屏風の別カット撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

撮影環境 (写場について)

研究室 30平方メートル (20畳)



▲短冊、立体物 研修日 (1日目)



展示室 1 30平方メートル



▲掛軸 撮影日 (2日目)

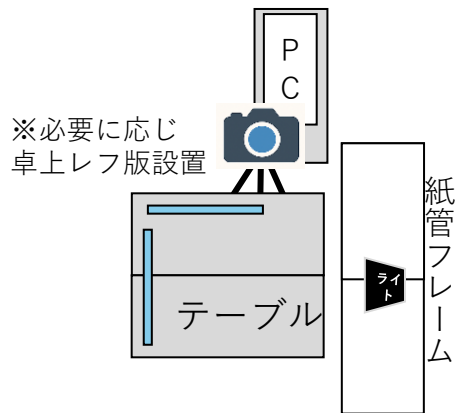
展示室 2 30平方メートル



▲屏風 撮影日 (2日目)

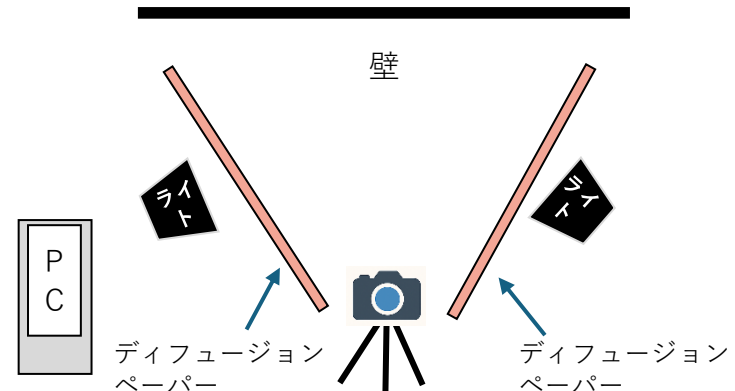
●パターン①

小物、小さい平面資料の俯瞰撮影。



●パターン②

掛軸の撮影。展示室の壁をそのまま利用。
屏風は壁に立てかけ、必要に応じレフ板を使用し斜俯瞰撮影。



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

撮影リスト (1/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
2	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
3	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
4	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
5	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
6	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
7	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
8	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
9	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
10	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
11	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
12	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
13	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
14	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
15	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
16	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
17	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
18	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
19	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
20	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
21	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
22	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
23	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
24	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
25	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
26	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
27	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
28	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
29	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
30	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面
31	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm×6cm	平面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

撮影リスト (2/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
32	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
33	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
34	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
35	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
36	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
37	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
38	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
39	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
40	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	短冊	1月12日	研修で撮影	36cm × 6cm	平面
41	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
42	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
43	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
44	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
45	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
46	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
47	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
48	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
49	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
50	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
51	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
52	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
53	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
54	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
55	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
56	近世近代短歌俳句資料 (墨書)	掛軸	1月13日	DNP	160cm × 75cm以内	平面 (大)
57	屏風	屏風	1月13日	DNP		平面 (特大)
58	屏風	屏風	1月13日	DNP		平面 (特大)
59	屏風	屏風	1月13日	DNP		平面 (特大)
60	屏風	屏風	1月13日	DNP		平面 (特大)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (5) 与謝野町立江山文庫

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 【アーカイブデータの活用状況】データの具体的な活用方針は、現時点では明確になっていない。日常的には、個人所有のカメラで撮影した画像を企画展の告知に使用している。近年はパンフレット作成の予算が確保できず、**広報は主にウェブサイト更新にとどまっている。**
- 【俳句関連での取り組み】施設でオリジナルの無料「俳句キット」を制作しており、絵葉書の余白に一句を書き入れる形式としている。あわせて、俳句を詠む際のコツや考え方を解説した資料を同封しているが、施設の所蔵データは活用していない。
- 学校への出前俳句講座も実施している。与謝野町の小学校では俳句を詠む授業が必修となっており、俳人を招いて指導している。講座内容は学校側の要望に応じて調整しており、専用教材キットはなく、市販俳句本のコピーや都度作成する教材で対応している。友の会とは別に、**俳句同好会や地元学校向けの講座も開催している。**
- 【与謝蕪村屏風の制作】研修室床の間に常設展示している与謝蕪村の屏風は、学芸員が制作したものである。初作は高精細データを印刷し、六曲一双となるよう分割・加工して屏風状に仕立て、寺院へ納めた。二作目も同様の手法で制作し、現在は研修室に設置している。

施設ヒアリング：課題

- 俳句に親しみを持ってもらうことを目的に、視覚的に訴求力のある屏風作品を展示している。施設としては俳句のファン層を拡大することを重要視しているが、**対象を地元中心とするのか、地域外へも広げるのかについては、今後の検討課題である。**
- また、地域や館の枠を超えた交流の取り組みとして、全国俳句大会と併せたオンライン俳句企画を実施している。開催告知とあわせて館の企画展情報も発信し、X（旧Twitter）を活用して参加者を募集している。

その他

- 和室は月2回程度、俳句講座等で使用しているほか、貸室としても活用している。**友の会組織ではないが、俳句講座には継続的に参加する常連がおり、地域内に一定のファン層が形成されている。**
- 他の施設への資料貸出は時折実施しているが、借用する機会は多くない。宮津市内の施設とのつながりはあるものの、**資料を借用する際は予算不足のため自ら梱包・輸送を行っている。そのため安全面に不安があり、借用依頼のハードルが高い状況にある。**

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

与謝野町立古墳公園はにわ資料館 (京都府与謝郡与謝野町明石2341)

1,600年前の国史跡「蛭子山古墳」「作山古墳」の復元整備を中心とした古代歴史公園。
併設しているはにわ資料館では蛭子山古墳や作山古墳から出土した埴輪や装飾品など古墳時代の遺物を展示している。
まが玉作りの体験(有料)なども行える。

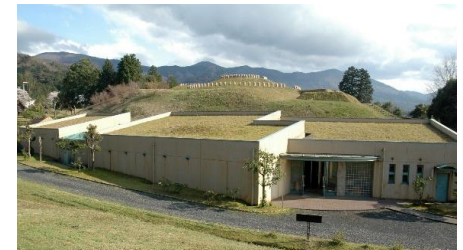
1. 与謝野町立古墳公園はにわ資料館の状況

施設の基本情報 ※古墳公園と隣接

- ◆ 博物館種別：指定施設申請中
- ◆ 公式HP：与謝野町公式WEBサイト>施設案内・予約>
レジャー・観光・宿泊施設>観光施設>古墳公園はにわ資料館
- ◆ 開館時間：9:00~17:00
- ◆ 休館日：3~11月は月曜日(休日の場合は翌日)
12~2月は月~木曜日(月曜日が休日の場合は火~木曜日)、年末年始
- ◆ 入館料：大人300円・小中学生150円 ※団体(8名以上)大人200円・小中学生100円
- ◆ 運営：指定管理者が受付業務や隣接する物産展示館でのカフェ運営を行っており、
専任の学芸員は不在。同町内の学芸員が担当。



▲古墳公園全体



▲はにわ資料館 外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

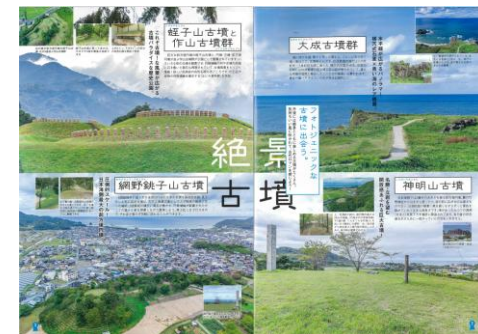
公開状況

- ◆ デジタルアーカイブサイト：なし

- ◆ 施設の撮影機材はない。
- ◆ デジタルアーカイブはほぼ未着手。
- ◆ 文化遺産オンラインへの登録、公開は未実施。
- ◆ 丹後の古墳を紹介するパンフレットに掲載あり。
ウェブ上に公開済み。(右画像参照)
- ◆ 与謝野町公式HPに古墳公園全景、資料館内観の画像
掲載あり。(個別の資料の画像なし)



▲「蛭子山古墳」「作山古墳」が表紙を飾る
丹後の古墳を紹介するパンフレット「絶景古墳」



▲画像左上 古墳群、石棺とともに
はにわ資料館についても紹介



▲与謝野町HPより

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

3. 常設展示室

常設展示：出土した埴輪や副葬品の石釧などを保管、展示している。本物の土器や、勾玉などに使われた石類や鹿の角などに触れられるコーナーもある。



年表と丹後の遺跡
年代別に丹後半島の遺跡が記載されており、各展示は、遺跡ごとに出土品が並べられている。



蛭子山古墳群や作山古墳群などから出土したはにわ
出土した様子の写真パネルと共に様々な形状のはにわ（朝顔形埴輪、円筒埴輪、水鳥埴輪など）が展示されている。



体験コーナー
鹿の角や碧玉などに触れられるコーナーが設置されている。



嗎岡遺跡や葦ヶ崎遺跡の出土品
各遺跡から出土したもの（土器や石器、装飾品など）を展示。



日常に使われていたの出土品
日常食器、鉄製の鏡や槍などが展示されている。



パネル展示
丹後の政治的中心地や地域区分の移り変わりを展示。



古墳で一句
来館者が詠んだ俳句を掲示

4. 所蔵資料の特長

周辺古墳からの出土品などの考古資料がメインで埴輪（円筒埴輪・形象埴輪）、土器（須恵器・土師器）、石製品・鉄製品（武器・工具・装身具など）が多い。

円筒埴輪・形象埴輪



土器やガラス釧



石製品・鉄製品



木製品



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

現地調査：2025年11月10日（月）実施

◆参加者

与謝野町立江山文庫／与謝野町教育委員会社会教育課 学芸員 ████████ 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 撮影対象資料と場所

- ・ 撮影対象は約50点の考古資料（小型中心、大型も一部含む）。
- ・ 撮影場所は主に資料館内の映像館スペースを使用予定。
- ・ 一部資料は古墳公園内の旧資料館（収蔵庫）から搬出。
- ・ 貴重資料は24時間温湿度管理設備のある江山文庫で保管。

2. 撮影方法と機材

- ・ 機材（照明・三脚など）は江山文庫に保管されている。
※与謝野町立江山文庫と同じ

3. 研修の目的と内容

- ・ 中、小型資料を中心に撮影技術の習得を目指す。
- ・ 大型資料は特別な撮影方法が必要なため、
研修対象からは除外し、DNPにて撮影する。

4. スケジュールと運営

- ・ 撮影は休館日（月曜日）を活用する方向で調整。
- ・ 撮影準備や資料の搬出入には職員の協力が必要。



▲写場の現地調査：映像館



▲撮影対象資料の確認
(大型埴輪は場所を変えずに撮影することを決定)



▲撮影対象資料の確認



▲撮影対象資料：ガラス釧



▲撮影対象資料の確認



▲撮影対象資料の確認の様子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

実地研修 (1日目)

午前中は比較的小さな対象物（一辺の最大サイズが60センチ以下）の中でも小さなものから撮影を開始。午後からは与謝野町の学芸員1名に対して座学研修を行った後、紙管の組立を実施。撮影研修は、江山文庫の学芸員も一緒に参加した。

1月14日 水	Day1	研修日	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備 (対象物の確認、撮影台、ライトセッティング)		
10:40		撮影開始	立体	12
11:50		撮影終了		
13:30	昼休憩再開	研修座学 学芸員1名		
14:15		撮影研修開始 学芸員2名 ※江山文庫学芸員1名参加	立体	5
15:50		紙管組立研修 学芸員1名		
16:15		撮影機材 片付け開始		
17:00	終了・退出			
			日計	17



▲座学研修の様子



▲撮影対象物
テーブルに布を引き
あらかじめ並べておく



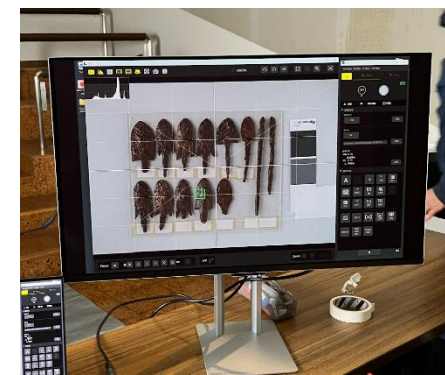
▲撮影研修の様子①



▲撮影研修の様子②



▲撮影研修の様子③



▲撮影研修：対象物の画像確認画面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

撮影 (2日目)

午前中は大型埴輪の撮影のため、展示室内に写場を設置し撮影を行った。午後は、映像館内に設置した写場にて、サイズの小さいものから1mを超える長尺の対象物など、照明・カメラ位置変更が必要なものを撮影した。

1月15日 木	Day2	撮影 1 日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備 (展示室内にて大型埴輪の撮影準備)	立体 (大)	11
10:20		撮影開始		
11:55	終了	撮影終了		
	昼休憩			
13:30	再開	撮影開始	立体 (大)	7
14:15		撮影場所変更		
14:30	再開	撮影再開	立体	10
16:30		撮影場所変更		
16:45	再開	撮影再開	立体 (大)	1
17:30	終了・退出	撮影終了		
			日計	29



▲大型埴輪の撮影準備



▲展示室での撮影セット (左：撮影方向から/右：横から)

撮影 (3日目)

午前中に撤収作業を実施し、終了。

撮影した資料点数
: 51点 (83カット)

研修：
17点/1日
5点/1日※
※1/12にて江山文庫にて撮影

DNP撮影：
29点/1日

• 立体 (22点)
※1/12にて
江山文庫にて撮影した5点含む

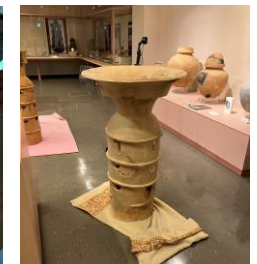
• 大型埴輪 (7点)
• 立体物 (22点)



▲対象物の上部からの撮影



▲撮影画像の確認



▲大型埴輪
毛布に乗せ移動

2. 実地調査・実地研修・撮影の（6）与謝野町立古墳公園はにわ資料館

撮影環境（写場について）

映像館 約80平方メートル

展示室 約120平方メートル



映像館

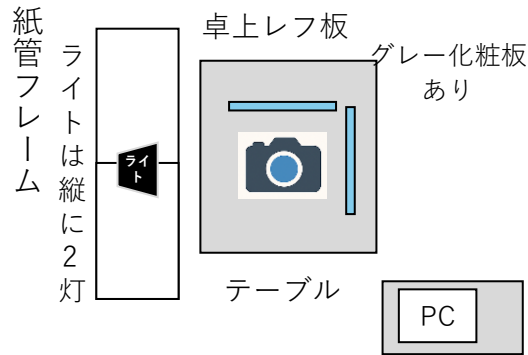
階段状に上がっていく部分に客席があり、中央ステージ部分が最下部になっている。このステージ部分に広くスペースを取ることができたため撮影場所とした。尚、外光を遮断することもでき、照明も消すことが可能。

展示室内

大型埴輪の移動を極力避けるため、設置場所に写場を設置して撮影を行うこととした。
※室内照明は消灯し、ストロボを利用

●パターン①

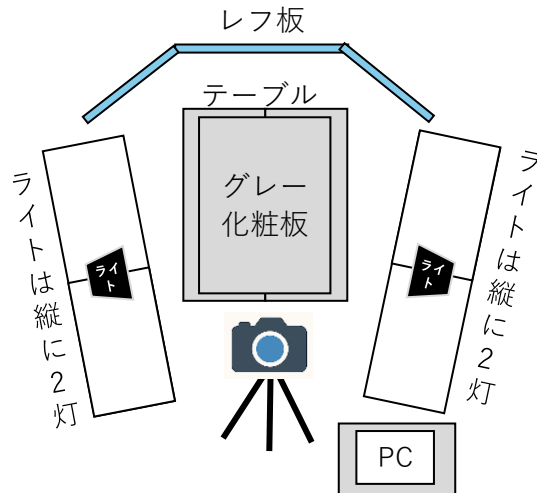
比較的小さく平面に近い対象物



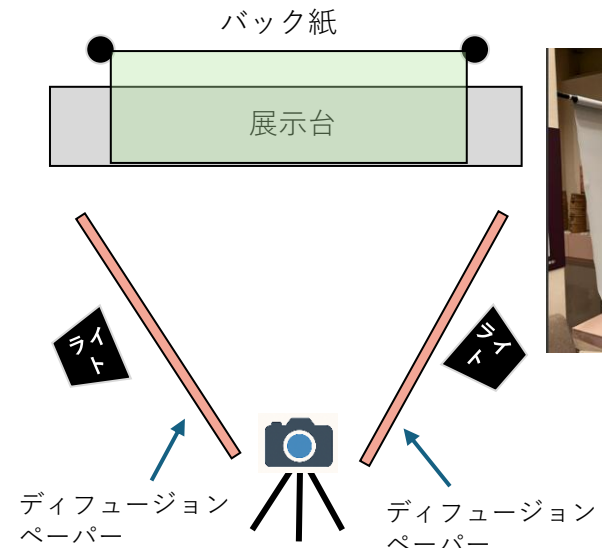
※カメラはスタンドで固定し上部に設置

●パターン②

比較的小さいが立体物で高さがある対象物



●パターン③ 埴輪など大型対象物



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

撮影リスト (1/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ
1	考古資料 5点	考古資料 (ガラス・銅・鉄製品)	1月12日	研修で撮影	90cm×90cm以内
2・3	考古資料 5点	考古資料 (ガラス・銅・鉄製品)	1月12日	研修で撮影	2・3 同じ資料
4	考古資料 5点	考古資料 (ガラス・銅・鉄製品)	1月12日	研修で撮影	
5	考古資料 5点	考古資料 (ガラス・銅・鉄製品)	1月12日	研修で撮影	
6	考古資料 5点	考古資料 (ガラス・銅・鉄製品)	1月12日	研修で撮影	
7	銅鏡	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
8	銅鏡	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
9	指輪10個	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
10	鉄鏃13個	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
11	鉄剣	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
12	鉄剣	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
13	首飾り管玉	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
14	首飾り管玉勾玉付	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
15	石のプレスレット石釧A	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
16	石のプレスレット石釧B	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
17	石のプレスレット石釧C	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
18	首飾りの玉 勾玉	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
19	銅鏃2個	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
20	土器片9個	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
21	木槌	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
22	人面土器	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
23	染色版木	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月14日	研修で撮影	w60cm×d60cm × h150cm以内
24	短甲型埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内
25	特殊器台形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内
26	朝顔形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内
27	朝顔形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内
28	朝顔形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内
29	壺形土器	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内
30	丹後型円筒埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm×d60cm × h150cm以内

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

撮影リスト (2/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ
31	家形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
32	丹後型円筒埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
33	壺形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
34	丹後型円筒埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
35	はしご	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
36	円筒埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
37	朝顔形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
38	水鳥形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
39	合子形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
40	靱形埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
41	兜形円筒埴輪	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
42	台付き土器A	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
43	台付き土器B	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
44	台付き土器C	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
45	台付き土器D	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
46	台付き土器E	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
47	銅鐸型土製品4点	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
48	鋤A	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
49	鋤B	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
50	下駄	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
51	鉄剣	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内
52	円筒土器	考古資料 (土器・はにわ・木器等)	1月15日	DNP	w60cm × d60cm × h150cm以内

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 日常業務におけるデジタル対応は、**現状ではデジタルアーカイブの構築というより、保全や報告を目的とした記録写真の撮影にとどまっている。**
- **デジタルアーカイブの積極的な活用まで視野が及んでいないのが実情である。**
- 出土品の所有権については、はにわ資料館に展示されているような土器等が個人宅などから出土した場合、一般的には警察へ通報のうえ確認が行われ、その後、はにわ資料館等の自治体施設へ寄贈されるケースが大半である。そのため、**所有権は施設側へ移転し、デジタルアーカイブ画像に関しても権利上の問題は基本的に生じない。**

施設ヒアリング：課題

<施設の運営に関して>

- 来館者数は**月約200人程度**である。
- 古墳公園に隣接しているため、**観光客は公園見学とあわせて来館するケースが多い。**一方で、町民の再訪は**あまり多くない。**
- はにわ資料館には専任学芸員は配置されておらず、**指定管理者制度を導入し、受付等の業務を委託している。**なお、**与謝野町全体では学芸員は3名体制**である。
- 観光協会から有償（1回2,000円）の**ボランティアガイドが派遣されているが、高齢化が進み、若年層の担い手が不足している。**
- **案内依頼があった場合は観光協会に依頼し対応している**（依頼は誰でも可能）。
- 施設の老朽化が進み、空調や電気設備に不具合が生じている。しかし、町全体の予算配分では住民のライフラインが優先されるため、**資料館の運営・展示に十分な予算を確保できていない。**

<学校教育に関して>

- 学校での授業自体は社会教育課では実施しておらず、**主に学校外の施設等で教育活動を行っている。**
- **内容は固定化しておらず、野外学習として子どもたちと保存景観地区を1コマで見学することが多い。**事前学習等は特に実施していない。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

舞鶴市立赤れんが博物館 (舞鶴市字浜2011番地：赤れんが1号棟)

赤れんが博物館は明治36年に建設された旧舞鶴海軍の魚雷の倉庫を活用した、日本に現存する最古級の鉄骨れんが建造物。れんがの歴史や世界の建造物で使用された様々なれんがが展示されている他、世界の著名なれんが建造物の紹介、ホフマン式輪窯を再現したコーナーでれんがの製法を紹介。

1. 舞鶴市立赤れんが博物館の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：博物館類似施設 (指定施設申請中)
- ◆ 国指定重要文化財 2008 (平成20) 年6月指定
- ◆ 2016年「旧鎮守府 横須賀・呉・佐世保・舞鶴～日本の近代化の躍動を体感できるまち～」が日本遺産に認定され、赤れんが博物館は主要構成文化財の一つになっている
- ◆ 公式HP：舞鶴市ホームページ>教育・文化・スポーツ>歴史・文化
開館時間：9:00～17:00 (最終入館 16:30)
- ◆ 休館日：年末年始 (12/29～1/1)
- ◆ 入館料：一般 (個人：400円/20名以上の団体：300円)、小学～大学の学生 (個人：150円/20名以上の団体：100円) ※ただし、市内在住か在学の学生は無料

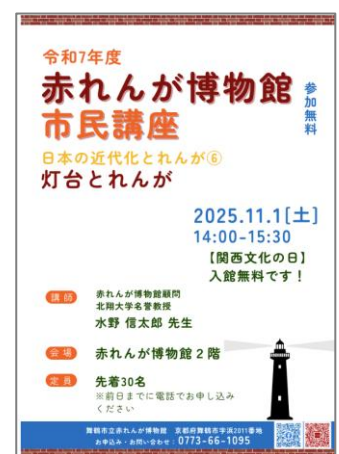


▲舞鶴市立赤れんが博物館 エントランス (赤れんが1号棟)

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

- ◆ デジタルアーカイブサイト：なし
- ◆ デジタルアーカイブはほぼ未着手。
- ◆ ウェブサイトや観光パンフレットへの情報掲載に留まっている状況。
- ◆ 文化遺産オンラインへの登録済み、資料の公開は未実施。
- ◆ 令和7年度から、舞鶴市ホームページ>「赤れんが博物館NEWS」を発行し、楽しくて役に立つれんが情報を発信している。
- ◆ 年に数回、赤れんが博物館市民講座を企画・開催。



▲赤れんが博物館NEWS

▲無料の市民講座

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

3. 常設展示室

【1F展示室】

・世界のれんが

世界各国で建築材料として広く使用されてきたれんがを展示（エジプト・メソポタミア・インダス・中国などの古代文明発祥地など）。

・ホフマン窯コーナー

かつてれんが製造を主流を占めたホフマン窯内部を再現し、れんがの作り方を紹介。



▲世界のれんが



▲ホフマン窯コーナー

【2F展示室】

・日本のれんがの歩み

中国大陸・朝鮮半島から日本へ仏教建築の材料として伝わったれんがの歩み、明治維新以降の文明開化により造られた数多くのれんが建造物を紹介し、そのれんがを展示。

・舞鶴市とれんが

旧海軍鎮守府の施設として建てられた舞鶴市内の赤れんが建造物の紹介。

・耐火れんがコーナー

江戸幕府末期に造られた反射炉の耐火れんがから現代の耐火物までを展示。

・歴史を証言するれんが

原爆ドームやアウシュビッツ強制収容所で使用されたれんがなどを展示。

・体験コーナー

れんが積木やれんがパズルなどを通して、れんが積み疑似体験できるコーナーを設置。



▲日本れんがの歩み



▲舞鶴市とれんが



▲耐火れんがコーナー



▲歴史を証言するれんが



▲体験コーナー

4. 所蔵資料の特長

- ・本格的な鉄骨構造のれんが建築物としては、日本に現存する最古級のものである。
- ・施設内では、世界四大文明のれんがなど、世界各国の「れんが」や「れんが」の歴史を展示。
- ・収蔵資料は約2,500点、展示資料は約300点。



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

現地調査：2025年11月12日（水）実施

◆参加者

- ・舞鶴市立赤れんが博物館 氏
- ・舞鶴市立赤れんが博物館 学芸員 氏
- ・舞鶴市生涯学習部 文化振興課 歴史文化まちづくり係 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 対象資料

- ・れんがが資料を中心に撮影したい。
- ・過去に撮影した画像は展示ケースの外から撮影したものが多く、公開ができない品質のものが多い。
- ・撮影希望資料：50点＋予備10点、重量資料は展示室内での撮影が望ましい。
- ・1Fの常設展示室にある大型れんがの撮影撮影：重量が38.1kgほどあり、複数名で展示ケースから持ち出し、常設展示室内での撮影を希望。
- ・撮影・研修は「感覚習得」を重視、その後、段階的にスキルを向上させていきたい意向。

2. 地域連携・目的

- ・北部地域の文化財を活用した、教育プログラム開発が必要。
- ・デジタルアーカイブ推進は観光・教育両面で重要との認識。

3. 撮影における実務課題

- ・搬送について：1Fの大型れんがの移動については2名以上で移動が必要、施設内エレベーターは利用が可能。
- ・撮影スペース：2F展示室の一角にある「休憩コーナー」を一時転用する方法を検討。
- ・実地研修と撮影のタイミングは、観光繁忙期（7月～12月上旬）を避け、閑散期（1～2月）に実施する。

4. 施設の保有機材

- ・三脚 1台（Velbon製）
- ・デジタルカメラ 1台（Canonコンパクトデジタルカメラ）



▲現地調査 打合せの様子



▲現施設の保有機材（三脚・デジタルカメラ）



▲撮影スペースの候補（2F休憩コーナー）



▲撮影希望の大型れんが（1F）



▲撮影希望の大型れんが（1F）

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

開館日に常設展示室の2Fの一角にある休憩スペースを写場にして撮影研修開始。1日目は簡易的な座学研修および、紙管組み立てから撮影体験（れんが3点）まで実施。2日目は、前日からの撮影セットを使い、職員や学芸員自身がれんがのピクセルシフト撮影などを体験した。

実地研修（1日目）

1月18日 日	Day 1	研修準備日	分類	数量			
12:50	集合 開始	機材 準備・調整 事前確認 撮影場所の設定：2Fの休憩コーナーを転用して設置 座学講義開始 紙管 セッティング開始 事前確認（撮影対象物 準備） 鉄釉敷瓦 旧ベルリンの壁れんが ゲジミナス城れんが					
13:00							
13:30							
14:30							
14:45							
15:00							
15:50							
17:00					終了・退出		
						日計	3

実地研修（2日目）

1月19日 月	Day 2	研修日	分類	数量			
8:50	集合 開始 昼休憩 集合 再開 撮影終了 終了・退出	撮影研修と実技の開始 撮影台にて継続作業（3名で受講） 撮影実技	立体	17			
9:00							
9:30							
12:00							
12:50							
13:00							
16:40							
17:00							
						日計	44



▲2F常設展示室の休憩コーナーに写場を設置



▲簡易な座学研修を実施



▲紙管の組み立て作業を体験



▲実技研修



▲学芸員が撮影資料を展示ケースから取り出して撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

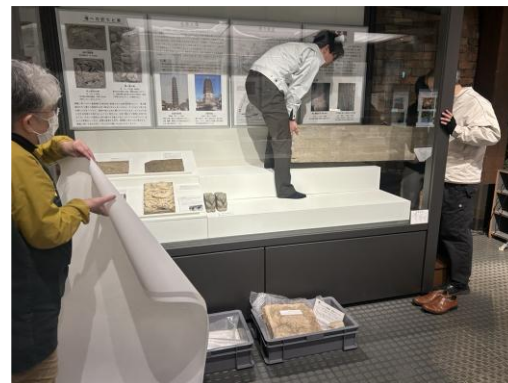
撮影 (3日目)

1Fの大型の展示資料を撮影する為、博物館を臨時休館にして撮影を実施。特に展示ケースに固定された状態では取り出しができない大型資料は、DNPスタッフがショーケースのガラス面に周囲の造作などが映り込むことを防ぐ特殊な撮影セットとライティングを施して撮影した。

1月20日 火	Day 3	撮影 1日目 (博物館を臨時休館にして撮影)	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	段取り打合せ・セット開始		
9:45	撮影開始	2Fで撮影 (2F収蔵物) 2点撮影で終了	立体	2
10:02		大型セット替え1Fで撮影 (1F収蔵物)	特殊 (立体)	8
11:08		研修機材 移動 (赤れんが博物館→舞鶴市郷土資料館へ)		
12:00				
	昼休憩			
13:00	再開	大型セット替え1Fで撮影 (1F収蔵物) 1Fで真俯瞰のセットを組みなおして追加で真俯瞰カットを撮影		
15:00		大型の資料2点を常設展示ケースから取り出して、撮影	特殊 (立体)	2
17:00	終了・退出	展示室の原状復帰の上、撮影終了		
			日計	12



▲ 1F常設展示室の一角に大型資料を撮影するセットを用意



▲ 1F常設展示室の展示ケースから市の職員2名が資料の取り出し作業をサポート



▲ 1F常設展示室の床に大型れんがを設置しての撮影



▲ 1Fガラスの展示ケースから取り出すことができない展示品は、ガラスに反射がないような特殊撮影を実施

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

撮影 (4日目)

4日目は、当初撮影予定ではなかった資料 (タイル等) を16点追加で撮影し、同セットにて、舞鶴市郷土資料館が所蔵する「布川家文書」1点を撮影した。

1月21日 水	Day4	撮影2日目	分類	数量
8:50	集合	2Fで撮影 (2F収蔵物) 当初撮影予定リストにはない資料 (タイル) を追加撮影	立体	2
9:00	開始			
12:00	終了 昼休憩	13時から、館長立ち合いの元で舞鶴市郷土資料館の資料1点 布川家文書 (1点・7カット) 当初撮影予定リストにはない資料 (タイル) を追加撮影	平面	—
13:00	再開			
16:00	終了・退出	撮影機材を移動 (舞鶴市赤れんが博物館→舞鶴市郷土資料館)	立体	14
			日計	16



▲舞鶴市郷土資料館 「布川家文書」1点7カットを赤れんが博物館の写場にて撮影 (郷土資料館長兼赤れんが博物館長のお立ち合い)

撮影した資料点数
: 75点 (86カット)

研修 : 47点/2日

- 国内、海外のれんが
- 大型れんが

DNP撮影 : 28点/2日

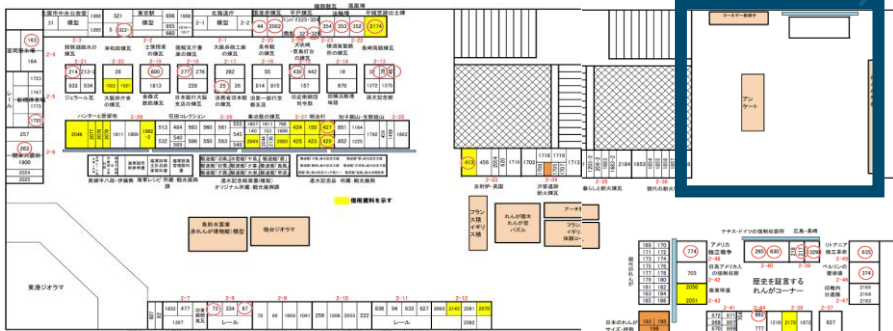
- かわら、れんが、タイル

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

撮影環境 (写場について)

写場は1F・2F常設展示室の一面を利用。

2F展示室

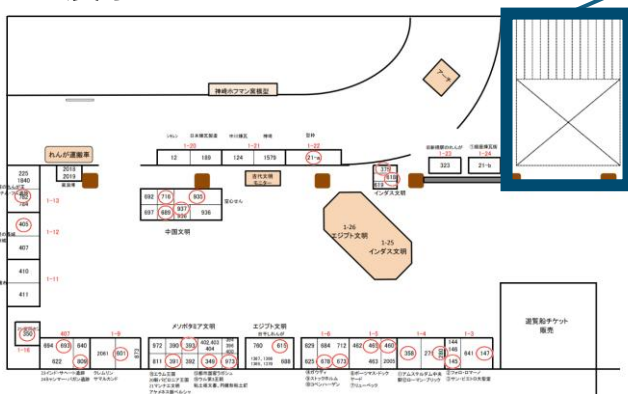


▲18平方メートル程度の休憩スペースを利用



▲このスペースを活用し、小さな立体物 (れんが) を撮影

1F展示室

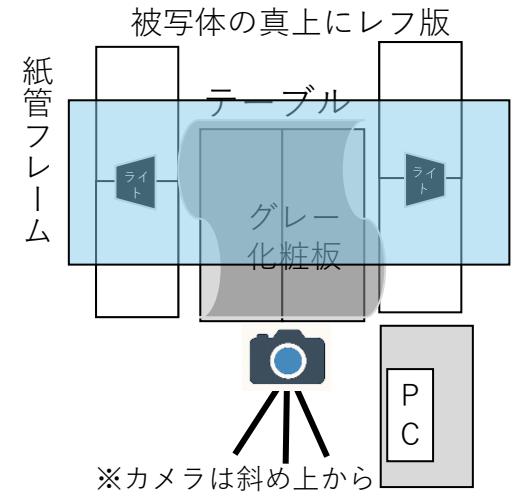


▲12平方メートル程度の映像鑑賞スペースを利用

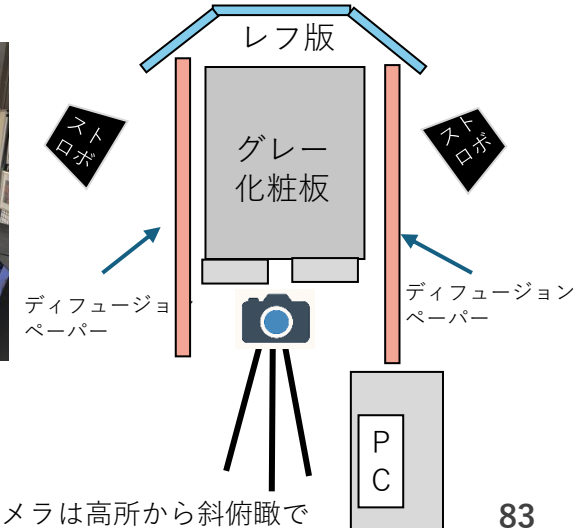


▲このスペースを活用し、大きな立体物 (れんが) を撮影

●パターン①
背景が必要な立体物 (斜俯瞰)



●パターン②
大型立体物の撮影



※カメラは高所から斜俯瞰で

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

撮影リスト (1/3) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	鉄釉敷瓦 (日本)	1月18日	研修で撮影	330×330×30	立体 倉庫
2	旧ベルリンの壁れんが (ドイツ)	1月18日	研修で撮影	259×134×64	立体 2F
3	ゲジミナス城れんが (リトアニア)	1月18日	研修で撮影	305×125×70	立体 2F
4	アレクサンドロフスキー宮殿れんが (ロシア)	1月19日	研修で撮影	242×117×70	立体 2F
5	オールド・ノース教会れんが (アメリカ)	1月19日	研修で撮影	199×93×48	立体 2F
6	浦上天主堂れんが[長崎県]	1月19日	研修で撮影	170×107×61	立体 2F
7	讃岐煉瓦(株)製原爆ドームれんが[広島県]	1月19日	研修で撮影	218×102×58	立体 2F
8	テレジン収容所れんが (チェコ)	1月19日	研修で撮影	320×160×85	立体 2F
9	アウシュビッツ強制収容所れんが (ポーランド)	1月19日	研修で撮影	160×117×61	立体 2F
10	葦山反射炉 耐火れんが [静岡県]	1月19日	研修で撮影	222×220×88	立体 2F
11	赤れんが博物館 (旧舞鶴海軍兵器廠魚形水雷庫) れんが	1月19日	研修で撮影	233×107×70	立体 2F
12	まいづる智恵蔵 (旧舞鶴海軍兵器廠弾丸庫並小銃庫) れんが	1月19日	研修で撮影	226×107×54	立体 2F
13	日本ハリストス正教会教団 東京復活大聖堂 (ニコライ堂) れんが	1月19日	研修で撮影	207×109×55	立体 2F
14	日本煉瓦製造(株)製汐留遺跡出土れんが (新橋停車場)	1月19日	研修で撮影	232×113×61	立体 2F
15	旧富岡製糸場れんが [群馬県]	1月19日	研修で撮影	227×105×49	立体 2F
16	明治村帝国ホテル中央玄関すだれれんが	1月19日	研修で撮影	210×100×55	立体 2F
17	明治村帝国ホテル中央玄関テラコッタ	1月19日	研修で撮影	210×210×65	立体 2F
18	東洋組西尾分局製れんが	1月19日	研修で撮影	226×111×57	立体 2F
19	琵琶湖疏水 水路閣 [京都市]	1月19日	研修で撮影	150×111×58	立体 2F
20	開拓使茂辺地煉化石製造所製旧開拓使函館支庁書庫れんが [北海道]	1月19日	研修で撮影	222×110×58	立体 2F
21	竹内仙太郎製菅島燈台付属官舎れんが[三重県]	1月19日	研修で撮影	235×115×50	立体 2F
22	史跡小菅修船場跡れんが [長崎県]	1月19日	研修で撮影	124×108×44	立体 2F
23	史跡小菅修船場跡れんが [長崎県]	1月19日	研修で撮影	89×112×44	立体 2F
24	法務省日本館れんが [東京都]	1月19日	研修で撮影	222×106×58	立体 2F
25	平城宮跡出土第一次大極殿磚積擁壁磚[奈良県]	1月19日	研修で撮影	290×160×79	立体 2F
26	鳳凰磚 (日本)	1月19日	研修で撮影	220×295×50	立体 2F
27	法輪磚 (日本)	1月19日	研修で撮影	400×180×50	立体 2F
28	平戸オランダ商館跡 れんが [長崎県]	1月19日	研修で撮影	165×110×35	立体 2F
29	平戸オランダ商館跡 れんが [長崎県]	1月19日	研修で撮影	110×110×38	立体 2F
30	ハルデスレンガ [長崎県]	1月19日	研修で撮影	222×105×40	立体 2F

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

撮影リスト (2/3) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
31	横須賀製鉄所製 れんが [神奈川県]	1月19日	研修で撮影	235×114×50	立体 2F
32	日本煉瓦製造(株)製東京駅丸の内駅舎れんが [東京都]	1月19日	研修で撮影	228×113×57	立体 2F
33	小菅集治監製銀座煉瓦街れんが[東京都]	1月19日	研修で撮影	225×105×60	立体 1F
34	モエンジョ・ダロ遺跡出土れんが (パキスタン)	1月19日	研修で撮影	300×150×65	立体 1F
35	ハラッパー遺跡出土れんが (パキスタン)	1月19日	研修で撮影	105×120×50	立体 1F
36	明命 (ミンマン) 帝陵れんが (ベトナム)	1月19日	研修で撮影	295×140×62	立体 1F
37	クレムリン グラノヴィータヤ宮殿れんが (ロシア)	1月19日	研修で撮影	231×113×73	立体 1F
38	セント・ペトリ教会れんが (ドイツ)	1月19日	研修で撮影	180×135×80	立体 1F
39	織部敷瓦 (日本)	1月19日	研修で撮影	285×300×40	立体 2F
40	ポーツマス・ドックヤード第10倉庫れんが (イギリス)	1月19日	研修で撮影	225×105×70	立体 1F
41	ゲエル公園 多列柱室れんが (スペイン)	1月19日	研修で撮影	280×140×15	立体 1F
42	コロニア・グエル地下聖堂れんが (スペイン)	1月19日	研修で撮影	160×140×50	立体 1F
43	フォロ・ロマーノ出土れんが (イタリア)	1月19日	研修で撮影	257×124×32	立体 1F
44	サン・ピエトロ大聖堂れんが (バチカン)	1月19日	研修で撮影	273×125×32	立体 1F
45	アムステルダム中央駅れんが (オランダ)	1月19日	研修で撮影	209×99×50	立体 1F
46	伏羲と蛇の塼 (南京近郊の墳墓) (中国)	1月19日	研修で撮影	212×290×30	立体 1F
47	鷺と蓮の塼 (仏教寺院跡) (中国)	1月19日	研修で撮影	385×210×75	立体 1F
48	動物の浮彫、神話の刻印入り (中国)	1月20日	DNP	202×127×68	立体 1F
49	都市国家ラガシュ跡地出土楔形文字入りれんが (イラク)	1月20日	DNP	315×305×55	立体 1F
50	ドーバーの要塞城壁のローマンブリック (イギリス)	1月20日	DNP	420×310×30	立体 1F
51	万里の長城 城塼 (明代) (中国)	1月20日	DNP	400×200×100	立体 1F
52	パガン遺跡 褐釉浮彫れんが (ミャンマー)	1月20日	DNP	239×242×34	立体 1F
53	サヘート遺跡 (祇園精舎) 僧院跡れんが (インド)	1月20日	DNP	410×195×95	立体 1F
54	チョガ・ザンビル出土楔形文字入りれんが (イラン)	1月20日	DNP	355×170×90	立体 1F
55	ウルのジググラト アブズ神殿アマル・スエン記銘れんが (楔形文字) (イラク)	1月20日	DNP	300×300×50	立体 1F
56	楔形文字入りれんが (新バビロニア朝時代) (イラク)	1月20日	DNP	325×325×60	立体 1F
57	マルカタ南遺跡魚の丘祭殿出土日干しれんが (エジプト)	1月20日	DNP	340×170×110	立体 1F
58	不死樹と羽人刻印入り空洞塼 (王侯貴族の墳墓) (中国)	1月20日	DNP	1286×300×176	特殊 1F
59	亭長と虎刻印入り空洞塼 (黄河流域王侯貴族の墳墓) (中国)	1月20日	DNP	1260×200×200	特殊 1F

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

撮影リスト (3/3) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
60	石田兵一コレクション かわら	1月21日	DNP	追加分：サイズ記載なし	立体 2F
61	石田兵一コレクション レンガ	1月21日	DNP		立体 2F
62	博物館No 950 有田焼タイル	1月21日	DNP		立体 倉庫
63	博物館No 952 有田焼タイル	1月21日	DNP		立体 倉庫
64	博物館No 949 有田焼タイル	1月21日	DNP		立体 倉庫
65	博物館No 953 瀬戸本業式瓦	1月21日	DNP		立体 倉庫
66	博物館No 954 ヴィクトリアンタイル (近代湿式象嵌タイル)	1月21日	DNP		立体 倉庫
67	博物館No 955 ヴィクトリアンタイル (チューブライニングタイル)	1月21日	DNP		立体 倉庫
68	博物館No 956 ヴィクトリアンタイル (鉛透明釉タイル)	1月21日	DNP		立体 倉庫
69	博物館No 962 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP		立体 倉庫
70	博物館No 963 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP		立体 倉庫
71	博物館No 964 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP		立体 倉庫
72	博物館No 965 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP		立体 倉庫
73	博物館No 966 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP		立体 倉庫
74	博物館No 967 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP		立体 倉庫
75	博物館No 968 北京日中友好会館 試作タイル 加藤唐九郎作	1月21日	DNP	立体 倉庫	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (7) 舞鶴市立赤れんが博物館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 企画展や情報発信により、赤れんがの魅力国内外に伝え、博物館への来館動機へとつなげたい。
- 赤れんがのまち「まいづる」に興味を持ってもらい、地域の活性化につなげたい。
- 「誰でも」「いつでも」「どこでも」「自由に」公開可能な所蔵資料にアクセスでき、学びの機会が提供されている状態にしたい。
- 資料等の情報を公開することにより、学習活動や文化芸術活動に貢献したい。
- 資料情報の整理による資料管理の効率化を図りたい。
- 赤れんが博物館単館だけではなく、引揚記念館、郷土資料館、公民館、学校等が有している舞鶴市の文化的かつ歴史的資源である所蔵品をデジタルアーカイブ化し、国内外に発信し、市内の文化資源情報を確認できる環境を整備することで、舞鶴市への来訪動機につなげたい。
- 今回撮影したデータは、文化遺産オンライン登録し、さらに市役所のHPに公開したい。

施設ヒアリング：課題

- デジタル化の重要性は理解しているものの、3名の職員で運営しており、実作業を担う余力・時間が不足している。
- 収蔵資料は約2,500点あるが、展示資料は約300点で多くが「死蔵」状態にある。
- 収蔵庫が未整備であり、定期的な展示替えや企画展が開催しづらい状況。
- れんが台帳、写真、貯蔵経過書等の整っていないものも多数ある。
- デジタル化や公開する資料の著作権状況を確認し、必要な許諾を得る作業を行う必要がある。
- 展示解説をするギャラリーツアーなどもできるとよいが、解説ができる職員は2名であり、対応できる余裕や時間がないのが実情。
- 本事業においては、施設を1日臨時休館するなどして撮影スケジュールを組んだが、同じような規模で継続するとなると撮影スケジュールを組むのが難しい。資料の安全な取り扱いとデジタル化作業を行うためのスペースを確保する必要がある。

その他

- 毎年、市内の小学6年生18校が見学に来館する機会がある。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

舞鶴市郷土資料館 (京都府舞鶴市南田辺1)

古代の文化や仏教美術、城下町、海軍の遺産、引き揚げなど、舞鶴が誇る歴史や文化の全体像を紹介。貴重な実物資料や映像資料を展示するとともに舞鶴の様々な歴史文化情報を得ることができるガイダンス施設。

1. 舞鶴市郷土資料館の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：指定施設
- ◆ 公式HP：舞鶴市の公式WEBサイト>教育・文化・スポーツ>歴史・文化>郷土資料館
- ◆ 開館時間：9:00~17:00 (最終入館 16:30)
- ◆ 休館日：月曜日 (祝日の場合は翌々日)、年末年始、企画展の前後など臨時休館あり
- ◆ 入館料：一般 (個人：100円、団体：70円)、
学生 (個人：50円、団体：30円 ※市内在学・在住者は無料)



▲舞鶴市郷土資料館 外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：なし

- ◆ 一部資料の公開：「舞鶴市郷土資料館だより」に一部収蔵資料画像を利用。
- ◆ 掲載の頻度：月次



▲舞鶴市郷土資料館だより
令和8年1月号

- ◆ 立命館大学アート・リサーチセンターにより、同施設の所蔵品を用いた「舞鶴市糸井文庫デジタルミュージアム」「舞鶴市糸井文庫浮世絵閲覧システム」が公開されている。
- ◆ 京都府立大学歴史学科と連携し、図書館等含めた資料の一括検索・ダウンロードが可能なWebサイト「まるまる舞鶴」公開中。



▲舞鶴市糸井文庫浮世絵閲覧システム



▲まるまる舞鶴

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

3. 常設展示室

常設展示：古代の文化や仏教美術、城下町、海軍の遺産、引き揚げなど、舞鶴が誇る歴史や文化の全体像を紹介。

・海とともに生きる

日本海を介して外部と交流すると共に様々な文化を受け入れてきた舞鶴の歴史を、出土した考古資料を通して紹介。

・日本海大交易の時代

多数の船頭や乗組員を輩出し、日本海海運の一翼を担った舞鶴の歴史を紹介。

・城下町田辺の歴史と文化

江戸時代を通じ藩領の中心地として発展した城下町・田辺の歴史と文化を絵図や絵巻を通して紹介。

・海軍の遺産

日本海側唯一の軍港として設置された舞鶴鎮守府関連の近代化遺産をパネルで紹介

・糸井文庫

糸井仙之助により収集された丹後地方ゆかりの錦絵等のコレクションを展示

・舞鶴のまつりと祈りのころ

舞鶴に残る四季折々の祭りや多彩な民俗芸能を紹介

・舞鶴のみほとけたち

国宝や重要文化財に指定される仏教美術の優品をパネルで紹介

4. 所蔵資料の特長

考古出土品、歴史的文書、民具や、錦絵、絵巻等、舞鶴市に関連する多彩な収蔵資料を保有。



▲「海とともに生きる」考古資料の展示



▲「日本海大交易の時代」北前船模型



▲「城下町田辺の歴史と文化」古地図



▲舞鶴藩知事辞令書



▲「糸井文庫」浮世絵



▲丹後田辺府誌

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

現地調査：2025年11月12日（水）実施

◆参加者

- ・舞鶴市郷土資料館 学芸員 ████████ 氏
- ・舞鶴市生涯学習部 文化振興課 市史編さん係 ████████ 氏
- ・舞鶴市生涯学習部 文化振興課 歴史文化まちづくり係 ████████ 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. デジタル化の目的と背景

- ・舞鶴市郷土資料館で所蔵する資料（約6万点）を効率的にデジタル化する必要がある。
- ・市史編纂事業が進行中で、外部執筆者への資料提供のため大量撮影が求められている。
- ・現在の保有機材は古く、効率が悪いため改善が必要。

2. デジタル化の方法と技術

- ・撮影セットの工夫：軽量フレーム+LED照明、傾斜台で腰への負担軽減。
- ・撮影モード：テザーモードでPC連携、自動処理。
- ・対象資料：古文書、絵巻物、図面、大砲関連資料、写真など。
- ・撮影方針：公開用は表紙+見開きページで概要を示す。
内部利用（市史編纂）は全ページ撮影を目指す。
NPO法人堀内氏：高解像度で質感まで記録することを推奨。
（後の解析に有用の為）

3. 公開と優先順位

- ・公開価値の高い資料（市指定・府指定文化財）を優先。
- ・非公開資料（手書き図面など）は内部利用目的で撮影。

4. 実地研修とスケジュール

- ・研修目的：学芸員・関係者が撮影技術を習得。
- ・場所：郷土資料館（公民館併設）

5. 機材・設備

- ・改造や工夫で当面对応可能だが、将来的には更新が必要。
- ・京都府北部文化データセンター（仮称）の活用も視野に入れる。



▲現地調査時会議風景



▲絵巻物（朝代神社祭礼絵巻）



▲埋蔵銭



▲文書類



▲大砲関連資料

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

実地研修 (1日目)

赤れんが博物館から研修機材が到着後、市史編纂室の担当者も合流してNPO法人フィールドより講義を開始。紙管セットの組み立てからディフューザー張り、ライト取り付け、レフ板の作成を行った上で、平面資料の撮影体験も実施し、計9点を撮影。

1月20日 火	Day 1	研修準備・研修日	分類	数量
12:50	集合	研修機材 到着 (赤れんが博物館 → 舞鶴市郷土資料館)		
13:00	開始	機材 準備・調整 事前確認		
13:45		研修の趣旨説明・研修講義開始		
14:30		紙管セット×2組み立て、ディフューザー張り、ライト 取り付け、レフ板作成	平面	9
15:40		撮影開始 通し番号1~9		
17:00	終了・退 出		日計	9



▲簡易なレフ板の作成



▲紙管セットの
組み立て



▲堀内氏による講義



▲紙管セットの組み立て



▲実技の研修風景



▲担当者による撮影風景

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

実地研修 (2日目)

1日目に引き続き、市史編纂室の担当者も含め卷子・絵巻・文書を中心に撮影を進行。後半には横長の大型絵巻物「朝代祭礼絵巻」を部分ごとに計20カット撮影、フォトステッチを当日中に実施。また、翌日からの大型資料撮影に必要な機材を別室(3F)に搬入。

1月21日 水	Day2	研修日	分類	数量
8:50	集合			
9:00		機材準備		
9:30		撮影開始 平面		
10:25		ライト2台にセット変更	平面	10
11:00		卷子・絵巻	平面	2
12:00				7
	昼休憩			
13:00	再開	卷子・絵巻・文書	平面	16
15:20	休憩			
15:45	再開	Affinityによるフォトステッチ講義		
15:55		朝代祭礼絵巻計20カットをフォトステッチのため撮影	平面	1
16:30		撮影完了・撤収作業		
16:30		撮影機材 到着 (赤れんが博物館 → 舞鶴市郷土資料館)		
17:20	終了・退出	研修用機材類撤収・3F会議室にて撮影機材搬入		
			日計	36



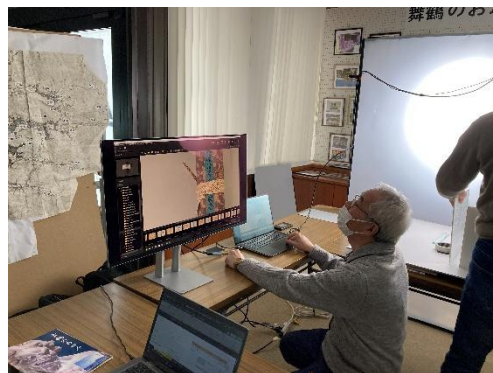
▲卷子が転がらないよう固定



▲大型資料の撮影調整



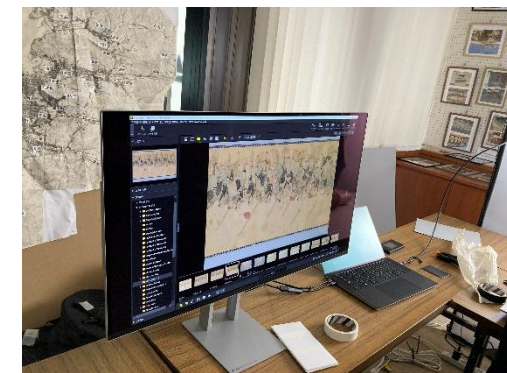
▲文書の設置風景



▲卷子の撮影風景



▲大型絵巻物の設置



▲絵巻物の撮影後データ

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

撮影 (3日目)

対象物の大きさ・形状等に合わせ都度セッティングを変更しながら、午前中は立体の考古資料(土器等)を、午後は平面資料(文書等)を計24点撮影。予定撮影分が完了した為、機材を撤収し3日目で撮影を終了。

1月22日 木	Day 3	撮影 1 日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	3F会議室で機材セッティング		
9:30		考古資料(土器等)撮影	立体	12
11:30		考古資料(土器等)撮影終了、大型平面用にセッティング変更		
12:00	終了 昼休憩 再開			
13:00		大型資料(国松家文書)撮影	平面	6
14:30		リスト外品目撮影(牧野家文書)撮影		4
15:05	(休憩)			
15:15	再開	リスト外品目撮影(牧野家文書)撮影		2
15:50		セッティング変更、リスト外品目撮影(牧野家文書)		
16:15		撮影終了		
17:00	終了・退出	～機材 撤収(荷物まとめ)		
			日計	24



▲立体物の撮影



▲大型資料の撮影



▲大型資料時のライティング



▲脚立での位置調整

撮影した資料点数
: 70点 (146カット)

研修 : 45点/2日

- 卷子・文書・絵図類 (44点)
- 大型絵巻物 (1点)

DNP撮影 : 24点/1日
1点/1日※

※ 1/21に赤れんが博物館にて撮影

- 考古資料 (12点) ※
- 文書・絵図類 (13点)

※ 1/21に赤れんが博物館にて撮影した1点含む

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

撮影環境 (写場について)

舞鶴西総合会館3F 311会議室：約70平方メートル
・撮影に使用可能な机・椅子等あり



▲研修会場 (郷土資料館ロビー)
・部屋半分を写場とし照明を一部落として使用



▲3F撮影場所

●パターン①



▲古地図 (1日目)

●パターン②



▲物入れ (3日目)

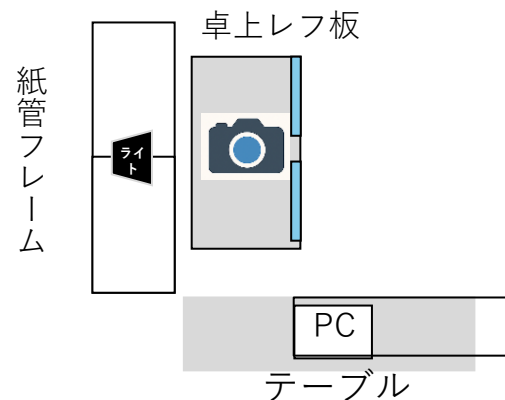
●パターン③



▲図面 (3日目)

●パターン①

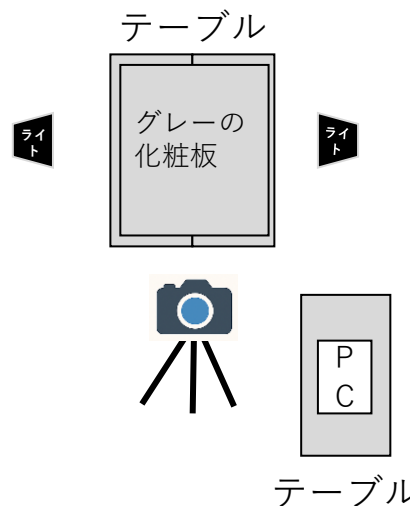
小型平面資料 (文書・地図等)



※カメラはスタンドで固定し上部に設置

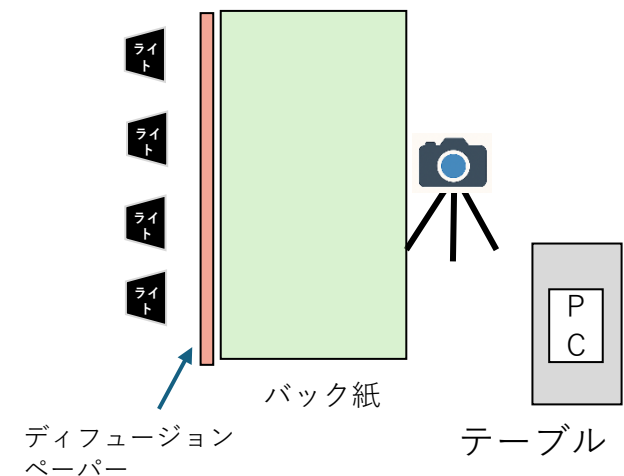
●パターン②

小型立体物 (民俗資料・考古資料等)



●パターン③

大型平面資料 (図面・地図等)
脚立で高所から撮影



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

撮影リスト (1/3)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ
1	井上家文書		1月20日	研修で撮影	
2	井上家文書		1月20日	研修で撮影	
3	井上家文書		1月20日	研修で撮影	
4	布川家文書	丹後國加佐郡余部下村全図	1月20日	研修で撮影	
5	布川家文書	第四余部鎮守府明治20年7月25日御内定測量地図	1月20日	研修で撮影	
6	布川家文書	両町合併ニ関スル嘆願書	1月20日	研修で撮影	
7	布川家文書	市場ヨリ長浜浦ニ達スル街道加佐郡余内村大字余部下地係り道路開鑿工事施工日誌	1月20日	研修で撮影	
8	布川家文書	道路開鑿工事設計書 加佐郡余部町字余部下	1月20日	研修で撮影	
9	布川家文書	丹後國加佐郡寺社町在旧記	1月20日	研修で撮影	
10	布川家文書	鎮守府御用宿帳	1月21日	研修で撮影	
11	布川家文書	海軍御用費用	1月21日	研修で撮影	
12	布川家文書	鎮守府御用日誌	1月21日	研修で撮影	
13	布川家文書	明治三十年二月呉港取調問合	1月20日	研修で撮影	
14	國松家文書	亜墨利加封度初御筒 鑄立仕立御入用勘定書	1月21日	研修で撮影	
15	國松家文書	拂蘭西御筒	1月21日	研修で撮影	
16	國松家文書	鑄物師職之事 (鑄物師職許状)	1月21日	研修で撮影	包紙あり
17	國松家文書	文字型「敵」「愼」	1月21日	研修で撮影	野田笛浦大砲の字型
18	國松家文書	舞鶴水交支社西洋館 風窓鑄鉄物現寸図	1月21日	研修で撮影	55×79
19	國松家文書	三貫目モルチイル献上筒切形 (牧野家家紋入)	1月21日	研修で撮影	56×30.5 コピーあり
20	布川家文書	余部上新市街図 (加佐郡余部町余部上地図)	1月21日	研修で撮影	
21	布川家文書	余部下 (加佐郡余部町字余部下新市街地図)	1月21日	研修で撮影	
22	梅垣西浦文書	巻1	1月21日	研修で撮影	
23	梅垣西浦文書	巻2	1月21日	研修で撮影	
24	梅垣西浦文書	巻3	1月21日	研修で撮影	
25	梅垣西浦文書	巻4	1月21日	研修で撮影	
26	梅垣西浦文書	巻5	1月21日	研修で撮影	
27	牧野家文書	木箱「丹後加佐郡東大浦沿岸写生図二巻」	1月21日	研修で撮影	2巻
28	牧野家文書		1月21日	研修で撮影	
29	朝代祭礼絵巻	朝代祭礼絵巻の箱	1月21日	研修で撮影	
30	朝代祭礼絵巻	巻1	1月21日	研修で撮影	3巻
31	朝代祭礼絵巻	巻2	1月21日	研修で撮影	
32	朝代祭礼絵巻	巻3	1月21日	研修で撮影	
33	牧野家文書	舞鶴藩知事被仰付候事	1月21日	研修で撮影	
34	牧野家文書	父豊前守生前願～	1月21日	研修で撮影	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

撮影リスト (2/3)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ
35	糸井文庫	丹後の国変化物語 4冊	1月21日	研修で撮影	
36	糸井文庫	やぶれやつづくりばなし 2冊	1月21日	研修で撮影	
37	糸井文庫	北溟手記 所識姓名録	1月21日	研修で撮影	
38	糸井文庫	丹後国加佐郡海岸之絵図	1月21日	研修で撮影	
39	糸井文庫	丹後国加佐郡海岸之絵図	1月21日	研修で撮影	
40	糸井文庫	丹後国加佐郡海岸之絵図	1月21日	研修で撮影	
41	糸井文庫	田邊紀	1月21日	研修で撮影	
42	糸井文庫	享保二十卯年洪水之記	1月21日	研修で撮影	
43	牧野家文書	丹後田邊府誌	1月21日	研修で撮影	
44	牧野家文書	諸家系譜 六巻	1月21日	研修で撮影	
45	朝代祭礼絵巻	巻1	1月21日	研修で撮影	3巻
46	引土埋蔵銭		1月22日	DNP	
47	志高土器		1月22日	DNP	
48	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
49	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
50	タカラガイ壺		1月22日	DNP	
51	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
52	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
53	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
54	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
55	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
56	志高遺跡土器		1月22日	DNP	
57	引土埋蔵銭		1月22日	DNP	
58	國松家文書	陸軍鑄造迦のう 十二凡度正図	1月22日	DNP	58×296
59	國松家大砲関連資料並びに鑄物師 関連資料	鉄製三貫目短常煩全図重量凡三百五十貫(尾州古屋信 之写之)	1月22日	DNP	45×225
60	國松家文書	合武三島流青銅銃一貫目玉走五尺三寸正面之図	1月22日	DNP	171×40~27

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

撮影リスト (3/3)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	数量 (カット数)	撮影日	撮影主体	サイズ
61	國松家文書	釣鐘正図 惣長4尺	1	1月22日	DNP	
62	國松家文書	合武三鳥島流青銅上鑄掛銃一貫玉走三尺四寸五分正面之図	1	1月22日	DNP	124.5×39~30
63	國松家大砲関連資料並びに鑄物師関連資料	十五ドイム則廿四ポイント鉄弾「ハウ井ツツル」砲鑄鑄造正寸全図	1	1月22日	DNP	39.2×106
64	牧野家文書	田邊城圖	1	1月22日	DNP	
65	牧野家文書	加佐郡圖	3	1月22日	DNP	
66	牧野家文書	舞鶴市街平面図	1	1月22日	DNP	
67	牧野家文書	鴻巣御廟所総絵図	1	1月22日	DNP	
68	牧野家文書	勝願寺 総絵図	1	1月22日	DNP	
69	牧野家文書	舞鶴市街平面図	2	1月22日	DNP	
70	布川家文書 (内容は下記画像参照) ※舞鶴市立赤れんが博物館で撮影済み		7			

写し込み	枝番	内容	内容
別-01	-1	布川家文書	表紙
別-01	-2	布川家文書	見開き 中見せ-1
別-01	-3	布川家文書	見開き 中見せ-2
別-01	-4	布川家文書	見開き 中見せ-3
別-01	-5	布川家文書	見開き 中見せ-4
別-01	-6	布川家文書	見開き 中見せ-5
別-01	-7	布川家文書	見開き 中見せ-6



▲舞鶴市郷土資料館 「布川家文書」1点7カットを
赤れんが博物館の写場にて撮影
(郷土資料館長兼赤れんが博物館長のお立ち合い)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (8) 舞鶴市郷土資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 2033年の完成を目標に、再雇用職員を中心とした市史編纂室により『舞鶴市史』の編纂を進めている。郷土資料館が主体というより、市史完成を最優先課題とし、その基礎作業として資料のデジタル化を推進している。デジタル化作業も、市史編纂室メンバーが中心となって担う予定である。
- 市史は紙媒体に加え、Web上でデータベースとして閲覧できる形での公開も計画している。舞鶴鎮守府の日本遺産登録や「艦これ」などの影響で注目が高まっていることから、関連資料を含め積極的にデジタル化・公開していく方針である。
- 一方、舞鶴市郷土資料館は常設展示のみで、企画展示スペースがない。そのため、寄贈資料等を十分に公開できず、活用機会の不足が課題となっている。また、受益者負担の見通しに伴う有料化により、市民が気軽に立ち寄りにくくなった面もある。これらの課題解決策として、デジタルアーカイブを活用し、Web上で企画展を実施するなどの取り組みが期待される。

施設ヒアリング：課題

- 現在、事務職員3名のみで施設運営を行っており、学校見学や出前授業にも対応している。デジタルアーカイブについては、市内で鎮守府資料の活用要望が時折あるものの、外部からの問い合わせはほとんどない状況である。
- 専属職員は会計年度任用職員のみであるが、市文化振興課が「資料館だより」の作成等を支援している。また、学芸員の採用数も比較的多く、小規模館としては体制に恵まれていると認識している。
- 収蔵については、廃校を収蔵庫として活用している。紙資料は施設内、民俗資料・考古資料は廃校といった形で分散管理している。資料数は増加傾向にあるが、収蔵先となる廃校を増やすと維持管理費が増大するため、現時点で拡張の予定はない。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

京都府立堂本印象美術館 (京都市北区平野上柳町26-3)

大正～昭和に活躍した京都画壇の中心画家・堂本印象が1966(昭和41)年に設立した美術館で、印象自らが外観や内装をデザイン。2018(平成30)年3月のリニューアルオープンに伴い、レリーフや外壁などを改修した。画壇デビュー作「深草」(1919年)から後年の「交響」(1961年)など、生涯にわたる作品を所蔵。変幻自在な表現の変遷をたどることができる。所蔵品は日本画、洋画や彫刻など約2300点。印象作品のほか近現代日本画の展覧会を順次開催。

1. 京都府立堂本印象美術館の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：指定施設 ※指定管理者制度導入
- ◆ 国登録有形文化財 2025(令和7)年登録
- ◆ 公式HP：<https://insho-domoto.com>
- ◆ 開館時間：9:30～17:00(入館は16:30まで)
- ◆ 休館日：月曜(休日の場合は翌平日)・年末年始(12/28～1/4)
- ◆ 入館料：(個人)一般580円・高～大学生450円・65才以上290円、中学生以下無料
(団体：20名以上)一般460円・高～大学生360円・65才以上230円・中学生以下無料



▲京都府立堂本印象美術館 外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

◆ デジタルアーカイブサイト：なし

◆ 資料の公開その他発信状況：
・文化遺産オンラインに作品登録なし。
・Google Arts & Cultureに50点登録。
HPには内13点掲載。

・グッズ展開多数あり。ミュージアムショップ(通販対応)あり。

◆ 掲載の頻度：
お知らせは1～3週間で都度更新。



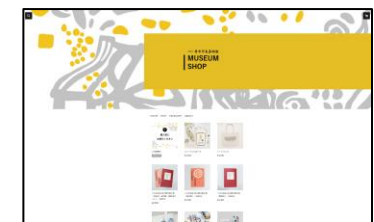
▲公式HP コレクションページ



▲Google Arts & Culture
堂本印象美術館ページ



▲公式HP コレクション>作品詳細



▲公式HP ミュージアムショップ

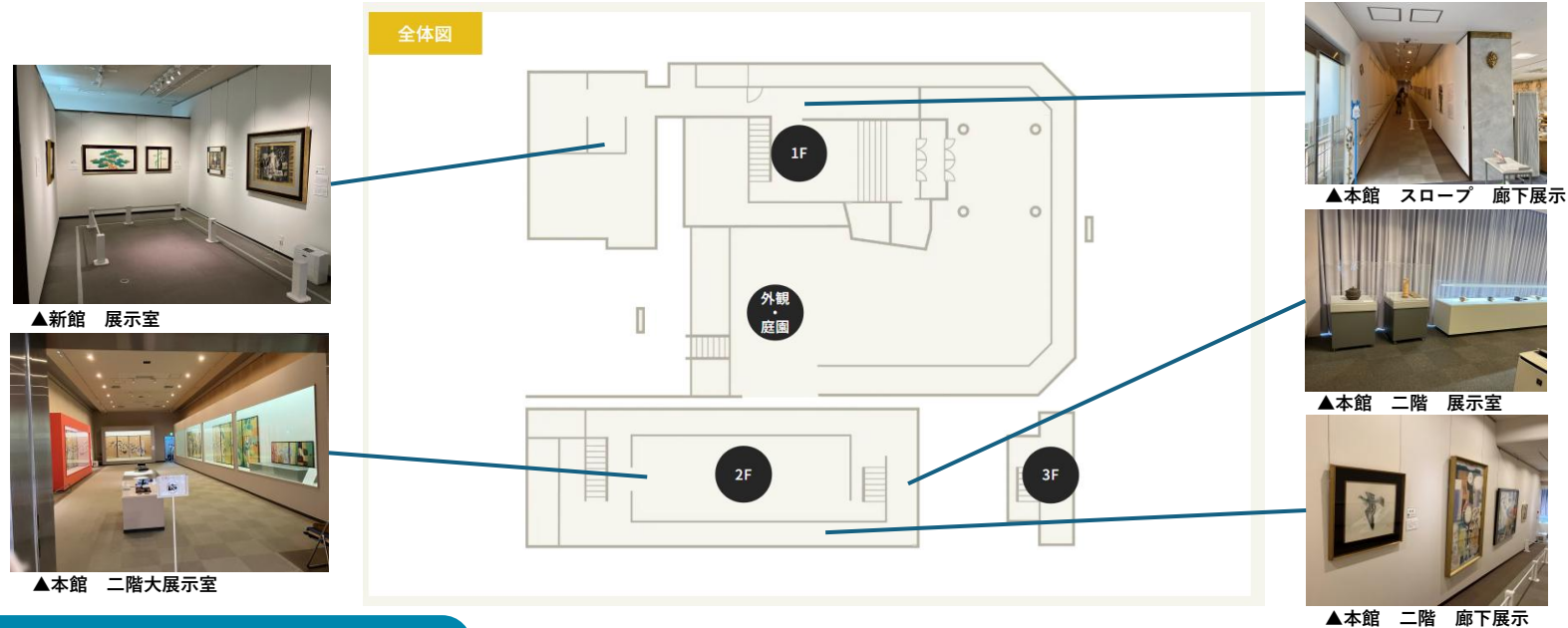


▲公式HP お知らせ

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

3. 常設展示室

常設展示：常設展示は無く、企画展を年4回入れ替え（撮影時は『〈没後50年記念〉特別企画展 モダンなときめき—智積院襖絵の魅力—』の企画展期間中）。スロープから二階へ上がり、大展示室まで時計回りに通路を一周する設計。



4. 所蔵資料の特長

絵画（日本画）



掛軸、卷子



工芸品



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

現地調査：2025年10月29日（水）実施

◆参加者

- ・京都府立堂本印象美術館 係長 主任学芸員 [] 氏
- ・京都府立堂本印象美術館 学芸員 [] 氏
- ・京都府立堂本印象美術館 [] 氏
- ・京都府立堂本印象美術館 [] 氏
- ・京都府立堂本印象美術館 [] 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

- ・アクリル入り額装作品の反射、額縁の影の映り込みが課題
 - 過去撮影では影が入り、再撮影が必要になった作品がある。
 - アクリルを外す作業は専門性が高く、リスクがあるため美術輸送会社の作業員が必要。
- ・大型作品の扱いが困難
 - 美術館側スタッフのみでは安全に取り扱えない作品がある。
 - 搬出・設置には美術輸送会社の協力が必須。
- ・展示作品の撮影環境の制限
 - 展示ケース内にある作品は光の反射・スペースなど撮影条件が厳しい。
 - 休館日撮影は可能だがケース対応も必要。



▲会議の様子



▲作品サイズの確認



▲絵画



▲工芸品



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

実地研修 (1日目)

紙管の組み立て、セッティングから研修開始。セッティング完了後に座学による講義を行い、掛軸等基本的な平面作品の撮影方法を実習。立体物のフォーカスシフト撮影についてもレクチャーした。

1月27日 火	Day 1	研修準備日	分類	数量
12:50	集合			
13:00	開始	機材 準備・調整 事前確認		
13:20		搬入開始		
13:35		紙管組み立て開始		
14:10	座学	座学		
15:40	撮影	撮影開始 (掛軸2点/彫刻作品1点/スケッチ1点)	平面 (大)・立体 (大)・平面	4
17:00	終了・退出			
			日計	4



▲座学による講義



▲撮影実習



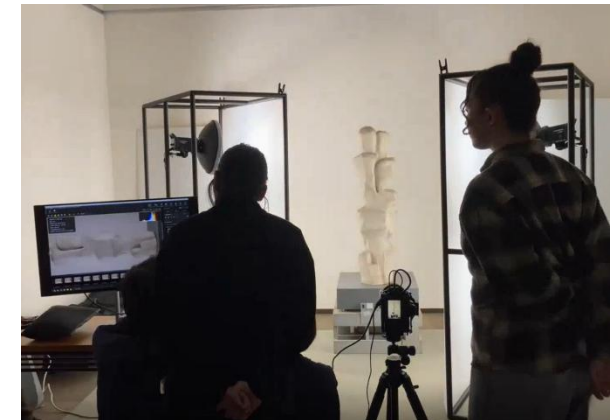
▲反りのある部分の押さえを作成



▲反りを押さえ本紙部分を撮影



▲データの確認



▲立体物の撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

実地研修 (2日目)

ピクセルシフト撮影で掛軸を撮影。残りの時間で卷子3点を撮影。卷子は長辺が数メートルあるため、複数回に分割して撮影を行いフォトステッチにて1枚の画像に合成した。

1月28日 水	Day 2	研修日	分類	数量
8:50	集合	撮影準備開始 撮影実習 (掛軸15点)	平面 (大)	15
9:00	開始			
9:25				
12:00	昼休憩			
13:00	再開	撮影実習 (掛軸2点、卷子3点)	平面 (大) ・ 平面 (特大)	5
17:00	終了・退出			
			日計	20



▲撮影実習 掛軸



▲撮影実習 卷子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

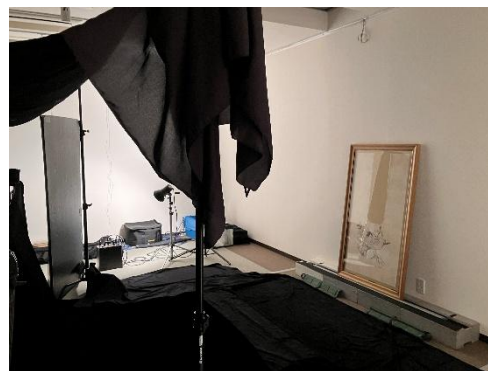
撮影 (3日目)

アクリル板が使用され、かつ光沢や凹凸のある額装が施された絵画作品を中心に撮影。反射を抑えるため暗幕を使用。撮影時の明度が低くならないよう、光源は拡散させ、額の影が入らないよう片光で撮影。片光撮影データは後日合成処理。

1月29日 木	Day 3	撮影1日目	分類	数量
8:50	集合	美術輸送チームも参加		
9:00	開始	撮影準備開始 研修機材 移動 (堂本印象美術館→亀岡市文化資料館)		
12:00		撮影開始 (アクリル板、額あり日本画作品3点)	平面 (大)	3
	昼休憩			
13:15	再開			
13:20		撮影開始 (アクリル板、額あり日本画作品24点)	平面 (大)	24
15:05	(休憩)			
15:25		撮影再開		
17:00	終了・退出			
			日計	27



▲アクリルの反射を押さえつつ、凸のある額の影が入らないよう暗幕で調節し合成を前提に片光撮影を実施



▲撮影セットの調節負荷を軽減するため大型の作品から徐々に小さいものへ順に撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

撮影 (4日目) 残っていた平面作品を撮影し、午後は反射しやすい金属性の立体物を撮影。

1月30日 金	Day4	撮影2日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備開始		
9:05		撮影開始 (掛軸9点/額あり日本画2点/屏風(二曲一隻)2点)	平面(大)	13
		撮影セット組み換え		
		撮影開始 (厨子1点)	立体	1
12:00	終了			
	昼休憩			
13:00	再開	撮影セット組み換え		
13:40		撮影再開 (工芸作品5点)	立体	5
		～機材撤収		
15:00	終了・退出			
16:30				
		撮影機材 移動 (堂本印象美術館 → 亀岡市文化資料館)		
			日計	19



▲屏風の撮影



▲厨子の撮影



▲厨子の撮影



▲やかんの撮影



▲ヤマト運輸
美術輸送チームの資材搬出

撮影した資料点数
: 70点 (81カット)

研修 : 24点/2日

- 平面 (絵画 : 1点) (掛軸 : 19点) (卷子 : 3点)
- 立体物 (1点)

DNP撮影 : 46点/2日

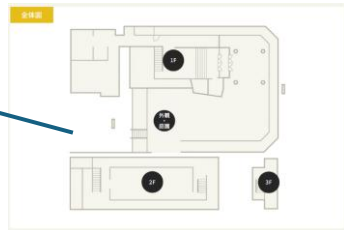
- 平面 (絵画 : 29点) (屏風 : 2点) (掛軸 : 9点)
- 立体物 (厨子 : 1点) (工芸 : 5点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

撮影環境 (写場について)



▲堂本印象美術館
新館最奥の展示室を使用



▲堂本印象美術館HPより
館内見取り図

展示室30平方メートル程度。

●パターン①



▲撮影実習 掛軸、彫刻 (1日目)



▲屏風、立体物 (4日目)

●パターン②



▲撮影実習 卷子 (2日目)

●パターン③

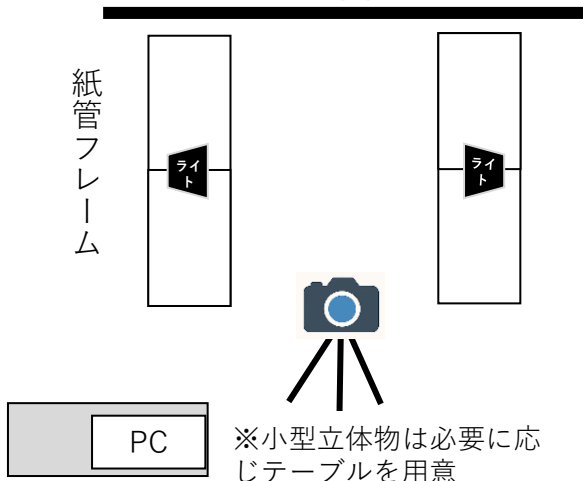


▲撮影日 大型絵画 (3日目)

●パターン①

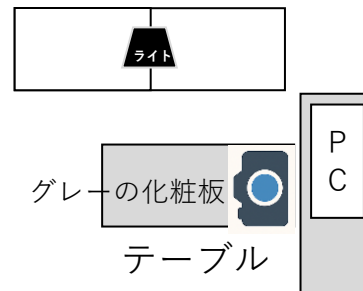
掛軸、大小立体物の撮影。左右から照射。
必要に応じライトは斜めに配置。
反射しやすいものはバック紙等で調整。

壁



●パターン②

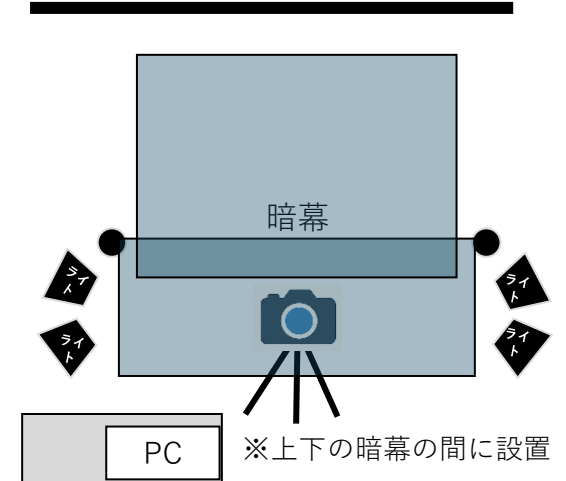
卷子の俯瞰撮影。卷子を巻く際のずれが最小限になるよう作品を置くテーブルに紙等を敷き印をつける等工夫が必要。



●パターン③

反射を軽減するため天井、床に暗幕を使用。光源は壁に向ける。

壁



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

撮影リスト (1/3) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	縦 (cm)	横/奥行 (cm)	高さ (cm)
1	舞妓	絹本着色	1月27日	研修で撮影	27	23	
2	湯のあと	紙本着色	1月27日	研修で撮影	128.0	30.0	
3	トルソー		1月27日	研修で撮影			
4	美術館構想スケッチ		1月27日	研修で撮影			
5	寒山茄串	絹本墨画	1月28日	研修で撮影	34.6	42.2	
6	クラスメート	絹本着色	1月28日	研修で撮影	53.0	42.0	
7	小鳥の空	絹本着色	1月28日	研修で撮影	53.0	41.5	
8	古代武人	絹本着色	1月28日	研修で撮影	121.5	27.5	
9	法然上人影	絹本着色	1月28日	研修で撮影	43.2	24.9	
10	写霊図	絹本着色	1月28日	研修で撮影	26.5	24.3	
11	鼓を持つ舞妓	絹本着色	1月28日	研修で撮影	27.5	23.9	
12	東山雨収	絹本墨画	1月28日	研修で撮影	35.6	42	
13	水木すがた	絹本着色	1月28日	研修で撮影	30.3	37.1	
14	一白澄心	紙本彩色	1月28日	研修で撮影	27	21	
15	白雲鶴所友	絹本着色	1月28日	研修で撮影	129.5	W27.5	
16	長春図/牡丹(外箱)	絹本着色	1月28日	研修で撮影	29.6	42.3	
17	秋山清居	絹本着色	1月28日	研修で撮影	130.6	27.8	
18	緑蔭清風	絹本着色	1月28日	研修で撮影	139.5	42.4	
19	宝船(多佳良船)	紙本着色	1月28日	研修で撮影	24.6	29.8	
20	清々図	紙本墨画	1月28日	研修で撮影	126.2	30.5	
21	丸まげ婦人図	紙本着色	1月28日	研修で撮影	110.5	30	
22	参考資料 三徳山図巻	紙本墨画	1月28日	研修で撮影	27	540	
23	徳島般若院襖絵下絵巻		1月28日	研修で撮影			
24	仁和寺黒書院襖絵小下絵巻		1月28日	研修で撮影			
25	或る家族	紙本着色	1月29日	DNP	120	164	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

撮影リスト (2/3) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	縦 (cm)	横/奥行 (cm)	高さ (cm)
26	如實	絹本着色	1月29日	DNP	92	62	
27	法然上人一枚起請文(下絵)	墨/紙	1月29日	DNP	120.0	160	
28	矢の根模様羽裏	絹・墨画淡彩	1月29日	DNP	138.0(本紙120.0)	81(本紙62.5)	
29	JTBポスター(平安神宮)	印刷	1月29日	DNP	108	71	
30	鉄道省ポスター(春日大社)	印刷	1月29日	DNP	97.5	63.2	
31	故父	絹本着色	1月29日	DNP	92	62	
32	宴のこしらえ		1月29日	DNP	63.5	42.3	
33	《婦女(徑子)》下絵	紙・墨・水彩	1月29日	DNP	63.5 額84.5	51 額70.5	
34	黒衣の高峰秀子	パステル・顔料/紙	1月29日	DNP	50.0	34.0	
35	《婦女(米子)》下絵	紙本着色	1月29日	DNP	66	50	
36	田口壮 参考資料(女性)	紙本彩色	1月29日	DNP	51	43	
37	高峰秀子の顔	水彩/紙	1月29日	DNP	50.5	50.5	
38	富士子の像	水彩/紙	1月29日	DNP	45.0	33.0	
39	瞑想(堂本美術館 壁面装飾図案)	著色/紙	1月29日	DNP	66	55	
40	閑居暖日		1月29日	DNP			
41	波長の快適	紙本彩色	1月29日	DNP	25.2	52.8	
42	reaction en chaine(連鎖反応) (堂本尚郎)	鉛筆・アクリル・紙	1月29日	DNP	43.8×63.0×2.0 (本紙)36.2×55.7		
43	平野を渡る光	紙本着色	1月29日	DNP	45.5×57.5×3.0 (本紙)27.5×39.0		
44	菖蒲(堂本元次)	紙本着色・色紙	1月29日	DNP	40.0×36.4×2.3 (本紙)26.0×23.1		
45	風景	ペン・紙	1月29日	DNP	44.0×36.5×4.0 (本紙)25.5×18.0		
46	少女と猫(堂本尚郎)	紙本着色	1月29日	DNP	29.0×35.0×1.8 (本紙)22.8×29.0		
47	建物(堂本尚郎)	水彩・紙	1月29日	DNP	26.2×32.0×6.0 (本紙)12.2×18.8		
48	栄光の聖母マリア(小下絵)大阪玉造教会壁画	墨・着色・金泥/紙	1月29日	DNP	40.0	50.0	
49	柿ある丘(堂本尚郎)	紙本着色	1月29日	DNP	93.5	170	
50	蚤の市(堂本尚郎)	紙本着色	1月29日	DNP	131	97	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

撮影リスト (3/3) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	縦 (cm)	横/奥行 (cm)	高さ (cm)
51	ベニス (堂本尚郎)	紙本着色	1月29日	DNP	93	120	
52	鳥籠 (森公孝)	紙本着色	1月30日	DNP	69	65	
53	花菖蒲 第36回日春展	額	1月30日	DNP	130.3	89.4	
54	菊花 渡辺信喜日本画展 (三越)	二曲屏風 一隻	1月30日	DNP	168	184	
55	舞妓図	紙本彩色	1月30日	DNP	91	77.5	2?
56	松上雙鶴	紙本彩色	1月30日	DNP	41	48	
57	千代田城	紙本彩色	1月30日	DNP	49	57	
58	雲錦 二字	紙本墨書金泥	1月30日	DNP	44.6	56.5	
59	夏瓜	絹本着色	1月30日	DNP	38	42	
60	小唄集	紙本着色	1月30日	DNP	138	34	
61	壺、柘榴	絹本着色	1月30日	DNP	32	39	
62	千山龍泉寺蕩春	絹本着色	1月30日	DNP	33×33		
63	宝船		1月30日	DNP	33×33?		
64	春風蕩水		1月30日	DNP	26×35		
65	厨子入木造阿弥陀如来坐像		1月30日	DNP	41W ※厨子サイズ	32D ※厨子サイズ	61H ※厨子サイズ
66	堂本漆軒 葡萄絵 重箱	蒔絵	1月30日	DNP	18.5	18.2	23.5
67	黒楽茶碗 銘 ふるさと		1月30日	DNP	14.5	6.3	4
68	茶碗 銘 衣笠	陶、茶碗	1月30日	DNP	13	8.5	4.4
69	南鐐宝珠式湯沸 菊之絵	銀器	1月30日	DNP	19	17	24
70	プラド美術館の窓 (美の聲音挿絵)	インク・墨/紙	1月30日	DNP	12.5	17.0	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (9) 京都府立堂本印象美術館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 現時点ではデジタルデータの具体的な活用イメージは明確ではないが、将来的な展開を見据え、今回の事業に参加している。過去に撮影したデータは、主に施設内での管理用途に活用している。また、一部はポストカード等のグッズ制作にも活用した。
- 今回撮影しているのは、過去資料の再撮影分に加え、2024年に寄贈された新規資料約300点である。ただし、新収蔵品については管理番号等の整理が未整備の状況にある。
- 今後はデジタルデータの積極的な活用を図りたい意向はあるものの、館内での合意形成が課題となっている。活用例としては、ゲームやVRChat等のプラットフォームでの公開といった可能性も検討の余地がある（事務担当 ■■■氏）。

施設ヒアリング：課題

- 少人数体制で運営しているため、各種業務が特定の職員に依存するなど、属人化が生じている。
- 来館者数の増加を目指しているが、美術館は娯楽目的で気軽に訪れるには敷居が高いという印象があると感じている。そのため、来館者数増加に向けた具体的な取り組みが求められている。
- また、扱う資料の分類、時代等が異なる施設との関わりが普段はほとんどないため、今回のような機会は非常に貴重である。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

亀岡市文化資料館 (京都府亀岡市古世町中内坪1番地)

明智光秀が本能寺の変へ出陣した地「亀山」の歴史を紹介している。丹波国分寺跡出土の瓦や鏡をはじめ、中世では、足利尊氏が篠村八幡宮へ奉納した願文（府指定）や明智光秀書状を展示。近世では丹波亀山藩の藩政資料（府指定）、近現代では山陰道鎮撫隊が出した官軍制札や太平洋戦争で投下された焼夷弾などを紹介している。

1. 亀岡市文化資料館の状況

施設の基本情報

- ◆ 博物館種別：登録博物館
- ◆ 公式HP：<https://museums.city.kameoka.kyoto.jp/>
- ◆ 開館時間：9:00～16:30（最終入館16:00まで）
- ◆ 休館日：月曜日、年末年始、展示替え、館内保守日等の臨時休館あり
- ◆ 入館料：大人210円、小中学生100円（企画展、特別展についてはその都度料金設定あり）

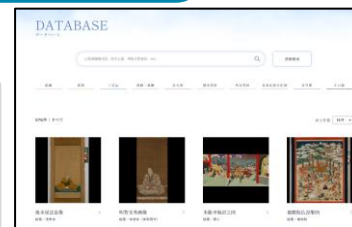


▲亀岡市文化資料館 外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

- ◆ デジタルアーカイブサイト：あり
<https://museums.city.kameoka.kyoto.jp/database/?page=1>
※576件公開（2026年2月24日時点）



▲収蔵品データベースTOP



▲収蔵品データベース個別ページ

- ◆ その他活用状況：
メタバース「亀岡バーチャルヒストリア」を公開中
<https://museums.city.kameoka.kyoto.jp/metaverse/>

「KAMEOKA VIRTUAL HISTORIA」は、亀岡市文化資料館が所蔵する文化財をはじめ、市内各地の伝統芸能・祭事・風習・自然などの歴史文化資源を再現したメタバース空間。



▲亀岡バーチャルヒストリア TOPページ

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

3. 常設展示室

常設展示：亀岡地域の歴史や文化を、実物資料を用いて紹介。

・縄文・弥生・古墳時代

亀岡地域の大昔の暮らしについて、土器や銅鏡などの出土品を紹介。

・奈良・平安時代

都と山陰地方を結ぶ、交通の要地であった古代の亀岡にまつわる、篠の窯跡や丹波国分寺跡からの出土品などを展示。

・鎌倉・南北朝・室町時代

源平の合戦や、篠村八幡宮における足利尊氏の挙兵など、中世の亀岡にゆかりのある事柄をとりあげ展示。

・明智光秀コーナー

亀岡ゆかりの戦国武将明智光秀に関する資料を展示。

・安土桃山・江戸時代

明智光秀による丹波攻略から、豊臣秀吉の統治、江戸時代の丹波亀山藩成立までの歴史、また郷土の偉人石田梅岩について紹介。

・明治・大正・昭和時代

明治維新を迎え、「亀山」が「亀岡」と改称し、亀岡市が成立するまでの過程を紹介。

・昔の道具コーナー

懐かしい昔の道具を展示。実際に触れることも可能で、小学校への出前授業も行っている。



▲考古資料の展示



▲国分寺出土資料



▲中世の文書（複製）



▲亀山城の絵図



▲民俗資料コーナー



▲明智光秀肖像画
（複製）

▲亀山城復元模型

4. 所蔵資料の特長

考古出土品、歴史的な文書、民具や、錦絵、絵巻等多彩な収蔵資料を保有。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

現地調査：2025年11月14日（金）実施

◆参加者

- 亀岡市文化資料館 館長 [] 氏
- 亀岡市文化資料館 学芸員 [] 氏
- 亀岡市文化資料館 学芸員 [] 氏
- 亀岡市文化資料館 学芸員 [] 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 現状と課題

- 機材や撮影環境は整備済み（文化資料館から離れた場所にストロボ、レフ板、ワークステーションあり）。
- 既に仏像などは撮影済みだが、紙資料など未対応。
- 課題：
 - 人員不足（学芸員が兼務で時間が取れない）。
 - データ活用が進んでいない（メタバース試行も容量問題で停滞）。
 - メタバースは学校現場でのネット環境が弱く、教育利用が難航。

2. 撮影対象と方針

- 主に紙資料（冊子・帳面）、状態が悪いものもあり慎重な取り扱いが必要。
- 撮影方法：
 - 表紙＋見開き数カットで1点とする。
 - 余裕があれば追加ページ撮影。
 - 平置きで垂直撮影が中心、大きなスペースは不要。

3. 撮影・研修スケジュール

- 期間：12月～1月中旬を想定。

4. 機材・環境

- 既存機材を活用（ストロボ中心）。
- 撮影場所は文化資料館内を優先（資料移動リスク回避）。
- 必要に応じて簡易セットや追加備品を提案。

5. 今後の展望

- 市民団体（友の会）との連携検討。
- 教育現場での活用方法模索。
- 専門職員不足を補うため、簡易撮影セットやマニュアル整備を希望。



▲現地調査 会議風景



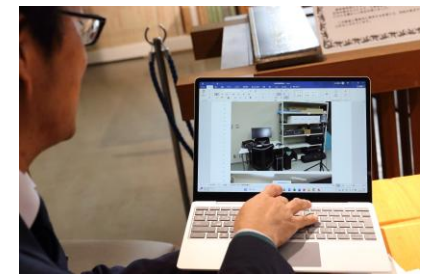
▲古文書（見開き）



▲古文書（収納状態）



▲古文書（表紙）



▲別拠点に所在する撮影スタジオの写真

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

実地研修 (1日目)

研修機材到着後、撮影対象資料を確認。その後、亀岡市が保有している機材を使い研修を行う為、別拠点の撮影スタジオ内に移動し、機材をピックアップ。その後資料館内に写場環境を用意し、撮影方法について説明を実施。

1月29日 木	Day 1	研修準備日	分類	数量
12:50	集合	研修機材 到着 (堂本印象美術館→亀岡市文化資料館)		
13:00	開始	機材 準備・調整 資料確認		
14:00		撮影スタジオ (撮影機材庫) に移動、機材現調・一部資料館へ移動		
15:00		亀岡市機材でセッティング開始		
15:10	(休憩)			
15:35	再開	資料館保有機材のファームウェアアップデート等について堀内氏より説明		
16:05		ファームウェアアップデート完了・ 研修講師PCでImaging Edge Desktop操作法説明		
16:10		紙管組み立て		
16:30		照明取り付け		
17:00	終了・退出			
日計				0



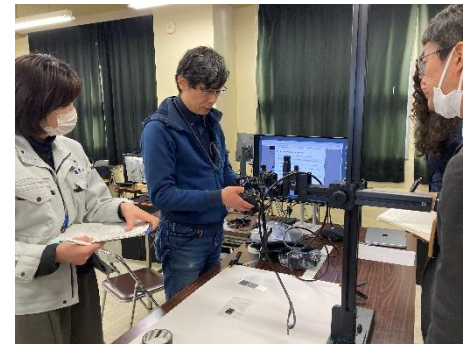
▲別拠点の撮影スタジオ内部



▲施設担当者への説明風景



▲写場の組み立て後



▲レクチャー



▲テスト撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

実地研修 (2日目)

前日にセッティング済みの写場にて古文書（亀山藩資料）50点の撮影を職員自身で実施後、関連ソフトウェアや立体物の撮影方法について説明があり、撮影の基礎について最後に座学講義が行われた。

1月30日 金	Day2	研修日	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始			
9:40		準備（撮影台にバック紙をセット等） カメラ設定		
10:15		撮影（実技） 亀山藩史料（通し番号1～15）	平面	15
12:00				
	昼休憩			
13:00	再開			
15:15	（休憩）			
15:30	再開	ソフトウェアの使い方レクチャー 立体物の撮影法レクチャー（フォーカスシフト撮影） 撮影の基礎講義	平面	35
15:50				
16:15		撮影機材 到着（堂本印象 → 亀岡市文化資料館）		
17:00	終了・退出			
			日計	50



▲堀内氏による説明風景



▲文書の設置風景



▲アクリル板で固定し撮影



▲座学講義の風景



▲座学講義の風景

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

撮影 (3日目)

3日目は、DNPスタッフが亀岡市文化資料館が保有するカメラとPCを使い、屏風のピクセルシフト撮影を行った。午後からは、額装された大型の書画や民具などの立体物を撮影した。まな板などの民具などを扱った。

1月31日 土	Day 3	撮影 1 日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影計画のお打ち合わせ (屏風、民具などを追加撮影する方針)	特殊	1
11:25		風俗図屏風		
12:00	終了 昼休憩			
13:00	再開	風俗図屏風 屏風を全体を広げて再度セッティング	特殊 立体	1 7
13:55		皆川淇園遺墨「堀和叟園池記」		
14:55		民具		
17:00	終了・退出	～機材 撤収		
			日計	9



▲風俗図屏風をセットする様子



▲施設が補修する撮影機材を使い、ピクセルシフト撮影

撮影した資料点数
: 59点 (205カット)

研修 : 50点/2日

- 文書 (50点)

DNP撮影 : 9点/1日

- 屏風・書画 (2点)
- 民具 (7点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

撮影環境 (写場について)

- ・ 亀岡市文化資料館3F部屋：約50平方メートル
- ・ 撮影に使用可能な机・椅子等あり



▲撮影場所

●パターン①



▲撮影実習 (1日目)

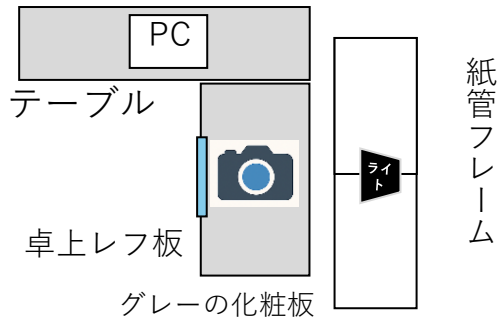
●パターン②



▲屏風絵 (3日目)

●パターン①

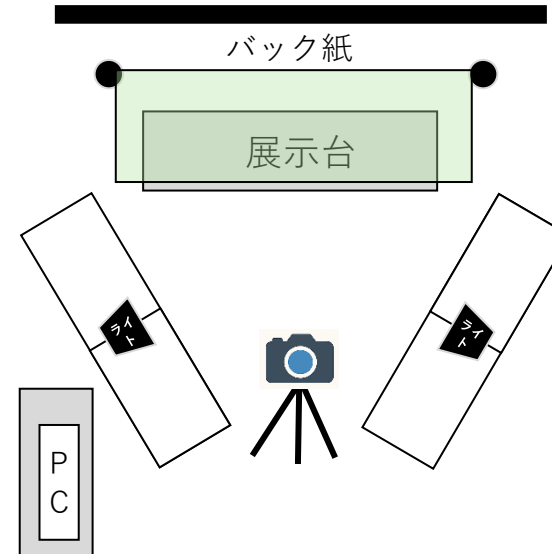
小型平面資料 (文書)



※カメラはスタンドで
固定し上部に設置

●パターン②

屏風絵



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

撮影リスト (1/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ判定
1	筏丈ヶ幅并賃銀等対談相改候二付御届ヶ事取替所	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
2	御家中惣人数年改帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
3	御領分郷村高辻覚帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
4	御簀御出来一件并雛形	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
5	信彰公御代記	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
6	信直公御代記	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
7	禁裏御所方炎上御警衛一件	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
8	〔家中異動記録〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
9	松平紀伊守亀山藩職員録	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
10	大坂乱妨一件	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
11	御両敬・片敬・御末家御名前留	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
12	公儀被仰出口	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
13	御奥様・万千姫様御参府之節御道中日記	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
14	御案文控	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
15	泰清院様一夜別事御法事御執行伺帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
16	暢聲院様二十七回御忌御回向伺帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
17	清玉院様三回御忌御法事伺帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
18	年中御祝・御忌祭御備御献之帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
19	〔養父豊前守信義遺骸在所丹州亀山まで道中通棺一件〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
20	御道中案詞 (信義遺骸亀山差遣に付き)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
21	〔奉札案〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
22	庚午奉札案	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
23	辛未奉札案	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
24	壬申年奉札案	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
25	来ル十五日就吉辰卯之吉様御詰初御祝式伺帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
26	殿様御前髪被為執候付 (御祝)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
27	信正公御乗出印形帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
28	かなこ樋之嶋(証文写)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
29	立岩嶋作り(証文写)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
30	正人淵(証文写)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
31	はりの木嶋かねい嶋分証文写	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (10) 亀岡市文化資料館

撮影リスト (2/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ判定
32	下中嶋(証文写)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
33	宇津弥嶋(証文写)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
34	町方人家裏地尻二御家中屋舗并御上之地之境目懸り有之分委細	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
35	御條目暁諭之弁并追加	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
36	新古家禄取調帳	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
37	〔青山忠重黒印状〕 (公儀筏役勤来付而諸役免許)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
38	〔大坂武鑑〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
39	信志公御代記	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
40	徳原家譜	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
41	日光御宮御霊屋御修復御用御掛りニ付御登山之節御道中并其外共一件	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
42	簾之紋、幕之紋、家紋替紋	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
43	〔松平与三左衛門家歴代記・漢詩〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
44	南冠集 (漢詩集)	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
45	〔遜齋君追悼文〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
46	惣統支配相家可司務之事	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
47	〔柳島星巖面会一件〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
48	〔松平小太郎口書〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
49	〔亀山藩主・家中の高名記録〕	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
50	聞伝又覚候事	「亀山藩史料」	1月30日	研修で撮影	平面
51	風俗図屏風	-	1月31日	DNP	屏風
52	皆川淇園遺墨「堀和叟園池記」	-	1月31日	DNP	
53	足付きまな板	-	1月31日	DNP	木製
54	報国式毛羽取器	-	1月31日	DNP	木製
55	番傘	-	1月31日	DNP	傘
56	ふご	-	1月31日	DNP	
57	革のランドセル	-	1月31日	DNP	皮革
58	下駄	-	1月31日	DNP	木製
59	天びん吊り秤	-	1月31日	DNP	

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要（10）亀岡市文化資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- 2022年にデータベース、2023年にメタバースを公開した。また、2023年度には撮影用ラボ（資料館から車で約20分）を整備している。
- 今回は施設所有のSONY製カメラを使用し、ファームウェアを更新のうえ撮影を実施した。あわせて施設所有PCのカメラ用アプリケーションもバージョンアップし、今後の運用に備えている。
- これまでに約600点の資料を自主的にデジタル化しており、毎年約100点ずつ撮影・公開を進めている。明確なKPIは設定していないが、対象資料は数千点規模と膨大である。
- データベースで公開している3D資料の一部は、初期構築時に業者へ委託して制作した。従来はスタジオで撮影していたが、今回機材を資料館へ移設したため、今後は資料館3階（通常は講演会等で使用）での撮影を予定している。
- 今後はデータベース上での公開資料をさらに増やし、研究者等による活用を促進したい考えである。すでに学校現場でデータベースを活用している教員もいる。

施設ヒアリング：課題

- メタバースは旧デジ田交付金を活用して制作した。当初はユーザビリティ向上の観点からブラウザ上でアクセス可能な仕様としたが、データ容量が大きく、アバター選択画面で動作が停止するなどの課題が生じている。
- 特に、学校教育での活用を想定し、GIGA端末での利用を見込んでいたが、端末スペックの制約により十分に活用できなかった点は課題である。現在、アプリ形式での再構築も検討されている。
- アクセス数は、公開当初は月約16,000件で推移していたが、現在は月1,000件未満に減少している。一方、データベースは月約3,000件のアクセスがあり、比較的安定している。
- 学芸員数が限られており、本来であれば収蔵庫管理やデジタルアーカイブなどを専任体制で担当できることが望ましいが、現状は少人数で運営しているため、1人が複数業務を兼務せざるを得ない状況にあり、負担が大きい。

亀岡市生涯学習部文化芸術課からのコメント

- 2023年度にラボへ高性能な撮影機材を導入したが、機材の仕様や操作方法を十分に理解している職員がいないことが課題となっている。操作講習会の実施も検討したが、日常業務が多忙で時間を確保できなかった。
- 今回のように撮影手法について伴走型で指導を受けられる機会は非常に貴重であり、良い機会と感じている。
- 本事業を通じて、少しでも専門家のノウハウを学べることは大変ありがたい。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1 1) 京丹後市立郷土資料館

京丹後市立郷土資料館 (京都府京丹後市網野町郷55)

地域の家々から日々失われゆく民具などの資料を収集し、衣食住に関するものや農具を中心に漁業・林業・織物業・古文書などを民俗資料を中心に約1,000点を展示している。

1. 京丹後市立郷土資料館の状況

施設の基本情報 元小学校の一部を施設に利用

- ◆ 博物館種別：指定施設申請中
- ◆ 公式HP：京丹後市の公式WEBサイト > 京丹後市立郷土資料館
- ◆ 開館時間：午前9時30分～正午（ただし、入館受付は午前11時30分まで）、午後1時～午後4時
- ◆ 休館日：火曜日・水曜日・金曜日・日曜日、年末年始
- ◆ 入館料：（個人）大人190円、小中学生90円、小学生未満無料
（団体：15人以上）大人120円、小中学生50円、小学生未満無料



▲京丹後市立郷土資料館外観

2. デジタルアーカイブの取組み (これまで)

公開状況

- ◆ 京丹後市の公式WEBサイト > 京丹後市立郷土資料館の収蔵品紹介にて一部紹介されている。
- ◆ 戦時中のチラシ画像と概要
[京丹後市立郷土資料館 収蔵品紹介 戦時中のチラシ / 京丹後市](#)
- ◆ 京丹後市立郷土資料館 収蔵品紹介 丹後大震災の記憶
[京丹後市立郷土資料館 収蔵品紹介 丹後大震災の記憶 / 京丹後市](#)

戦時中のチラシ	
郷土資料館では、戦時中に木津村で配布されていたチラシやパンフレットなどを保管しています。その一部を紹介します。	
戦時中のチラシ画像と概要	チラシの概要
	「防げ防空・用意はよいか」 木津村役場が発行した空襲時における対策法を記したもの。
	「出征遺家族慰安奨励会大プログラム」 木津村男女青年団主催で行われた出征遺家族慰安奨励会のプログラム。木津村以外にも出演している。
	「慰問袋を送りませう」 木津信用販賣購買利用組合発行。慰問袋に入れる商品の価格表。

▲戦時中のチラシ画像と概要



▲丹後大震災の記憶

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1 1) 京丹後市立郷土資料館

3. 常設展示室

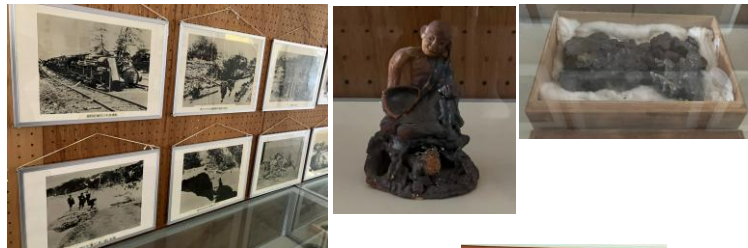
①養蚕と織物の部屋

京丹後地方では昭和20年ごろまで養蚕が行われていた。蚕を育てその繭から生糸を作り、機にかけられるまでを道具と共に展示。



③企画展示、丹後震災の記憶コーナー

震災写真や被災した仏像、焼銭などが展示。



④くらしの部屋1 (生活用具など)

昔はこの家にもあった懐かしい暮らしの道具を展示。

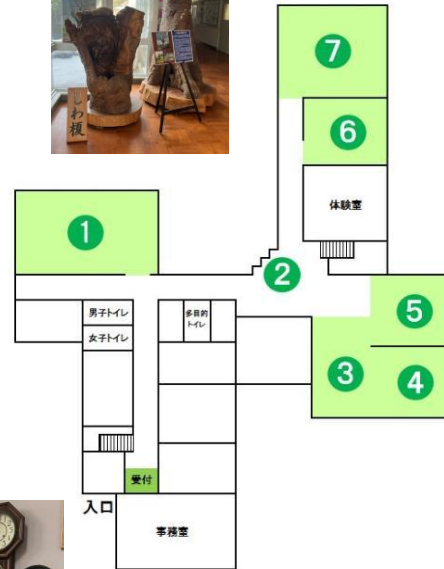


⑤くらしの部屋2 (仕事用具など)

漁業や商売モノ作りなどしごとの道具を展示。

②しわ榎

京丹後市網野町に伝わる浦島伝説に登場するしわ榎を展示。



⑥学びと遊びの部屋

明治から昭和にかけて小学校に使われてきた教科書や机の他、子供たちの遊び道具を展示。



⑦農具の部屋

機械化されるまで使われていた農耕具を中心に展示。



4. 所蔵資料の特長

衣食住に関する民具や農具を中心に漁業・林業・織物業・古文書など、民俗資料が多い。また、丹後震災に関する資料として、被災した時計や仏像、写真、記録文書なども所蔵されている。

民具・農具



被災物



写真



古文書



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (12) 京丹後市立丹後古代の里資料館

3. 常設展示室

※展示室内の撮影が行えなかったため、京丹後市のHP及びパンフレットの内容を掲載しています。

<展示構成>

- | | |
|--------------|--------------------|
| 1. 縄文人の生活 | 5. 丹後における古墳時代のはじまり |
| 2. 米つくりのはじまり | 6. 丹後王国の隆盛 |
| 3. 丹後王国の成立前夜 | 7. 丹後王国の衰退 |
| 4. 丹後王国の成立 | 8. 丹後王国の消滅 |
| | 9. 丹後国の誕生 |



丹後王国の世界

京丹後市には、弥生時代の国内最大級の大型方形埴輪墓である赤坂今井墳墓、古墳時代の日本海側最大級の前方後円墳である網野鏡子山古墳、神明山古墳など数多くの遺跡が残されています。これらの遺跡は、古代のある時期、「丹後王国」とも呼べる強大な勢力があったことを物語っています。「丹後王国」の成立から消滅まで、時を越えたいにしえに思いをはせ何かを感じてもらいたければ幸いです。

縄文時代

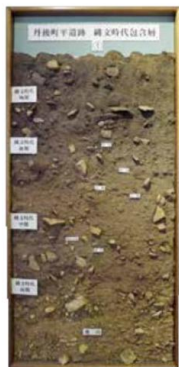
海山とともに生きる

今から約1万数千年前、人々の生活は移動生活から定住生活へと変化し、土器(縄文土器)を作りはじめました。

縄文時代は約1万年続き、当時の人々は海や川で魚や貝を、山や野で獣や木の実を採るという狩猟と採集を中心とした生活を営んでいました。



▲縄文土器(平造跡出土、市指定考古資料)



▲平造跡の地層(土層の剥ぎ取り)

弥生時代

稲作の始まり

今から約2千数百年前、人々は大陸からもたらされた稲作の技術により、農耕社会を発展させました。

弥生時代の丹後では当時大変貴重であった鉄製品が早くから使われていました。後期になると、鉄製品や青いガラスの首飾りをたくさん持っていた有力者とその家族の墳墓が作られました。



▲赤坂今井墳墓(国指定史跡)



▲当時貴重であった鉄製品(府指定考古資料、三坂神社墳墓群出土)



▲青いガラスの首飾り(左坂墳墓群出土)

古墳時代

古墳の出現

京丹後市に残された数多くの遺跡の中で、網野鏡子山古墳と神明山古墳(いずれも全長約200m)は日本海側最大級の前方後円墳であり、4世紀から5世紀にかけて丹後地域を支配した豪族の墓です。

古代丹後の有力者たちは、海上交易と深く関わっていたと考えられ、古墳を飾った円筒埴輪の中には、弓矢のほかに船が描かれたものがあります。



▲青銅三年銘方格規矩四神鏡(大田南5号墳出土、展示資料はレプリカ)



▲舟を描いた彫刻埴輪(神明山古墳出土、網野高校所蔵)



▲神明山古墳(国指定史跡)



▲丹後型円筒埴輪(網野鏡子山古墳出土)

丹後の国の伝説

京丹後市には数多くの伝説・伝承が残っています。

その中で鬼退治伝承は、用明天皇の皇子である麻呂子親王が薬師如来の加護を得て鬼を退治するというものです。

丹後には、麻呂子親王ゆかりの寺や仏像、絵巻物などが残っています。



▲薬師如来坐像(願興寺所蔵)



▲等楽寺縁起(竹野神社所蔵、展示資料はレプリカ)



▲常明神縁起(竹野神社所蔵、展示資料はレプリカ)



▲網野鏡子山古墳(国指定史跡)



▲常設展示室内 (1、2)

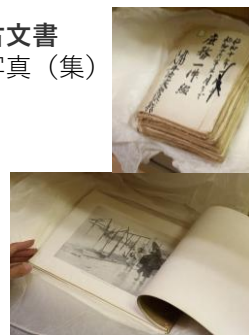


▲常設展示室内 (6、7)

4. 所蔵資料の特長

主に「丹後王国」の成立から消滅、丹後国誕生までの歴史がわかる考古遺物を中心に所蔵。また、京丹後市内の所蔵庫が本館のみであるため、丹後震災に関する資料等、考古に限らず他多くの資料も所蔵されている。

古文書
写真(集)



巻物



2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

現地調査：2025年11月11日（火）実施

※京丹後市立郷土資料館と京丹後市立丹後古代の里資料館は両施設同日に現地調査を実施。

◆参加者

・京丹後市教育委員会 文化財保存活用課 [] 氏

◆概要（撮影対象資料とご要望）

1. 対象資料について

・主に震災関連資料

資料の種類（一例）：

- 絵葉書・写真帳（震災被害や復興の様子）
- 稲葉家関連文書（寄付金・感謝状など）
- 小林善九郎関係資料（復興局勤務時代の広報誌に直筆サインあり）
- 丹後震災記念館関連書類（財団法人時代の記録）
- 掛け軸・図面類（長尺のものがあり、撮影方法検討必要）
- 京都府発行の震災報告書（昭和3年刊、詳細な被害・復興記録）

2. 撮影場所

・郷土資料館2Fの和室を資料保管場所・準備室とし隣接の部屋を写場とする。
資料数も少なく、持ち運びが可能だと思われるため、丹後古代の里資料館の資料を郷土資料館へ移動し、実地研修と撮影を1か所で実施する。
・施設には暖房がないため、冬季の作業は要注意。

3. 普段の撮影と機材

・撮影は主に担当者が個人所有機材で行っている。
・カメラは個人所有の物を使用している。
・古い三脚と照明（LEDに交換）が丹後古代の里資料館にある。

4. 文化遺産オンライン登録

・京丹後市郷土資料館、丹後古代の里資料館ともに未登録。

5. 撮影対象資料の状況

・慰霊祭物品は用途や構成が不明なため、撮影時の配置検討が必要。
・書籍は表紙と見開きページ一部を中心に撮影し、全ページ撮影しない代わりに他の資料撮影に時間を割く。
・個人情報を含む資料は公開範囲を制限（表紙のみオンライン公開など）。
⇒当事業においてDNPが情報取得しないことを後日伝達。

6. 撮影課題・検討事項

- ・大型資料の撮影方法（平置き・吊り下げなど）。
- ・アクリル板、ガラス板使用時の資料折れ部分の扱いの問題がある。

7. 実地研修と撮影の考え方

- ・実地研修は小、中型の資料を中心に実施し、大型資料はDNPで撮影する方針。
- ・撮影対象の優先順位を検討し、実地研修と撮影スケジュールをDNPにて作成。

●京丹後市立郷土資料館



▲現地調査打合せの様子
資料の保管場所



▲撮影場所の教室：元小学校施設



▲資料の確認：絵画



▲対象資料の確認：丹後震災時の写真

●京丹後市立丹後古代の里資料館



▲現地調査打合せの様子



▲対象資料の確認：丹後震災時の写真

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

実地研修 (1日目)

機材の搬入から開始し、翌日行う予定の実地研修を前倒しで実施。
紙管組み立てからカメラ設置に至る写場作り、職員自身での簡易的な撮影体験まで実施。

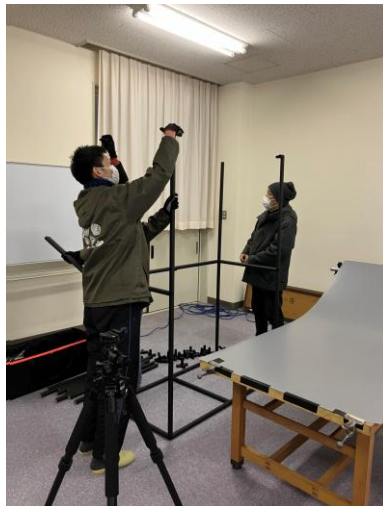
2月3日 火	Day 1	研修準備～研修日	分類	数量
12:50	集合			
13:00	開始	機材搬入		
13:20		事前確認 (撮影対象物の確認)		
13:45		機材 準備・調整		
14:15		組立研修		
14:45		撮影研修 (京丹後市郷土資料館資料)	立体・平面	7
17:00	終了・退出			
			日計	7



▲撮影対象物



▲撮影研修での画像確認画面



▲紙管組立研修
フレームの組立



▲紙管組立研修
デフューザーペーパーの取り付け



▲堀内氏による撮影研修の様子



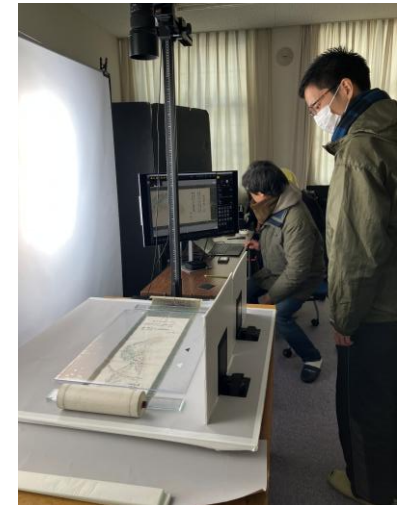
▲撮影研修の様子

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

実地研修 (2日目)

午前中は前日の撮影の続きとして、比較的小さな立体物から撮影を開始し、パネルに立てかけての水彩画等の絵画の撮影を実施。午後には絵巻物を(全長)2点撮影を行った後、座学の研修と丹後震災関連の文書を中心とした撮影を行った。

2月4日 水	Day 2	研修日	分類	数量
8:50	集合 開始	撮影準備	立体	10
9:00		撮影開始 (京丹後市郷土資料館資料)		
9:25		撮影機材変更	平面・平面(大)・ 平面(特大)	
10:50		撮影開始 (京丹後市郷土資料館資料)		
11:10		終了		
12:00	昼休憩			
13:00	再開	撮影準備	平面 (特大)	2
13:40	撮影開始 絵巻物 (丹後古代の里資料館資料)			
15:20		座学研修開始	平面	28
15:45		撮影再開 (京丹後市郷土資料館資料)		
17:00		終了・退出		
			日計	56



▲絵巻物の撮影



▲小さな対象物の撮影
(前日の続き)



▲絵画の撮影



▲座学研修の様子
持参された担当者カメラを使用した研修も実施



▲アクリル板で押さえながら
平面の撮影

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

撮影 (3日目)

4日間で2施設分の合計100点以上の対象物の撮影を目指すため、照明やカメラ位置を変更せずに撮影が可能な平面の対象物をDNPスタッフが優先的に撮影。被災遺物として貴重なガラス面のある被災時計は、ライティングを工夫し映り込みを防ぐ撮影を行った。

2月5日 木	Day 3	撮影 1 日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備		
9:30		撮影開始 (丹後古代の里資料館資料)	平面	38
12:00	終了			
	昼休憩			
13:00	再開	撮影開始 (丹後古代の里資料館資料)	平面	9
14:00		レンズ交換		
14:10		撮影再開 (丹後古代の里資料館資料)	平面	15
15:00		撮影 (京丹後市郷土資料館資料)	平面	2
15:30	休憩			
16:00		撮影再開 (京丹後市郷土資料館資料)	立体	1
16:20		照明変更		
17:00	終了・退出	撮影終了		
			日計	65



▲丹後震災にて被災した時計



▲平面对象物の撮影



▲紙面の浮きを防ぐため
アクリル版で抑える



▲丹後震災にて被災した時計：ガラス面の映り込みを防ぐライティング (P.24も参照)



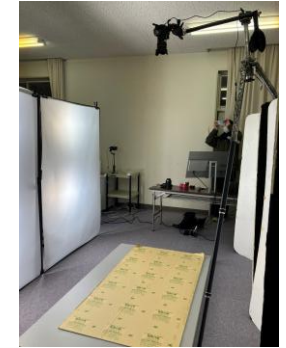
2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

撮影 (4日目)

前日までにある程度の資料点数を撮影することができたため、セッティングに時間を要する大型対象物を撮影した。職員1名では運搬の難しい絵画を安全面に十分配慮をしながらスタッフと協力し配置、撮影。大型の絵巻物も小型のものと同様、撮影位置を移動しながら全長撮影した。

2月6日 金	Day4	撮影2日目	分類	数量
8:50	集合			
9:00	開始	撮影準備		
9:10		撮影開始 (京丹後市郷土資料館資料)	平面 (大)	4
		撮影 (丹後古代の里資料館資料)	平面(特大)	1
12:00	終了			
	昼休憩			
13:00	再開	撮影再開 (丹後古代の里資料館資料)	平面 (大)	1
14:30		撮影終了～機材 撤収		
15:00	終了・退出			
日計				6

大型対象物の▶
上部からの撮影は
ライトとレフ版数枚で
対象物を挟むように配置



▲大型の油絵の撮影



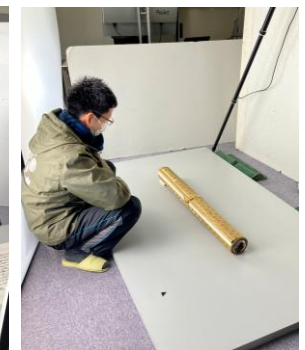
▲大型の油絵の撮影



▲大型の絵巻物の撮影
少しずつ撮影位置を変える



▲大型の絵巻物の撮影
掛算で固定



▲巻物を巻いた状態で
固定するため見えない位置に
小さなブロックを挟む

(11) 京丹後市立郷土資料館

撮影できた資料の数
: 68点 (113カット)

研修:
61点/1.5日

- 立体物 (17点)
- 絵画資料 (16点)
- 文書資料 (28点)

DNP撮影:
7点/2日

- 文書/写真資料 (2点)
- 立体物 (1点)
- 絵画資料 (4点)

(12) 京丹後市立丹後古代の里資料館

撮影できた資料の数
: 66点 (182カット)

研修:
2点/1日

- 巻物 (2点)

DNP撮影:
64点/2日

- 文書写真資料 (62点)
- 巻物 (2点)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

撮影環境（写場について）

- ・京丹後市立郷土資料館 2階の1教室を利用
- ・撮影に使用可能な机・椅子等あり
- ・カーテンあり（遮光ではない）

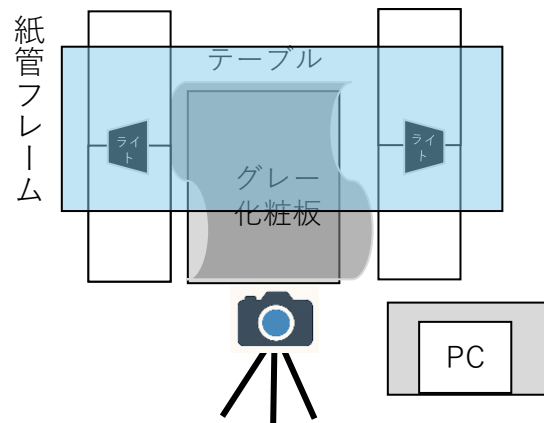


撮影前の教室▶

●パターン①：小型立体資料



被写体の真上にレフ版

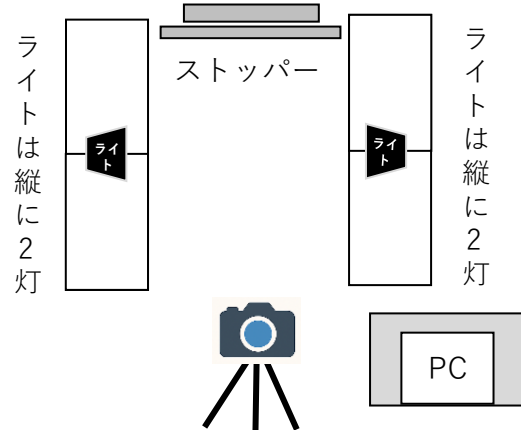


※カメラは斜め上から

●パターン②：平面大型資料

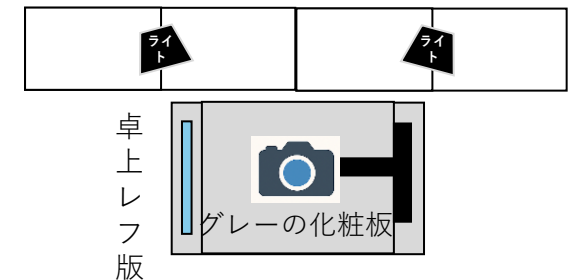


グレーの板もしくはバック紙



※カメラは斜め上から

●パターン③ 小型平面資料



※カメラは真上から

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1 1) 京丹後市立郷土資料館

撮影リスト (1/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称 1	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	慰霊祭物品		2月3日	研修で撮影	30×30×26cmほか	平面
2	焼銭		2月3日	研修で撮影	6×5×1.5cm	立体
3	15 焼銭		2月3日	研修で撮影	4×6×1cm	立体
4	12 焼銭		2月3日	研修で撮影	26×21×3cm	立体
5	16 焼銭		2月3日	研修で撮影	18×29×3cm箱サイズ	立体
6	焼銭		2月3日	研修で撮影	9×7×2cm	立体
7	炭化米		2月3日	研修で撮影	12×10×3cm	立体
8	10 ちりめん布		2月4日	研修で撮影	50×17×12cm	立体
9	被災刀		2月4日	研修で撮影	55×3×0.3cm	平面
10	被災刀		2月4日	研修で撮影	52×3×0.3cm	平面
11	恵比寿像	被災資料6	2月4日	研修で撮影	23×25×14cm	立体
12	仏像	被災資料7	2月4日	研修で撮影	9×11×14cm	立体
13	染付茶碗	被災資料4	2月4日	研修で撮影	11.5×11.5×5cm	立体
14	天目茶碗	被災資料3	2月4日	研修で撮影	9×9×7.5cm	立体
15	青磁香炉	被災資料5	2月4日	研修で撮影	13×12×10cm	立体
16	焼銭	被災資料14	2月4日	研修で撮影	23×31×8cm	立体
17	手提金庫	被災資料2	2月4日	研修で撮影	19×27×14cm	立体
18	水彩画1		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
19	水彩画2		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
20	水彩画3		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
21	水彩画4		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
22	水彩画5		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
23	水彩画6		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
24	水彩画7		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
25	水彩画8		2月4日	研修で撮影	67×52×4cm	平面 (大)
26	油彩画1		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
27	油彩画2		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
28	油彩画3		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
29	油彩画4		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
30	油彩画5		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
31	油彩画6		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
32	油彩画7		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
33	油彩画8		2月4日	研修で撮影	74×59×5cm	平面 (大)
34	木津村役場文書1	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
35	木津村役場文書2	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (1 1) 京丹後市立郷土資料館

撮影リスト (2/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称1	作品名称2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
36	木津村役場文書3	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
37	木津村役場文書4	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
38	木津村役場文書5	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
39	木津村役場文書6	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
40	木津村役場文書7	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
41	木津村役場文書8	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
42	木津村役場文書9	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
43	木津村役場文書10	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
44	木津村役場文書11	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
45	木津村役場文書12	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
46	木津村役場文書13	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
47	木津村役場文書14	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
48	木津村役場文書15	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
49	木津村役場文書16	左記のうち震災関係分	2月4日	研修で撮影	29×20×6cmほか	平面
50	丹後震災関係論文等1	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
51	丹後震災関係論文等2	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
52	丹後震災関係論文等3	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
53	丹後震災関係論文等4	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
54	丹後震災関係論文等5	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
55	丹後震災関係論文等6	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
56	丹後震災関係論文等7	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
57	丹後震災関係論文等8	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
58	丹後震災関係論文等9	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
59	丹後震災関係論文等10	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
60	丹後震災関係論文等11	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
61	丹後震災関係論文等12	峰山図書館蔵書資料	2月4日	研修で撮影	27×19×0.3cmほか	平面
62	丹後震災関係論文等13	峰山図書館蔵書資料	2月5日	DNP	27×19×0.3cmほか	平面
63	北但馬地震絵葉書		2月5日	DNP	9×14×0.1cm	平面
64	焼柱時計	被災資料1	2月5日	DNP	33×33×15cm 収納木箱39×43×19cm	立体
65	井藤翠湖震災追憶油絵	「菅峠に於いて炊出しを受ける図」	2月6日	DNP	134×163×5cm	平面 (大)
66	井藤翠湖震災追憶油絵	「白銀町から杉谷を望む」	2月6日	DNP	100×124×5cm	平面 (大)
67	油彩画9		2月6日	DNP	74×59×5cm	平面 (大)
68	油彩画10		2月6日	DNP	74×59×5cm	平面 (大)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (12) 京丹後市立丹後古代の里資料館

撮影リスト (1/2)

※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
1	昭和六年峰山全図其の一		2月4日	撮影研修	不明×26×6.5cm (厚みは巻物状態)	平面 (特大)
2	昭和六年峰山全図其の二		2月4日	撮影研修	不明×26×6.5cm (厚みは巻物状態)	平面 (特大)
3	【追加】丹後地方震災画報	大阪朝日新聞社発行	2月5日	DNP	39×27×0.3cm	平面
4	丹後大震災火災写真画報	大阪朝日新聞社発行	2月5日	DNP	39×27×0.3cm	平面
5	但馬丹後大震災写真画報	大阪朝日新聞社発行	2月5日	DNP	39×27×0.3cm	平面
6	【追加】大震災写真画報	大阪朝日新聞社発行	2月5日	DNP	39×27×0.3cm	平面
7	昭和二年奥丹後震災遭難者名簿	箱	2月5日	DNP	27.5×20×8cm	平面
8	設立当初より昭和九年三月まで 庶務一件綴 財団法人丹後震災記念館		2月5日	DNP	28×20×6.5cm	平面
9	昭和十年一月より昭和十六年三月まで 庶務一件綴 財団法人丹後震災記念館		2月5日	DNP	28×22×12cm	平面
10	丹後震災記念館書類綴		2月5日	DNP	28×21×2.5cm	平面
11	小藤文次郎論文		2月5日	DNP	28×21×0.5cm	平面
12	丹後但馬震災画報	大阪毎日新聞社発行	2月5日	DNP	21×31×0.5cm	平面
13	小林善九郎関係資料第1号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
14	小林善九郎関係資料第2号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
15	小林善九郎関係資料第3号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
16	小林善九郎関係資料第4号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
17	小林善九郎関係資料第5号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
18	小林善九郎関係資料第6号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
19	小林善九郎関係資料第7号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
20	小林善九郎関係資料第8号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
21	小林善九郎関係資料第9号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
22	小林善九郎関係資料第10号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
23	小林善九郎関係資料第11号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
24	小林善九郎関係資料第12号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
25	小林善九郎関係資料第13号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
26	小林善九郎関係資料第14号	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
27	小林善九郎関係資料 給料1	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
28	小林善九郎関係資料 選挙人	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
29	小林善九郎関係資料 助役給料	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
30	小林善九郎関係資料 専任通知書	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (12) 京丹後市立丹後古代の里資料館

撮影リスト (2/2) ※対象施設から受領したリストを基に作成しています。

撮影順	作品名称	作品名称 2	撮影日	撮影主体	サイズ	サイズ判定
31	小林善九郎関係資料 復興局任命	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
32	小林善九郎関係資料 復興局休職	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
33	小林善九郎関係資料 復興局個人に対する通知	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
34	小林善九郎関係資料 異動通知	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
35	小林善九郎関係資料 異動通知(庶務課)	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
36	稲葉家文書 年次表	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
37	稲葉家文書 貸付資金状況	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
38	稲葉家文書 奥丹後震災復旧費貸付金利子に関する調べ	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
39	稲葉家文書 奥丹後資金に関する調	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
40	稲葉家文書 昭和7年7月23日 奥丹後震災復旧費貸付金利子に関する調べ	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
41	稲葉家文書 奥丹後震災復旧貸付金に関する調	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
42	稲葉家文書 褒章状	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
43	稲葉家文書 明治27年1月13日褒状	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
44	稲葉家文書 明治27年3月8日褒状	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
45	稲葉家文書 昭和5年1月祝辞	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
46	稲葉家文書 昭和5年3月祝辞	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
47	稲葉家文書 昭和2年7月1日所得税免除ノ件	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
48	稲葉家文書 明治24年11月14日書簡	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
49	稲葉家文書 安政3年7月26日書状	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
50	稲葉家文書 昭和5年2月葉書	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
51	稲葉家文書 1992葉書	左記のうち震災関係分	2月5日	DNP		平面
52	嗚呼悲惨極まる丹後大地震絵葉書	封筒	2月5日	DNP	15×10×0.1cm	平面
53	岡田吉之輔氏寄贈資料1		2月5日	DNP	15×21cm	平面
54	岡田吉之輔氏寄贈資料2		2月5日	DNP	15×21cm	平面
55	岡田吉之輔氏寄贈資料3		2月5日	DNP	15×21cm	平面
56	岡田吉之輔氏寄贈資料4		2月5日	DNP	15×21cm	平面
57	岡田吉之輔氏寄贈資料5		2月5日	DNP	15×21cm	平面
58	岡田吉之輔氏寄贈資料6		2月5日	DNP	15×21cm	平面
59	岡田吉之輔氏寄贈資料7		2月5日	DNP	15×21cm	平面
60	岡田吉之輔氏寄贈資料8		2月5日	DNP	15×21cm	平面
61	岡田吉之輔氏寄贈資料9		2月5日	DNP	15×21cm	平面
62	岡田吉之輔氏寄贈資料10		2月5日	DNP	15×21cm	平面
63	岡田吉之輔氏寄贈資料11		2月5日	DNP	15×21cm	平面
64	震災写真帳		2月5日	DNP		平面
65	丹後震災慰問歌掛軸		2月6日	DNP	191×58×3cm (厚みは巻物状態)	平面 (特大)
66	震災情景図	箱	2月6日	DNP	111×18.5×15cm	平面 (大)

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 (11)京丹後市立郷土資料館／(12)京丹後市立丹後古代の里資料館

施設ヒアリング：デジタルデータの活用イメージ・アイデア

- デジタル化の進展により、学校教育での資料活用が推進されている。児童・生徒が配布端末で学習する際には、高解像度画像の整備が求められている。
- 過去に実施した古墳体験学習（出前授業）は好評であった。今後は震災をテーマとした教育事業の展開を予定している。
- 来年度は震災百年事業に向け、各種資料の活用を計画している。これまでも京丹後市内の資料館や公民館等で企画展示を実施してきた。また、現在丹後震災記念館の耐震工事を行っており、工事完了後は震災関連資料を集約して展示する予定である。その際、今回撮影したデジタル資料の活用を想定している。
- 市内でも地域によって震災に対する意識に差があり、イベント参加率に偏りが見られる。他市町との連携は限定的で、専属学芸員体制がないこともあり、事業推進が難しい面がある。
- 現在の子ども世代は丹後震災を知らない場合が多く、関連授業も減少傾向にある。語り部も減っており、震災の記憶が風化することが課題となっている。
- 一方で、古墳や遺跡をテーマとした事業は、比較的連携が進みやすい分野である。

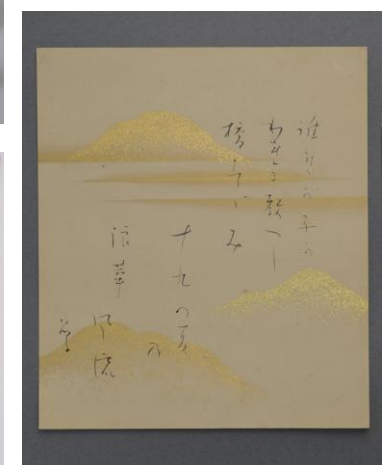
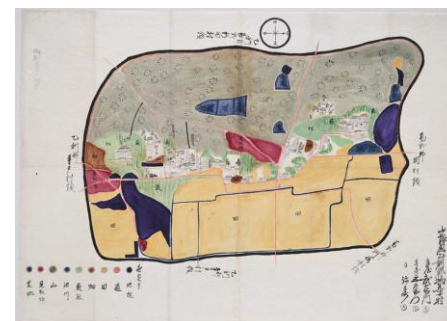
施設ヒアリング：課題

- 財政難により新規機材の購入は困難な状況である。消耗品は購入可能だが、カメラや照明機材の更新は補助金に依存している。
- デジタルアーカイブはほとんど未整備である。学芸員が必要に応じて撮影するほか、貸出や研究時に撮影された写真の提供を受ける程度にとどまっている。本来は推進したいが、時間・機材・予算のいずれも不足しており、着手する余裕がない。
- 個人所有のカメラはあるが十分活用できていない。一方で、職務用PCではPhotoshop CCを使用できる環境にある。
- 今回撮影対象としている文化財は教育委員会所管の資料であり、古代の里資料館の展示品（考古資料）というより、市内で唯一の収蔵施設として保管している資料を選定している。展示資料（考古）と収蔵資料（丹後震災関連資料）では性質が異なるが、文化遺産オンラインには当面、館所蔵品として登録する予定である。将来的には整理・見直しを検討したい。
- 行政組織は縦割りであり、教育委員会が観光分野等と連携して事業を行う機会は多くない。
- 民具は複数の廃校に分散保管している。資料数が非常に多く、一か所では収容できないためである。
- 震災遺品は、震災から数十年を経て寄贈される場合もある。家の世代交代に伴い蔵を整理する中で、廃棄か寄贈かの判断が行われ、役所へ持ち込まれるケースが多い。「震災遺品」と明記されていれば判断しやすいが、記載がない場合は貴重な資料であっても廃棄されている可能性がある。近年は寄贈件数も減少傾向にある。

2. 実地調査・実地研修・撮影の概要 全11施設における撮影結果

全11施設で合計756点の資料を撮影。

	施設名	点数
(1)	京都府立丹後郷土資料館	113
(2)	大山崎町歴史資料館	62
(3)	向日市文化資料館	62
(4)	与謝野町立江山文庫	60
(5)	与謝野町立古墳公園はにわ資料館	51
(6)	舞鶴市立赤れんが博物館	75
(7)	舞鶴市郷土資料館	70
(8)	京都府立堂本印象美術館	70
(9)	亀岡市文化資料館	59
(10)	京丹後市立郷土資料館	68
(11)	京丹後市立丹後古代の里資料館	66
	合計	756



0. 本レポートについて	p.03	3. <u>文化遺産オンライン登録の概要</u>	
1. <u>本プロジェクトの概要</u>		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. <u>全体研修の概要</u>	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. <u>現地調査・実地研修・撮影の概要（11施設）</u>		(2) 各講義概要	p.145
(1) <u>全施設共通事項</u>	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) <u>京都府立丹後郷土資料館</u>	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) <u>大山崎町歴史資料館</u>	p.38	5. <u>データ利活用プランの提言</u>	
(4) <u>向日市文化資料館</u>	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) <u>与謝野町立江山文庫</u>	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) <u>与謝野町立古墳公園はにわ資料館</u>	p.68	6. <u>次年度以降の方向性について</u>	
(7) <u>舞鶴市立赤れんが博物館</u>	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) <u>舞鶴市郷土資料館</u>	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) <u>京都府立堂本印象美術館</u>	p.99		
(10) <u>亀岡市文化資料館</u>	p.111		
(11) <u>京丹後市立郷土資料館</u>	p.121		
(12) <u>京丹後市立丹後古代の里資料館</u>	p.123		

3. 文化遺産オンライン登録の概要（1）研修の概要

マニュアル内容

■オンラインでの研修用資料

■所蔵館登録用資料

■資料リンク集とQ&A一覧

■CSV一括登録の手順まとめ資料

・ CSVデータ記載のポイント

文化遺産オンラインCSVファイルの項目構成

※最新マニュアル「文化遺産オンライン」アップデート機能 登録済品情報欄 (2023/01/11, ファイル名: 23_1_11_1.csv)

※共通注意事項: 各項目内での空白文字は半角スペースで入力してください。

項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	
文化遺産情報 CSV	所蔵品ID	名称	年代	材質	用途	登録状況	登録日時	更新日時	削除日時	バックアップ日時	復元日時	セキュリティ対策	プライバシーポリシー	お問い合わせ	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先
画像 CSV	所蔵品ID	名称	年代	材質	用途	登録状況	登録日時	更新日時	削除日時	バックアップ日時	復元日時	セキュリティ対策	プライバシーポリシー	お問い合わせ	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先
登録済品情報 CSV	所蔵品ID	名称	年代	材質	用途	登録状況	登録日時	更新日時	削除日時	バックアップ日時	復元日時	セキュリティ対策	プライバシーポリシー	お問い合わせ	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先	お問い合わせ先

3. 文化遺産オンライン登録の概要（2）登録作業の結果

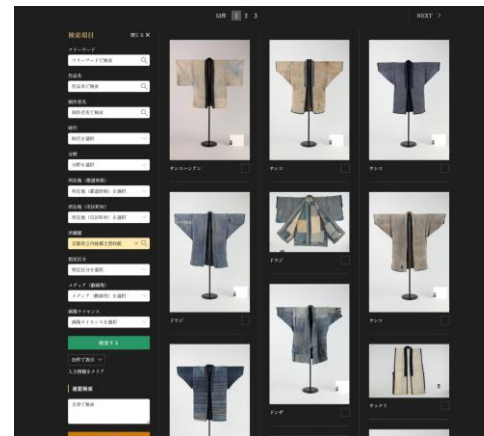
「文化遺産オンライン」への登録・公開

文化庁が運営する我が国の文化遺産についてのポータルサイト「文化遺産オンライン」は、全国の博物館・美術館等から提供された作品や文化財など、さまざまな情報が閲覧可能となっている。本事業に参加した11施設の情報および撮影データの登録・公開作業が完了した。

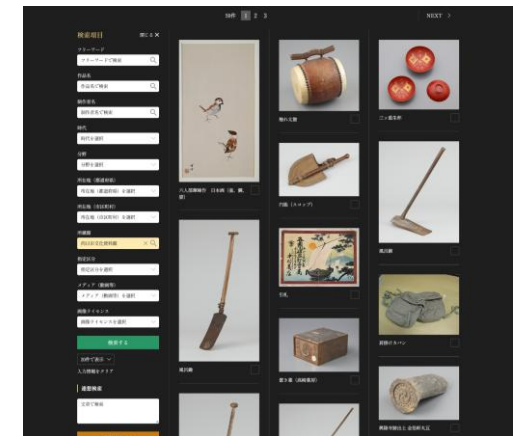
■各施設の登録点数

	施設名	公開点数 ※2026年2月27日時点
①	京都府立丹後郷土資料館	53
②	大山崎町歴史資料館	58
③	向日市文化資料館	66
④	与謝野町立江山文庫	59
⑤	与謝野町立古墳公園はにわ資料館	51
⑥	舞鶴市立赤れんが博物館	51
⑦	舞鶴市郷土資料館	77
⑧	京都府立堂本印象美術館	54
⑨	亀岡市文化資料館	58
⑩	京丹後市立郷土資料館	52
⑪	京丹後市立丹後古代の里資料館	53
	合計	632

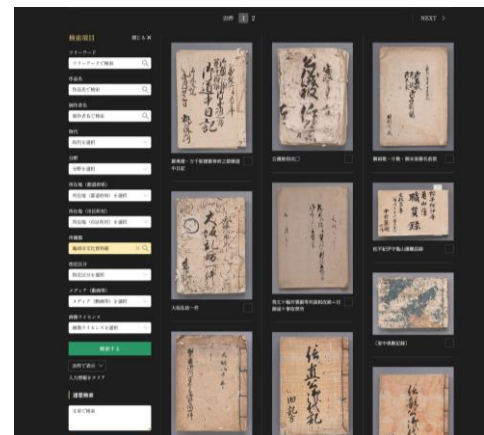
■各施設の登録画面（例）



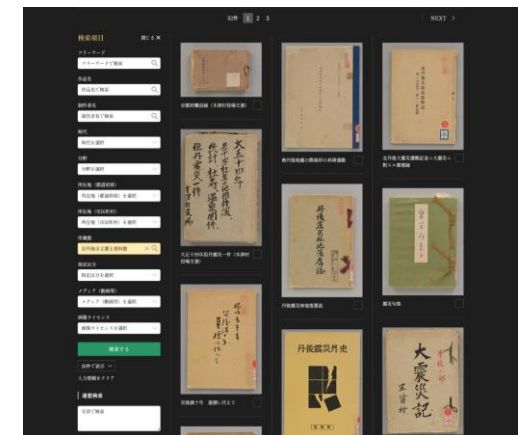
▲京都府立丹後郷土資料館



▲向日市文化資料館



▲亀岡市文化資料館



▲京丹後市立郷土資料館

0. 本レポートについて	p.03	3. 文化遺産オンライン登録の概要	
1. 本プロジェクトの概要		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. 全体研修の概要	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. 現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)		(2) 各講義概要	p.145
(1) 全施設共通事項	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) 京都府立丹後郷土資料館	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) 大山崎町歴史資料館	p.38	5. データ利活用プランの提言	
(4) 向日市文化資料館	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) 与謝野町立江山文庫	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館	p.68	6. 次年度以降の方向性について	
(7) 舞鶴市立赤れんが博物館	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) 舞鶴市郷土資料館	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) 京都府立堂本印象美術館	p.99		
(10) 亀岡市文化資料館	p.111		
(11) 京丹後市立郷土資料館	p.121		
(12) 京丹後市立丹後古代の里資料館	p.123		

4. 全体研修の概要（1）実施概要

下記の趣旨および実施概要にて全体研修を開催。

1 趣旨

- 合同研修会はミュージアムに関わる先進的な取組紹介や京都府ミュージアムフォーラム加盟施設の抱える課題解決につながる講義、グループワーク等を行うことで、加盟施設の資質向上及び今後の取り組みに向けた新たな視点の獲得を図るため、令和3年度から開催している。
- 今年度は、文化庁事業を活用して、府内11の博物館施設で取り組む「京都ミュージアム連携による博物館収蔵資料デジタルアーカイブ推進共同事業」の取組発表をするとともに、デジタルアーカイブに関わる講師による講義やワークショップを実施した。
- 全体研修を通して、参加者それぞれが自施設の状況に応じたデジタルアーカイブの意義を理解し、必要な技術・知識を身につけ、今後どのように取り組みを進めていくかを具体的に描くことができる契機とした。

2 実施概要（リアル・オンライン ハイブリッド開催）

【京都府ミュージアムフォーラム第5回合同研修会「デジタルアーカイブ全体研修」】

- 日時：令和8年2月9日（月） 10:00～16:20（受付開始9:30）
- 会場：京都府立京都学・歴彩館 小ホール（〒606-0823京都市左京区下鴨半木町1-29）
- 対象：京都府内ミュージアム関係者、石川県内博物館関係者（京都府と石川県の連携協定※による）、京都府内自治体の文化・教育担当職員
- 費用：無料（要申込）
- 主催：京都府・KYOTO地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会
- 運営：「デジタルアーカイブ全体研修」運営事務局 大日本印刷株式会社（DNP）

※：石川県との連携協定

令和5年12月4日、京都府と石川県は「文化の振興等に係る連携・協力に関する協定」を締結。博物館学芸員の交流や相互派遣等に取り組む。

4. 全体研修の概要（1）実施概要：タイムスケジュール

2026年2月9日 全体研修におけるタイムスケジュールは以下の通り。

開始予定時間	所要時間（分）	プログラム
9：30		受付開始
10：00	10	開始・ガイダンス
10：10	5	開会挨拶
10：15	10	【報告】京都府・KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会事務局/ 京都府文化生活部文化政策室 主任 中西 俊介氏 「京都連携デジタルアーカイブ事業の取組状況について」
10：25	20	【報告】大日本印刷(株)による本取組概要
10：45	25	【発表】堀内 保彦氏（NPO法人フィールド 代表） 「持続可能な資料撮影・デジタル化の方法について ～実地研修の取組から～」
11：10	40	【講義】村野 正景氏（静岡大学情報学部情報社会学科 准教授） 「これからの博物館に求められるデジタルアーカイブ ～活用を見据えたデジタル化～」
12：00	60	昼休憩
13：00	40	【講義】内田 剛史氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役） 「多様な事例から学ぶ、デジタルアーカイブの始め方と続け方」
――ZOOMによるオンライン配信は終了――		
13：40	20	ワークショップ準備時間
14：00	50	ワークショップ1回目
14：50	10	入替え（席移動）
15：00	50	ワークショップ2回目
15：50	10	入替え（席移動）
16：00	20	総括・閉会の挨拶
16：20		退出

■ワークショップテーマ

- ①博物館資料の撮影実践：堀内保彦氏
- ②3D技術を活用したデジタル資料の活用方法：村野正景氏
- ③デジタルアーカイブの教育等への活用：田尻智大氏
- ④博物館デジタルアーカイブ計画づくり：内田剛史氏

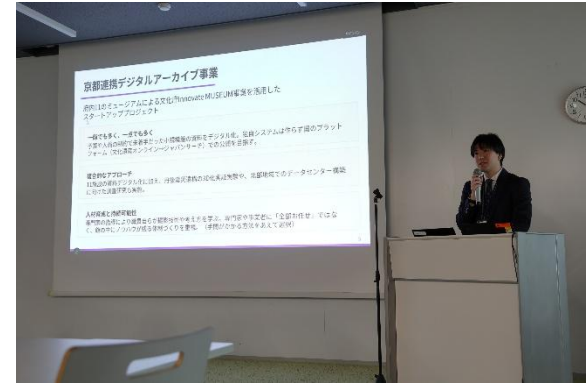
4. 全体研修の概要（1）実施概要：会場風景



▲会場の様子



▲開会のご挨拶



▲事業報告の様子



▲講義中の様子 質疑応答



▲昼食休憩中の交流



▲ワークショップのまとめ、閉会

4. 全体研修の概要（2）各講義概要：実行委員会からの報告

京都連携デジタルアーカイブ事業の取組状況についての報告

KYOTO 地域文化をつなぐミュージアムプロジェクト実行委員会事務局
/京都府文化生活部文化政策室 主任 中西俊介



京都府内11施設のミュージアムが連携し、デジタルアーカイブ事業を推進。人材育成と持続可能性を重視し、現場職員が撮影技術を学ぶ体制を構築。小規模施設であっても資料を国のプラットフォームで公開することを目指し、まずは「やってみる」精神で課題に挑戦した。

大日本印刷株式会社 富塚佑樹



11施設でのデジタルアーカイブ事業をマネジメントした内容を施設ごとに報告。職員向け研修と大量資料の効率的撮影を両立し、デジタル化を完了。現場の意欲や課題（人手・予算・機材運用）を把握し、今後も自走できる体制づくりの重要性を強調した。

4. 全体研修の概要（2）各講義概要：外部講師による講義

堀内 保彦氏 NPO法人フィールド 代表

発表：持続可能な資料撮影・デジタル化の方法について～実地研修の取組から～



学芸員が短時間で基礎画像をストックできる撮影手法を指導。フェザードライティングやテザーモード撮影、ピクセルシフト撮影など現場に即した技術を紹介。ファイル名やメタデータ管理の重要性も強調し、持続可能なデジタル化を提案した。

村野 正景氏 静岡大学 情報学部 情報社会学科 准教授

講演：これからの博物館に求められるデジタルアーカイブ～活用を見据えたデジタル化～



デジタルアーカイブは単なるデータ蓄積でなく、知識が更新され続ける公共財と捉えるべきと提言。公開は完璧を求めず、まずは目録レベルでも進め、社会と共に知識を育てる「完成させない」オープンプラットフォームの重要性を説いた。

内田 剛史氏 早稲田システム開発株式会社 代表取締役

講演：多様な事例から学ぶ、デジタルアーカイブの始め方と続け方



小規模館の現場目線で、目録作成やデジタル化の壁・継続の壁を具体的事例とともに解説。Excel活用や箱単位の目録化、公開ルールの工夫など、無理なく一歩踏み出すための実践的なアクションプラン作成の重要性を示した。

4. 全体研修の概要（3）ワークショップ概要

堀内 保彦氏 NPO法人フィールド 代表



●博物館資料の撮影実践

京都連携デジタルアーカイブ事業の現地研修で使用した撮影セットを会場内に持ち込み、11施設以外の参加施設の方にも現地研修と同様に撮影・デジタル化の方法を学ぶ体験を提供。

田尻 智大氏 大日本印刷株式会社



●デジタルアーカイブの教育等への活用

デジタル化した資料のデータの利活用方法として、主に「教育」をテーマに、多様な事例を展示と共にご紹介し、参加者の皆様に自館での具体的な活用イメージを描いていただくワークショップを実施。

村野 正景氏 静岡大学 情報学部 情報社会学科 准教授



●3D技術を活用したデジタル資料の活用方法

丹後震災遺構などの3D化データを空間再現ディスプレイで体験。さらに、簡便な3D化手法のお試し、古写真のAIを用いた映像生成、他の産業への技術展開等について紹介し、博物館におけるデジタルデータの活用について意見交換を実施。

（協力：株式会社エリジオン、株式会社N Xワンビシアーカイブズ）

内田 剛史氏 早稲田システム開発株式会社 代表取締役



●博物館デジタルアーカイブ計画づくり

自館での「デジタルアーカイブの計画づくり」について、ワークシートを用いて具体的なアクションプランを策定、参加施設の皆様と共にブラッシュアップをするワークショップを実施。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修の研修会場における参加者数は27名。

No	所属	氏名	出欠	1回目WS	2回目WS
1			○	村野氏	田尻氏
2			○	村野氏	内田氏
3			○ ※PMのみ	村野氏	内田氏
4			○ ※AMのみ	村野氏	内田氏
5			○	村野氏	堀内氏
6			○	村野氏	堀内氏
7			○	村野氏	堀内氏
8			○	田尻氏	村野氏
9			× ※オンラインに変更	田尻氏	村野氏
10			○	田尻氏	村野氏
11			○	田尻氏	内田氏
12			×	田尻氏	内田氏
13			○	田尻氏	堀内氏
14			○	田尻氏	堀内氏
15			○	内田氏	村野氏
16			○	内田氏	村野氏
17			○	内田氏	田尻氏
18			○	内田氏	田尻氏
19			○	内田氏	田尻氏
20			○	内田氏	田尻氏
21			○	内田氏	田尻氏
22			○	堀内氏	村野氏
23			○	堀内氏	村野氏

No	所属	氏名	出欠	1回目WS	2回目WS
24			○	堀内氏	村野氏
25			○	堀内氏	田尻氏
26			○	堀内氏	田尻氏
27			○	堀内氏	内田氏
28			○	堀内氏	内田氏
29			○	堀内氏	内田氏

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修のオンライン配信における参加者数は23名。

No	所属	氏名	出欠
1			○
2			×
3			×
4			○
5			○
6			○
7			×
8			○
9			○
10			○
11			○
12			○
13			○
14			×
15			○
16			○
17			○
18			○
19			○
20			×
21			×
22			○

No	所属	氏名	出欠
1			○
2			○
3			○
4			○
5			○
6			○
7			○

※事前申込の無い当日参加者(7名)

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修終了後、リアル・オンライン双方の参加者に対し、アンケート調査を実施。

1. 参加種別を教えてください。*

- 京都府ミュージアムフォーラム加盟施設
- 京博連加盟施設（京都市内博物館施設連絡協議会）
- その他ミュージアム（府内、石川県）
- 自治体関係者

2. 参加形態を教えてください。*

- 現地
- オンライン

3. 合同研修会の満足度について教えてください。*

- 非常に満足している
- 満足
- 普通
- 少し不満
- 不満

4. 質問3の理由を教えてください。*

回答を入力してください

5. 研修プログラムを次の点で評価してください。*

	とても満足	満足	やや満足	やや不満	不満	どちらとも いえない
研修時間	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
実行委員会による事業取組報告	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
発表：堀内 保彦 氏（NPO 法人フィールド 代表）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
講義：村野 正景 氏（静岡大学准教授）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
講義：内田 剛史 氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>
ワークショップ	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>	<input type="radio"/>

6. 実行委員会による取組報告や講師の発表内容に関して、ご質問・ご意見などあれば記載してください。

回答を入力してください

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果

全体研修終了後、リアル・オンライン双方の参加者に対しアンケート調査を実施。

7. 1回目に参加したワークショップを選択してください。*

- 不参加
- 堀内 保彦氏（NPO 法人フィールド 代表）のワークショップ
- 村野 正景氏（静岡大学情報学部情報社会学科 准教授）のワークショップ
- 内田 剛史氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）のワークショップ
- 田尻 智大氏（大日本印刷株式会社（DNP））のワークショップ

8. 1回目に参加したワークショップの感想・ご意見をお聞かせください。

回答を入力してください

9. 2回目に参加したワークショップを選択してください。*

- 不参加
- 堀内 保彦氏（NPO 法人フィールド 代表）のワークショップ
- 村野 正景氏（静岡大学情報学部情報社会学科 准教授）のワークショップ
- 内田 剛史氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）のワークショップ
- 田尻 智大氏（大日本印刷株式会社（DNP））のワークショップ

10. 2回目に参加したワークショップの感想・ご意見をお聞かせください。

回答を入力してください

11. 合同研修会に参加したことで、デジタルアーカイブについての理解度や取り組み意欲は高まりましたか？*

- 非常に高まった（よし、やるぞ！！）
- 高まった（なにか出来そう！）
- やや高まった（もう少し知りたいな）
- 変わらない

12. 質問11の理由を教えてください。

回答を入力してください

13. デジタルアーカイブの取り組みについて、現状最も課題に感じていることがあれば教えてください。

回答を入力してください

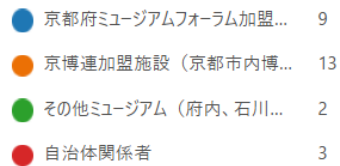
14. 今後どのような研修があれば参加したいですか？

回答を入力してください

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

アンケートは50名の参加者に対し54%の27名が回答。約89%の参加者が合同研修会について「非常に満足」「満足」と回答し、デジタルアーカイブへの理解度・取り組み意欲は100%の参加者が「非常に高まった」「高まった」「やや高まった」と回答。

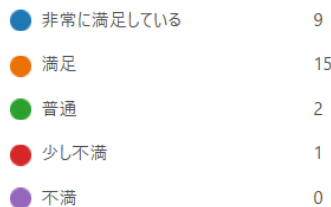
1. 参加種別を教えてください。



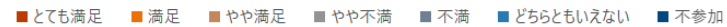
2. 参加形態を教えてください。



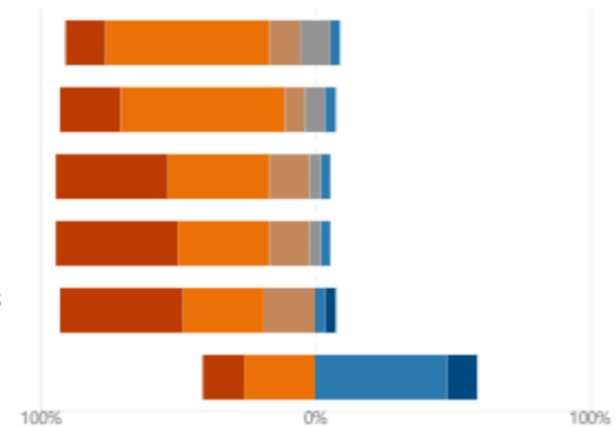
3. 合同研修会の満足度について教えてください。



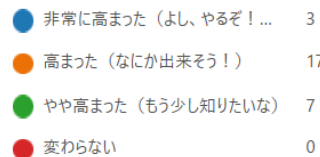
5. 研修プログラムを次の点で評価してください。



- 研修時間
- 実行委員会による事業取組報告
- 発表：堀内 保彦 氏（NPO 法人フィールド 代表）
- 講義：村野 正景 氏（静岡大学准教授）
- 講義：内田 剛史 氏（早稲田システム開発株式会社 代表取締役）
- ワークショップ



11. 合同研修会に参加したことで、デジタルアーカイブについての理解度や取り組み意欲は高まりましたか？



4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「3.合同研修会の満足度について教えてください。」の理由に関して、回答は下記の通り（1/2ページ）。

最先端の状況と今すぐできることを学べて有意義だった、など概して満足度は高いものの、専門用語が難解に感じた、レジュメが欲しいといった意見も散見された。

合同研修会の満足度について教えてください。	質問3の理由を教えてください。
満足	各専門家の先生が実際のお仕事の内容等、具体的なお話を写真つきで、要点をとらえてお話してくださったのでとてもわかりやすく、 現場での仕事の進め方を具体的に考えるよい機会となりました。 ありがとうございました。
満足	デジタルアーカイブについての知見を得られたから。
満足	ふだん触れる機会のない専門的な視点でお話いただきとても勉強になりました。
非常に満足している	私自身のデジタルアーカイブの概念が大きく変わりました。 今回の研修は県内の博物館・美術館でも恐らくニーズがある内容だと思いました。
非常に満足している	デジタルアーカイブについては、所蔵品データベースの運用やフィルム作品のデジタル化について、館の課題となっていたので、関心をもって研修会に参加させていただきました。 どの館も潤沢な予算、人員がいるわけではないという共通認識のもと、いまずすぐできることをご紹介いただけたことが有意義でした。 膨大な資料を前に立ち尽くすことも多いのですが、まずはできることから少しでも進めていくことが大切だ、という気持ちになりました。
満足	駆け足に進められた部分をもっと拝聴したかったです（堀内氏や内田氏）。専門的なお話もあり、その用語についていくことができずに 消化不良に感じた部分 もあります。
普通	まだまだデジタルアーカイブ初心者の方には、内容が 少し難しかった 気がします。デジタルアーカイブの概念的な部分の説明はもちろん必要ですが、具体的な取組事例をもう少し時間かけて説明あった方が、より実感として頭にスッと入ってきたと思います。デジタルしたくてもできない府内の施設が抱えている課題にアプローチするという点では、とてもいい気づきや前進の機会になりますし、全体的には良かったと思います。
満足	館の現状をよく把握していただいた上で、 デジタルアーカイブの最先端と今できそうなこと・しないといけないことを分かりやすく学べた 研修でした。しかし、 知らないカタカナ言葉の多さ には驚きました。いちいちスマホで検索しながらお話をうかがっていました。
非常に満足している	デジタルアーカイブの理論、手法、現状など多角的に学ぶことができた。
普通	デジタルアーカイブをはじめる際の課題感がわかったため。
満足	デジタルアーカイブを始めるための流れがよく分かりました。実際に作業されている方のお話も聞いて良かったです。
非常に満足している	新しい視点をいただけたので、非常に満足しました。 デジタルアーカイブというと、資料の写真を撮影してネット上に公開してあるものという固定観念があったことに気づかされました。そして、この考えを持っていたためにデジタルアーカイブの必要性がわかっていなかったように思います。 みんなと一緒に資料を更新していく場を整えるものと捉えられたことで、デジタルアーカイブの可能性を感じられました。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「3.合同研修会の満足度について教えてください。」の理由に関して、回答は下記の通り（2/2ページ）。

最先端の状況と今すぐできることを学べて有意義だった、など概して満足度は高いものの、専門用語が難解に感じた、レジュメが欲しいといった意見も散見された。

合同研修会の満足度について教えてください。	質問3の理由を教えてください。
非常に満足している	デジタルアーカイブの本来の趣旨、デジタルアーカイブシステムの多くの事例を把握できる、大変充実した機械となりました。
満足	アーカイブへの取り組みの現場をみることができ有意義だった。
非常に満足している	多くの事例を紹介していただき興味深かった。
非常に満足している	実地に即しており、勉強になった。
満足	もう少し交流の時間があれば嬉しく思います。 企業博物館という立場から、自治体関係者の皆さまの取り組みが大変興味深く、ぜひさらにお話を伺いたいと感じました。
非常に満足している	困りが解消できたため
非常に満足している	ワークショップで実際に作業したり、詳しい質問ができた。
満足	様々な機関の方々と出会うことが出来て良かったです。
少し不満	内田報告以外は レジュメの配布がなく、用語も難解 なため、既に知っていることが前提とされているため判りにくい。かつ、配布がないためあとで調べることも難しいため。
満足	現状が1人でスキマ時間を使いながらエクセルでデータ入力をしている状況で、今後どうしていこうかと考えていた所だったので、 講義内容が現状と重なり課題解決のヒントを得ることができました。 本当は会場で実技も行いたかったのですが、業務の都合で参加できず残念。
満足	多くの具体的な事例を交え、実際の研修内容でよかったです
満足	実務的な説明が聞けたので現地参加できて良かったです。 時間が許せば、全てのワークショップに参加したかったので、『満足』で評価しました。
満足	実際の機材も含め、より実践に即した内容のレクチャーも受けることができたから
満足	デジタルアーカイブについて、予算がないなりにどう取り組めばいいのか、方向性がなんとなく理解できた。
非常に満足している	講義では、スケジュールの立て方など、 これから実行していくためのヒントを沢山いただきました。 また、様々な施設の方と交流し状況をお聞きすることができました。
満足	参加された各ミュージアムの方々と交流ができた。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

ワークショップにおいては、参加者から下記のような意見が挙がった。

①博物館資料の撮影実践：堀内保彦氏

- ・ 深度合成のことがよくわかりました
- ・ 作業はわかりやすかったが、用語が難解だった
- ・ カメラメーカーの特色や操作方法についてとても勉強になりました。収蔵品に額装された資料があるので、その辺りのライティングや巻物の撮影方法も知れたかったです。
- ・ 自分で撮影作業を出来ると、もっとよかったが、短時間でわかりやすく教えていただけました。
- ・ 具体的に実践いただいたことで、なんとなくできそうだなという実感を持ってました。
- ・ カメラやパソコンの性能や価格など、細かいところまで聞くことができてよかった。

③デジタルアーカイブの教育等への活用：田尻智大氏

- ・ 教育等への活用に関する事例が大変参考になりました。あわせて、自然史系の事例についても知ることができて良かったです。
- ・ 印刷技術のすごさと教育普及のことがわかりました。
- ・ 魅力的な展示の実例にふれることができ、費用面などの課題はありますが今後の展示の方向づけに活かせそうです。
- ・ 博学連携は自館でも注力している取り組みであるため、興味深い内容だった。
- ・ 実践例を拜見できてとても良かったです。問題はどうか教育現場の理解を得られるかと予算面ではありますが……
- ・ webの学習用教材は、立体画像が見られたり、視覚的に時代が分かったり、何も知らなくても興味を持てる工夫がされていて、とても感心しました。webだからこそその学習アイデアだと思いました。
- ・ 新しい技術に触れて、面白く感じました。見せ方についていろいろなイメージを持てるようになりたいです。

②3D技術を活用したデジタル資料の活用方法：村野正景氏

- ・ 自分でできる簡易な3D、企業による3D、チャット、と盛りだくさんな内容でした。
- ・ 生成AIの使い方、3Dアプリの使い方など知見が広がりました。
- ・ 3Dを身近に感じる事ができ、実用性を確かめられたので、今後仕事に活かしたいと思います。ありがとうございました
- ・ 3Dスキャニングなど知ってはいたが具体的なソフトを紹介し、実際にソフトを初めて触れたのが良かった。

④博物館デジタルアーカイブ計画づくり：内田剛史氏

- ・ アクションプランの作り方を具体的にご教示いただき、現状の把握と今後の見通しを持つことができました
- ・ デジタルアーカイブを進めていくための計画を立てる難しさ、必要性を実感しました。
- ・ 自ミュージアムの収蔵品について考える良い機会になりました。細かい収蔵品が多い為、大枠でジャンル分けすることから考えることができて頭の整理ができたと思います。何から着手するか。を、これから考えたいと思います。
- ・ なるほどと思うことが沢山ありました。最初にプレスリリースをイメージすると急に現実感がわいて、できるような気がしました。
- ・ デジタルアーカイブについてアクションプランを策定する内容の研修でしたが、少し先の計画をたてることで、自分の中での目標が明確になってきたように思います。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「6.実行委員会による取組報告や講師の発表内容に関して、ご質問・ご意見などあれば記載してください。」については下記の通り。各講師の講義やワークショップの評価が高い一方で講義時間の短さが指摘され、資料配布やアーカイブ配信を要望する声が多く挙がった。また、他施設との交流を通じデジタルアーカイブが推進されることが示唆された。

- とくに内田先生のご講義が大変わかりやすく、現場職員にも伝わりやすいと感じました。府内の極小館でも共通認識が持てるとまちづくり全般に広がっていくと思われ大変興味深かったです。
- 各講師の持ち時間が限られている中で、必要事項が濃縮して詰め込まれていて、大変良かったです。
- 研修会の運営、大変おつかれさまでした。オンラインでの参加となり残念でしたが、今後ともどうぞよろしくお願いいたします。
- **もっと時間を十分に確保して、それぞれのお話を拝聴したかったです。**オンラインのためか、手元資料が、メールに添付された内容のみで、各氏の発表資料がなく、ついていくのが大変でした。資料の充実も検討いただきたいです。
- **取組報告がもう少し時間かけても良かった**と思います。デジタルアーカイブに参加していても他館の様子が具体的にわからないところがあるので、その辺り、もう少し共有があればより良かったと思います。
- さまざまな局面で「縮小」がみられ、あるいは民主主義のあり方が問われる現代において、博物館のあり方とデジタルアーカイブとの関連性について、その理念的なところを示唆するお話もあり、この点についてより深く伺いたいと感じた。
- 内田先生の講演しか聞けなかったため上記評価としました
- **内容に対して講義時間が短いからか、全体的に駆け足だった印象**です。
- デジタルアーカイブを進めるにあたって、学芸員でなければならない工程と、そうでない工程があるような気がしますので、そこを足掛かりに、自治体職員や地域のボランティア・友の会・大学生の方々と分担して人手不足が解消できたら理想的だと感じました。一方で、業務の住み分けやリスク管理の整理は必須でしょうし、本当に人手を集められるのか等々考えるべきことはまだまだ尽きませんが、本日はデジタルアーカイブと向き合う機会をつくっていただきありがとうございます。
- 府内11の博物館での取組みを見させていただき、まずは利用者としてアーカイブを楽しめたらと思いました。弊所でも昨年アーカイブを公開し、今後も資料の追加を進めていくことになっていますが、追加業務のように感じてしまい、なかなか進んでいません。様々な事例を紹介していただきたいへん参考になりました。ありがとうございます。
- **もう少し講義の発表時間があればよかった。**
- 限られた時間での発表でしたため、参考文献や事例についてあらためて拝見したく存じます。可能でしたら、スライド資料をご共有いただけますと幸いです。
- 四つのワークショップ全て参加できなかったのは残念でした。いずれも参加したいと思える内容でしたので5のワークショップの項目は満足にしました。**全て参加したいと思える内容で素晴らしい講師の方を選ばれたのがすごい**と思いました。本日はお世話になり、ありがとうございました
- 配付資料がないのであれば、後日配信などで復習出来る機会をもうけてほしい。
- デジタルアーカイブを始めるにあたって、多くの施設が同じ悩みを抱えていることを知れて、心強かったです。名刺交換することができなかった方々と今後繋がっていく為に、連絡先等開示していただくと有り難いです。長時間の研修ありがとうございました。
- 内田さんのご講演後に、目録の作成はエクセルでなくマークダウンがよいのではないかと生成AI利用の観点から質問がありましたが、マークダウン記法での目録作成のイメージがあまり湧きませんでした(利用するエディタ等も含め)。実際にマークダウンで目録を作成するなら、具体的にはどのようなソフトウェアで、どのように作成していくのでしょうか？
- **内容が充実していたが、その分時間が足らなかったように感じた。**
- 画像を登録する手順なども具体的に知りたかったです。

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「13.デジタルアーカイブの取り組みについて、現状最も課題に感じていることがあれば教えてください。」については下記の通り。予算、人材、技術、撮影環境等の課題のほか、自治体職員や組織全体としての共通認識醸成や、権利処理のハードル等の課題が浮き彫りとなった。

- 文化財保護などを担当する職員に上記の価値観（不完全なものを広く開き、みんなで作っていく）を理解していただきデジタルアーカイブへのモチベーションを高めてもらうハードルが高いと感じる。
- **予算、マンパワー、組織としての共通認識の醸成**
- 16mmフィルムの保管・デジタル化について。フィルム保管のための低温・低湿の環境の用意は難しく、収蔵庫に防湿庫を設置して保管しています。よって、長期的みるとフィルムの劣化はとめられないと思います。**フィルム作品のデジタル化を進めることが喫緊の課題**です。
- 第一に**予算**です。予算が確保できたとして、その次には**技術的な面**です。現在デジタルアーカイブを形成できる技術がありません。
- 当館の場合は、まず**機材**が必要です。来年度、カメラの購入予算がついたので、第一歩が踏み出せそうです。
- 「ショーウィンドウ」的取り組みまでたどりついていない点が課題に感じている。
- 現在、デジタルデータ（画像）の使用については、本市で設定したフローチャートに基づいた運用を各施設へ依頼しているところですが、使用の用途が明確ではない状況での自由な使用は難しいという考えから、**画像のダウンロードに制限がかかっている所蔵品が多数**あります。各施設の学芸員がデジタルデータの公開や使用に一定の理解を持っていただけるよう、今後、村野氏や内田氏などの有識者による講義やワークショップを開催していければと考えています。
- **メタデータの作成。英訳**など。
- 課題として、デジタルアーカイブを継続的に運用していくための**体制づくり**や、**AI**をどのように活用していくかが挙げられます。
- 図書・雑誌など紙資料について、どのようなシステムを使用して画像の撮影、公開をしていくのが望ましいか知りたいです。
- 開始と継続のための**資金繰りと人材の確保**
- S-NET、JSEACH等の公開プラットフォームに公開するに当たって、具体的な手続きを知りたいところ
- **周囲への理解や予算関係**
- そもそも文化財に触れる部屋においてあるパソコンがインターネットにもLGWANにも**接続できない**完全なスタンドアロンなのでデジタル化にかなり大きなハードルがある
 - ・ **人手が足りない**
 - ・ 文化財を撮影する**空間的余裕がない**
- **予算がほぼ取れない。**
- 旧字体や崩し字で手書きされたラベル情報をエクセルに入力していく作業がありますが、これを担う**人材が少ない**。年配の方は文字が読めても入力が極めて遅く、若い方は文字が読めない。
- **知識と技術**

4. 全体研修の概要（4）参加者およびアンケート結果 ※2026年2月17日時点の回答結果を基に集計しています。

「14.今後どのような研修があれば参加したいですか？」については下記の通り。デジタルアーカイブの構築・公開・活用に関するものから、AIを意識した取り組みについての興味が見られた。また、同様の研修・ワークショップを現地で受講したいという声も挙がっていた。

- 今回はオンライン参加でしたが、同様の研修やワークショップを、地域に出向いていただき担当職員や地域経営系の学生たちと一緒に受ける機会があればぜひ参加したいです。
- 発信力強化
- 紙の作品の保存修復の知識が得られる研修など。
- 国や府が奨励する事例や取組について、支援の在り方含めて、実践できると思わせてくれる内容を希望します。これからも継続し続けることができる博物館として、何ができるのか、考える機会がほしいです。
- DNPさんとフィールドさんの撮影研修の時もっと質問させていただけばよかったと後悔しています。実際の撮影の研修をお願いします。
- 今回の村野氏のような、デジタルデータの公開や使用について、知見のある有識者の方の研修があればぜひ参加したいです。
- デジタルアーカイブを継続的に運用していくための方法や、AIを活用した取り組みについて学べる研修があれば、ぜひ参加したいです。
- デジタルアーカイブの活用について
- 紙資料のデジタルアーカイブの構築に関するものなど
- 事業のために活用出来る補助金情報やシステム構築について
- AI時代を迎え、陳腐化しないデータベースづくりを知りたいです（Excelの汎用性に期待するのか、堀内さんが話されていたような写真データにIPCTタグをつける方法がよいのか？など）
- アナログ資料からデジタルへの変換をどの程度自動化できるのかも知りたいです（AIの能力は飛躍的に進展しているので古文書やくずし字の読解もできるようになってきている…）
- デジタルネイティブ、AI時代に、あえて実物、人間にしかできない博物館体験とはどういうものか？を追求するのも大事だと思います
- 博物館とコト消費にも焦点を当てていただけたら興味があります
- 目録規則に則したデータ作成
- 他機関目録データの共有や流用についての連携
- 展示の組み立て方、低予算でもできるアウトリーチの手法など
- 博物館の新設やリニューアル事業について。
- 撮りためた画像をweb公開していく具体的な手順を教えていただける研修があれば参加したいです。
- ミュージアム運営と関係する法律について

0. 本レポートについて	p.03	3. 文化遺産オンライン登録の概要	
1. 本プロジェクトの概要		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. 全体研修の概要	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. 現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)		(2) 各講義概要	p.145
(1) 全施設共通事項	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) 京都府立丹後郷土資料館	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) 大山崎町歴史資料館	p.38	5. データ利活用プランの提言	
(4) 向日市文化資料館	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) 与謝野町立江山文庫	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) 与謝野町立古墳公園はにわ資料館	p.68	6. 次年度以降の方向性について	
(7) 舞鶴市立赤れんが博物館	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) 舞鶴市郷土資料館	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) 京都府立堂本印象美術館	p.99		
(10) 亀岡市文化資料館	p.111		
(11) 京丹後市立郷土資料館	p.121		
(12) 京丹後市立丹後古代の里資料館	p.123		

5. データ利活用プランの提言（1）利活用プラン検討の概要

本事業における各施設へのヒアリング・実施状況・資料の特色等を踏まえ、デジタルアーカイブ後のデータ利活用の方向性を下記図の категорияで分類した上で、具体的なプランを検討。



図 5 デジタルアーカイブ社会のイメージ

※令和5年9月 デジタルアーカイブジャパン推進委員会実務者検討委員会（事務局 内閣府知的財産戦略推進事務局）
『「デジタルアーカイブ活動」のためのガイドライン』p.14より抜粋

5. データ利活用プランの提言（2）利活用プラン案

利活用プラン案(1/3)

	施設名	カテゴリー	利活用の目的	利活用のプラン概要	参考事例
①	京都府立丹後郷土資料館	教育	京都府内の学生に対し郷土資料を用いて丹後地域への愛着を育むとともに、府外に向けても発信を行うことで知名度向上に貢献する。	海洋センター絵画資料等の地域デジタルアーカイブを用いたデジタルコンテンツを制作し、府内教育機関等での探求学習・生涯学習に資するプログラムを組成するとともに、府外についても類似資料との繋がりを可視化することで全国的に利用可能なコンテンツを実現する。	小学校授業での活用例：伊賀市内の資料と東京の隠れたつながりをデジタルコンテンツ上で可視化するとともに、調べ学習のアウトプットツールとしても活用。 https://www.dnp.co.jp/biz/column/detail/20172299_4969.html
②	大山崎町歴史資料館	防災／教育	江戸時代から残る古絵図（地図）のデータを活用し、淀川とともに発展してきた大山崎町ならではの洪水災害や伝承されるメッセージを活かした防災教育に活用する。	古絵図デジタルデータから高精細複製画を作成、地域の学校への出前授業やワークショップで活用し、児童が現代の地図と比較するデジタル教材を作成。地域の防災教育に活用するプログラムを組成する。	山形アーカイブ：山形大学附属博物館をはじめとする山形県内の史料保存機関や、山形大学の学生で組織する「まちの記憶を残し隊」が集めたまちの「記憶」を一堂に公開するデジタルアーカイブサイトを構築。 https://cherry.yum-archives.net/yamagata-archive/
③	向日市文化資料館	教育	長岡京や向日市の成り立ちに関する歴史を伝え、地域への興味関心・誇りを醸成する。	デジタルアーカイブを活用した向日市独自の検索性を持ったデジタルアーカイブサイトを、既存の収蔵品管理システムから構築。 GIGA端末で閲覧可能な調べ学習ツールとして機能すると共に、あらゆる市民に開かれた市のプラットフォームを目指す。	川崎市デジタルアーカイブ かわさき環境100年史：川崎市の環境に関する歴史を振り返り、小学生でも分かりやすいデジタルアーカイブ含むWebサイトを構築。 https://www.digital-archive-env.city.kawasaki.jp/
④	与謝野町立江山文庫	地域活性化／教育	与謝野町内および、全国に向けて俳句文化を発信し、俳句ファンを増加させる。	屏風等のデジタルアーカイブを活用し、与謝野町内学校授業において生徒がその内容からインスピレーションを得て俳句を詠む実践を行う。またその取組を進展させ、「デジタルアーカイブ×俳句」のコンテストを実施する。	文化創造デジタル作品コンクール：岐阜女子大学 文化創造学部の主催する、地域・学校・家庭でのデジタルアーカイブ活動を通して作成したデジタル作品の優秀作を決定するコンクール。 https://dagwu.com/bsc/

5. データ利活用プランの提言（2）利活用プラン案

利活用プラン案(2/3)

	施設名	カテゴリー	利活用の目的	利活用のプラン概要	参考事例
⑤	与謝野町立古墳公園はにわ資料館	地域活性化 ／観光	隣接する古墳復元公園での体験と結びつけ、「見えない歴史をその場で理解・体感できる観光資源」へ転換し、滞在時間と再訪率を高める。	展示室では「見どころ解説」をスマートフォンで見ながら鑑賞し、屋外古墳ではQRコードでデジタルアーカイブを用い詳細解説や、出土の様子、発掘の動画などを閲覧。また、時代背景や用途をストーリーと共にスタンプラリー化する。	百舌鳥・古市古墳群「デジタルスタンプラリーイベント」：古墳群の魅力と価値を伝えるため、アプリを活用した音声解説やナビ機能で古墳を周遊するデジタルスタンプラリーを実施。 https://www.pref.osaka.lg.jp/ho-do/fumin/o070080/prs_51176.html
⑥	舞鶴市立赤れんが博物館	地域活性化 ／観光	赤れんが博物館を起点に、舞鶴市内に分散する文化・歴史資源をデジタルでつなぐことで、来館者の理解を深めるとともに、市内周遊を促進し、地域活性化や観光地としての文化発信力を高める。	赤れんが博物館の他、引揚記念館、郷土資料館、公民館、学校等有している舞鶴市の文化的・歴史的資源である所蔵品をデジタル化し、市内の観光案内施設や博物館において情報を確認できるデジタル機器を整備することで、舞鶴市内観光における回遊性を高める。	東京都昭島市アキシマエンシス郷土資料室：地域の歴史年表や地図などにデジタルアーカイブした地域の文化財や史跡を紹介するタッチパネル式ディスプレイを設置、街歩きを促すQRコードで地図や詳細情報を提供。 https://www.dnp.co.jp/biz/case/detail/20173122_4968.html
⑦	舞鶴市郷土資料館	地域活性化	収蔵庫に保管された資料を多くの方に発信し、地域の魅力再発見につなげる。	市史編纂過程でデジタル化された収蔵庫資料を用い、Web上での企画展を定期実施。毎月発行されている「郷土資料館だより」と合わせ、資料館を拠点とした魅力発信を行う。	横浜開港資料館デジタルアーカイブ：定期的な職員が「PICK UP ARCHIVE」としてテーマごとのWeb企画展を実施。 https://yokohama-archives.jp/
⑧	京都府立堂本印象美術館	観光	デジタルアーカイブを用いたコンテンツを実施し、国内外からの来館者を増加させる。	堂本印象の絵画デジタルデータを用いた、ミュージアムグッズ制作コンテンツを行う。入賞した作品はミュージアムショップで販売することで、未訪問者に向けた来館動機を醸成する。	Rijksmuseum デジタルアーカイブを用いた創作コンテスト：公開されている作品画像を素材として使用し、新しいアート、デザイン、ファッションなどの作品が制作されている。 https://museumstudies.jp/2025/10/14/museum-digital-archive-rijksmuseum-smithsonian/

5. データ利活用プランの提言（2）利活用プラン案

利活用プラン案(3/3)

	施設名	カテゴリー	利活用の目的	利活用のプラン概要	参考事例
⑨	亀岡市文化資料館	教育	メタバースの活用方法を見直し、児童に他地域との交流を生み出すとともに、不登校児の郷土への興味関心を促進する。	既存のメタバース「KAMEOKA VIRTUAL HISTORIA」をGIGA端末上で稼働するよう改修した上で、メタバース上で資料を基に他地域との交流が生み出されるイベントを実施する。また、不登校児童に対しても発信を開始しオンライン上の居場所を提供。	東京都「バーチャル・ラーニング・プラットフォーム（VLP）」事業：東京都内の自治体において、不登校児童向け3Dメタバースを構築し、子どもたちが安心して学べる場づくりに活用。 https://www.dnp.co.jp/media/detail/20175498_1563.html
⑩	京丹後市立郷土資料館	教育・防災	丹後震災の写真・資料を通じて、地域で起きた災害を「過去の出来事」ではなく「自分事」として学ぶ機会を提供する。震災遺構と組み合わせ、次世代への防災意識の継承と地域の防災力向上を図る。	震災遺構の場所と関連する被災文化財や当時の写真のデータを紐づけたマップを作る。学校の防災学習や探究学習と連動させ、デジタル端末を使った事前学習と校外学習を行う。	3.11伝承ロードマップ：3.11伝承ロード推進機構が提供。被災地や伝承施設を地図上に示し、震災の広がりや教訓を可視化する。 https://www.311densho.or.jp/introduction/index.html
⑪	京丹後市立丹後古代の里資料館	地域活性化	地域住民の力で古文書を解読し、地域の新たな魅力を発見、地域活性化につなげる。	多くの古文書を地域住民を集めて解読していく。原本には触れることができないが、デジタルアーカイブを活用し、タブレット等でページを送りながら解読していくワークショップを実施。	愛知県公文書館バーチャル文書館：所蔵資料のデジタルアーカイブを活用し、古文書解読に挑戦することが可能。 https://kobunshokan.pref.aichi.jp/vr_archive/seminar/

0. 本レポートについて	p.03	3. <u>文化遺産オンライン登録の概要</u>	
1. <u>本プロジェクトの概要</u>		(1) 研修の概要	p.138
(1) 本事業の取組方針	p.05	(2) 登録作業の結果	p.140
(2) 業務遂行体制	p.07	4. <u>全体研修の概要</u>	
(3) 全体スケジュール	p.08	(1) 実施概要	p.142
2. <u>現地調査・実地研修・撮影の概要 (11施設)</u>		(2) 各講義概要	p.145
(1) <u>全施設共通事項</u>	p.10	(3) ワークショップ概要	p.147
(2) <u>京都府立丹後郷土資料館</u>	p.25	(4) 参加者およびアンケート結果	p.148
(3) <u>大山崎町歴史資料館</u>	p.38	5. <u>データ利活用プランの提言</u>	
(4) <u>向日市文化資料館</u>	p.48	(1) 利活用プラン検討の概要	p.160
(5) <u>与謝野町立江山文庫</u>	p.59	(2) 利活用プラン案	p.161
(6) <u>与謝野町立古墳公園はにわ資料館</u>	p.68	6. <u>次年度以降の方向性について</u>	
(7) <u>舞鶴市立赤れんが博物館</u>	p.77	(1) 本事業で見えてきた課題	p.165
(8) <u>舞鶴市郷土資料館</u>	p.88	(2) 今後に向けた方向性	p.168
(9) <u>京都府立堂本印象美術館</u>	p.99		
(10) <u>亀岡市文化資料館</u>	p.111		
(11) <u>京丹後市立郷土資料館</u>	p.121		
(12) <u>京丹後市立丹後古代の里資料館</u>	p.123		

6. 次年度以降の方向性について（1）本事業で見えてきた課題

本事業の推進において、下記1～6の課題を見出した。

1. 事業スケジュールおよび進行管理

- 本事業では、当初は一定の余裕を想定していたが、各施設の希望や事情を調整する中で日程は逼迫し、施設ごとの調整に想定以上の時間を要した。
- 実地研修・撮影前の事前MTGは一部施設のみの実施にとどまった。実質5か月弱の事業期間に対し、対象は11施設、業務も多岐にわたり、全体として余裕のない進行となった。
- 「まずはやってみる」という方針のもと事業を推進したが、施設側に一定の負担が生じた側面もある。一方で、今年度の事業期間を踏まえると、やむを得ない状況もあった。
- また、事業開始時に参加施設が一堂に会する機会を設けることができなかった。事前に全体研修を実施できていれば、デジタルアーカイブの意義共有や資料選定の方向性が整理され、実地研修・撮影・文化遺産オンライン入力等の進行がより円滑となった可能性がある。

2. 参加施設の体制および人材面

- 担当者が少数の施設では業務が属人化しやすい状況が見受けられ、仮に人事異動等が生じた場合にも継続可能な体制整備が求められる。
- 撮影ノウハウを学芸員個人が習得する運用を前提とする場合、継続的な研修機会の確保が必要である。併せて、習得後に自走可能となるための支援体制についても検討が求められる。

6. 次年度以降の方向性について（1）本事業で見えてきた課題

3. 実地研修・撮影運営

（1）研修設計およびマニュアル整備

研修内容や資料の体系化について、各施設での再現性の観点から整理の余地が見られた。仕様解釈や手順理解に差異が生じる場面もあり、役割分担や判断基準の明確化が重要である。

（2）研修における準備の不足

準備段階での調整不足により、現場対応や追加作業が発生した事例があった。工程管理や役割分担の明確化により、運営の安定化を図る必要がある。

（3）研修構成

座学と実習の構成は有効であった一方、現場での定着には工夫の余地がある。参加者が主体的に一連の作業を担う工程を設けることが有効と考えられる。

（4）機材選定

各施設での機材導入には一定の負担があるため、今後の展開に向けて推奨仕様や選定基準の整理が有効である。

（5）画像管理

- 画像管理方法について一定のルールで運用したが、施設ごとの運用との整合や明確な指針提示には検討の余地がある。特に画像と資料の紐付け方法は具体例とともに示すことが重要である。

6. 次年度以降の方向性について（1）本事業で見えてきた課題

4. 連絡体制および環境整備

- 一部施設ではネットワーク環境の制約によりTeamsの利用が困難であり、メールおよび電話での対応を行った。グループウェアの導入が難しい施設もあり、代替手段の検討が必要である。
- また、レンタルPCが不要な施設がある一方で、レンタルPCのOffice未搭載によりCSVデータを確認できない事例があり、Googleスプレッドシートを用いて対応した。

5. 全体研修の運営

- ワークショップ（50分）は、参加者同士の交流時間としては十分とは言い難い面があった。
- 外部講師による講演は有意義であったが、時間が限られていたため、事前に質問を収集しておくなどの手法をとることも検討の余地がある。
- デジタルアーカイブへの取り組み状況や様々な考え方がある前提で、研修参加者の理解が深まるよう、オブザーバーとして有識者を擁立するなどし、中立的な立場で様々な意見を取りまとめ、意見を引き出すような運営手法も検討の余地がある。

6. 事業設計・評価・持続性

- 撮影点数を一律50点／施設と設定したが、資料ごとの難易度に差があり、基準の妥当性について検討の余地がある。
- 多くの施設においては、デジタル化の点数やその活用が施設におけるKPIに位置付けられていない現状を鑑みると、職員の動機付けとの連動が十分ではない状況が見受けられた。
- 事業予算と実際の投入人員・掛かった工数を踏まえると、本事業のような取り組みを今後も持続可能とするための工夫や業務の効率化が求められる。

6. 次年度以降の方向性について（2）今後に向けた方向性

本年度事業における反省点や前述の課題整理を踏まえ、次年度以降の円滑な事業推進および持続可能な体制構築に向け、以下の6点について「今後に向けた方向性」を提言する。

1

事業スケジュールおよび実施体制の再設計

事業期間と対象施設数、業務内容とのバランスを踏まえた実行可能なスケジュール設計が必要である。特に、以下の点を工程として明確に位置付けることが望ましい。

- 実地研修・撮影前の事前打合せの必須化
 - 事業開始時において、参加施設が一同に会した全体キックオフの実施
 - 資料選定のポイントおよび業務分担の事前整理
- これにより、事業意義の共有を図るとともに、後工程の円滑化を目指す。

2

参加施設体制の強化および属人化の防止

施設担当者の少人数体制や人事異動を踏まえ、業務が特定個人に依存しない体制整備が必要である。

- 必ず複数名での参加を推奨する仕組みづくり
 - 所管自治体職員等を含めた体制の構築
 - 引継ぎ可能な標準マニュアルの整備
- 組織単位での実装を前提とした体制設計が求められる。

3

研修および撮影プロセスの標準化

再現性および品質担保の観点から、以下の標準化を図る必要がある。

- 実地研修マニュアルの整備
- 画像のファイルネームおよび管理方法におけるルールの一統
- （仮称）北部データセンターにおける利用ルール策定

デジタルアーカイブに関する府独自のガイドラインの策定により、業務負担の軽減とデジタルアーカイブにおける品質の安定化を図る。

6. 次年度以降の方向性について（2）今後に向けた方向性

4

実地研修プログラムの再設計（技能定着支援型研修への転換）

知識の提供にとどまらず、技能が少しでも定着することを目指した研修プログラムの設計が求められる。

- 段階的（座学→実践→単独での実践）な研修構成
- 参加施設による実務面での連携や必要な撮影機材共有等の検討

実践経験を重視し、誰にでも分かり易く再現が可能なプログラム設計への転換が望ましい。

5

市民参画によるデジタル化推進

デジタルアーカイブの持続的推進に向けては、施設職員のみならず、市民・ボランティア・学生等を巻き込んだ取組の検討が有効である。

- 学生や地域ボランティアによる撮影補助・データ整理支援
- 大学等教育機関との連携による人材育成モデルの構築
- 市民参加型ワークショップの実施

これにより、文化資源の社会的共有を進めるとともに、将来的な担い手の育成にも資する取組となることが期待される。

6

府内施設間の交流機会の定例化

参加施設間の情報共有および相互学習を促進するため、府内施設交流の機会を定例化することが望ましい。

- 年1～2回の情報共有会の開催
- 事例発表および課題共有の場の設定
- 施設の種別・規模別の分科会形式の導入

継続的な交流により、ノウハウの蓄積と横展開を図り、府域全体としてのデジタルアーカイブ推進力を高めることが期待される。

6. 次年度以降の方向性について（2）今後に向けた方向性

本年度は、参加11施設とともに実践的な取組に挑戦し、デジタルアーカイブ推進に向けた具体的な知見と基盤を構築することができた。

これらの成果を踏まえ、次年度以降は、標準化の推進、個の取組から組織的実装への展開、定着支援の充実、さらには持続可能な推進体制の確立を図ることで、本事業を発展させていく。

<終わりに（事務局）>

本事業は、京都府が中心となり、博物館種別や地域を越えて各博物館をつなぐ体制を構築し、補助金獲得・研修・デジタル化・外部プラットフォームを活用した公開まで、まさに「0から取り組むデジタルアーカイブ」事業となった。

一方で、取組を通じて、各施設の状況の違いや推進にあたっての課題も明らかになった。

しかしながら、こうした課題自体も含めて事務局と各施設が共有し、次の取組へとつなげていくことに本事業の意義がある。

とりわけ、博物館DXについて共に考え、共有・実践する基盤を築くことが出来た点は、小規模ミュージアムが未来を切り開いていくための重要な一歩であり、今後新たな可能性を示すものと信じる。